

一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 合同調査

第8回
「高校生と保護者の進路に関する意識調査」
2017年
報告書

少子高齢化・人口減やグローバル化や情報化の進展などに伴う急激な社会変化の中で、高校生の進路観の育成、進路先の決定における保護者の関わりがますます重要になっています。行政、学校教育はむろんですが、高校生にとって最も身近な大人である「保護者」ができることは为什么呢。

高校生と保護者の進路をめぐる意識と行動の実態を調べ、両者のよりよい意思疎通のあり方を研究するとともにその成果を広く社会に提言することを目的に、一般社団法人全国高等学校PTA連合会と株式会社リクルートマーケティングパートナーズは、全国の高校生をもつ保護者とその子どもに対して、コミュニケーションの実態と様々な進路観に関するアンケート調査を2003年より隔年で実施してまいりました。その8回目となる調査の分析結果をまとめましたので、ここにご報告申し上げます。

一般社団法人全国高等学校PTA連合会
会長 牧田和樹
進路対策委員長 渡辺正和

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
まなび事業本部長 山口文洋

▼本調査や「キャリアガイダンス」に関するお問い合わせ▼
(株)リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研

<http://souken.shingakunet.com/>

※ この調査結果については、キャリア教育専門誌『キャリアガイダンス』Vol.421(リクルート)にも掲載しています。

※ 出版・印刷物等へデータ転載する際には、“一般社団法人全国高等学校PTA連合会・(株)リクルートマーケティングパートナーズ調べ”と付記していただきますようお願い申し上げます。

調査結果トピックス

Ⅰ 親子コミュニケーションの実態

- **進路について親子で「話す」割合は、高校生は79%、保護者は89%。保護者は話しているとの認識が高校生より高い。**
 - ・高校2年生の時点で、卒業後の進路について保護者との対話頻度は「よく話をする」高校生は18%、「話す・計」で79%。一方、保護者の「話す・計」は89%であり、高校生よりも保護者のほうが「話している」認識が高い。【5ページ】
- **高校生・保護者とも、85%が進路選択について「高校生自身で決めたい・決めてほしい」。**
 - ・進路選択について、高校生は「保護者の意見を少し参考にしながら、自分自身で決めたい」が54%。「できるだけ自分の意思や考えだけで決めたい」(31%)を合わせると、「自分自身・計」は85%。一方、保護者は「保護者の意見を少し参考にしながら、お子さん自身で決めてほしい」(66%)は高校生を上回るが、「子ども自身・計」の割合は高校生と同程度(85%)。【19ページ】

Ⅱ 進路・将来にまつわる考え

- **高校生・保護者とも進路に関して「役立つ資格」「収入や雇用が安定している仕事」「手に職」を望んでいる。**
 - ・進路に関する価値観について、「将来は役立つ資格を身につけたい/つけてほしい」「収入や雇用が安定している仕事をした/してほしい」「将来は手に職をつけて仕事をしたい/つけてほしい」の3項目が上位に挙がり、いずれも「そう思う・計」の割合が高校生と保護者ともに約8～9割に達する。【25～26ページ】
- **貸与型奨学金を「利用したい」割合は、高校生は32%、保護者は41%。保護者の利用意向が高校生に比べ高い。保護者の74%が、家庭の経済事情が子どもの進路決定に「影響がある」。**
 - ・貸与型奨学金制度の利用意向について、「ぜひ利用したい」高校生は9%、「利用したい・計」で32%、「考えたことがないのでわからない」が最も多く46%。一方、保護者は子どもに「ぜひ利用してほしい」が14%、「利用してほしい・計」は41%、「考えたことがないのでわからない」は24%。保護者の31%が家庭の経済事情は子どもの進路決定に「非常に影響がある」。「ある程度影響がある」を含む「影響がある・計」は74%。【32～35ページ】

Ⅲ 進路にまつわる期待と不安

- **進路を考えると、高校生の72%が「不安」。進路について親子で話す高校生は、「楽しい」が相対的に高く、前向き。**
 - ・高校生の進路を考えるとときの気持ちは「不安な気持ち」「どちらかというと不安」あわせて72%が不安を感じている。一方、「楽しい・計」は23%。進路対話頻度別にみると、話す層は話さない層に比べ「楽しい・計」の割合が高く、進路を考えることに前向きな姿勢がみられる。【37ページ】
- **未来社会について、高校生・保護者とも2013年以降「好ましい」（高校生は52%・保護者は34%）認識が増加。**
 - ・これからの社会について「とても好ましい」「まあまあ好ましい」と感じている高校生は52%、保護者は34%。2013年以降、高校生・保護者とも「好ましい」という回答が漸増傾向であり、肯定的な認識に転じつつある。
 - ・高校生が「好ましい」と思う理由としては、「AI発達による職業・雇用の喪失」「少子高齢化」を危惧する反面、「選択肢が多い」「若い人材が必要とされる」といった自分の努力しだいで未来を実現できるとする前向きな回答が挙がった。【42～43ページ】

Ⅳ 保護者の動き

- **進学先検討で重要な情報は、「進学費用」「現在の入試制度の仕組み」「将来の職業との関連」「学部・学科の内容」「就職の状況」。そのうち、「入試制度」「将来の職業との関連」「就職の状況」の取得率は2～3割程度に留まる。**
 - ・子どもの進学を希望する保護者に、重要だと思う進学情報を最大5項目まで選んでもらったところ、「進学費用」「現在の入試制度の仕組み」「将来の職業との関連」「学部・学科の内容」「就職の状況」が上位に挙がった。
 - ・これら上位の進学情報の内、「学部・学科の内容」「進学費用」については重要視する保護者の4割が取得済み。一方、「現在の入試制度の仕組み」「将来の職業との関連」「就職の状況」の取得率は2～3割程度に留まり、重要視する進学情報を充分に取得できていないことがわかる。【46～47ページ】

Ⅴ 学校での教育

- **『社会人基礎力』のうち、将来必要とされるが現在は不足している高校生の能力は、「主体性」「実行力」「発信力」。**
 - ・経済産業省で定義されている『社会人基礎力』3つの能力(12の能力要素)について、「将来必要とされる能力」を3つまで高校生に選んでもらったところ「主体性」(53%)、「実行力」(40%)、「発信力」(38%)が挙がった。同様に「現在持っている能力」について尋ねたところ、「傾聴力」(39%)、「規律性」(37%)、「柔軟性」(27%)が挙がった。
 - ・高校生が考える「将来必要とされるが、現在は不足している能力」は、「主体性」「発信力」「実行力」で必要-現状の差が顕著。
 - ・保護者にも尋ねた結果、子どもに現在不足している能力は同様に「主体性」「実行力」「発信力」だった。【52～53ページ】

Ⅵ 家庭での教育

- **保護者は、日常のコミュニケーション・行動で「意見を尊重」「自分で選択し責任をもつ」ことが大切だと言う「励ます」を7割以上が実践していると自己評価したが、高校生の実感は下回る。保護者が思うほど子どもに伝わっていない。**
 - ・高校生・保護者のそれぞれに日常のコミュニケーション・行動について12項目を呈示し、各実施状況を尋ねたところ、高校生・保護者とも「意見が尊重される・意見を尊重している」がトップに挙がったが、保護者の自己評価(76%)と高校生の実感(66%)のスコアには大きな差がある。保護者の自己評価上位の項目はいずれも高校生を上回っており、保護者が実践しているコミュニケーション・行動は、保護者が思うほど子どもに伝わっていない。【56ページ】

Ⅶ グローバル化社会・AIの普及発達に対する高校生と保護者の意識

- **高校生の将来への社会・経済のグローバル化の影響は、高校生の55%・保護者の48%が「ある」。**
AI(人工知能)などの普及・発達の高校生の将来への影響は、高校生の52%・保護者の39%が「ある」。
社会的環境の変化の影響について、高校生は保護者以上に強く捉えている。
 - ・高校生の将来に社会・経済のグローバル化の影響が「ある」と思う高校生は55%、保護者は48%。
 - ・同様に、AI(人工知能)などの普及・発達の影響について「ある」と思う高校生は52%・保護者は39%。高校生の影響への認識が保護者を大きく上回る。【67ページ・71ページ】

コンテンツ

調査概要・回答者プロフィール	4
I 親子コミュニケーションの実態	
1. 進路について話す頻度	5
2. 進路について話す内容	6
3. 進路について話さない理由	7
4. 保護者がよく使う言葉／その言葉をどう感じるか	8
5. 希望進路・進路の悩みの共有度	10
6. 保護者からのアドバイス／アドバイスして欲しい内容	12
7. 保護者がアドバイスすることの困難	13
8. 進路選択についての相談相手	15
9. 進路選択について影響を受ける人物	16
10. 目指している・あこがれている人／その理由	18
11. 希望する進路の決め方	19
12. 進路選択について保護者が取る態度	20
13. 保護者の行動・態度	21
14. 保護者にしてほしい行動・態度	22
15. 保護者にやめてほしい行動・態度	23
II 進路・将来にまつわる考え	
16. 高校卒業後の希望進路	24
17. 進路についての価値観	25
18. 将来就きたい・就いてほしい職業／その理由	29
19. 貸与型奨学金制度の利用意向	32
20. 奨学金制度に関する認知	33
21. 家庭の経済事情の進路決定への影響	35
III 進路・将来にまつわる期待と不安	
22. 進路意識と将来への自信	36
23. 進路を考えるとときの気持ち	37
24. 進路選択についての気がかり	38
25. 将来働くことについての気がかり	39
26. 未来社会への認識:これからの社会は好ましいか／その理由	42
IV 保護者の動き	
27. 進学先検討の重視点	44
28. 進学先検討で重要な情報・取得状況	46
29. 保護者の進路選択行動	49
V 学校での教育	
30. 現在持っている能力と将来必要とされる能力	52
31. 必要な能力を身につけるために有効な活動	54
VI 家庭での教育	
32. 日常のコミュニケーションや行動	56
33. なぜ学び・働くのかについての話し合い／その内容	58
34. 保護者の仕事についての会話／その内容	60
35. 高校卒業までに日常生活での自立や精神的な自立ができそうか	61
VII 学校への要望	
36. 家庭と学校の役割に関する認識	63
37. キャリア教育の認知と期待／意見・要望	64
38. 進路指導への要望／意見・要望	65
VIII グローバル化社会・AIの普及発展に対する高校生と保護者の意識	
39. 将来の進路に対するグローバル化社会の影響	67
40. グローバル社会で通用する人材になりたい(なっ)てほしいか／その理由	68
41. 子どもを留学させたいか	70
42. AI(人工知能)などの普及・発達の影響があると思うか	71

調査概要・回答者プロフィール

▶ 調査概要

- 調査実施者 一般社団法人全国高等学校PTA連合会 / 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
- 調査対象 全国の高校2年生とその保護者
全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県の公立高等学校26校
2年生2クラス分の高校生と保護者
- 調査期間 2017年9月15日～10月26日
- 調査方法 学校を通した質問紙による自記式調査
①高校生：ホームルームにてアンケートに回答
②保護者：高校生から保護者へアンケートを手渡し
③学級担任が高校生と保護者分を取りまとめ、その後学校責任者が学校分として返送
- 有効回答数 高校生1,987人 ※全問無回答1人を除く
保護者1,722人 ※全問無回答11人を除く

▶ 回答者プロフィール

【高校生】

- 性別 男子53.5% 女子44.8% (無回答1.7%)
- 所属学科 普通科75.7% 専門学科20.4% 総合学科3.8%
- 地域分布 北海道11.9% 岩手県4.0% 福島県6.5% 群馬県11.6% 東京都11.6% 長野県8.8% 岐阜県11.9%
大阪府6.7% 和歌山県3.9% 岡山県11.1% 長崎県12.1%
- 高校卒業後の希望進路
大学進学67.2% 短大進学2.8% 専門職大学進学0.5% 専門学校進学10.2%
海外の大学等への進学0.2% 就職16.8% パート・アルバイト0.1% その他0.8% (無回答1.6%)

【保護者】

- 続柄 父親12.8% 母親84.1% その他0.8% (無回答2.3%)
- 子どもの性別 男子51.7% 女子45.7% (無回答2.6%)
- 所属学科 普通科75.7% 専門学科20.3% 総合学科3.9%
- 地域分布 北海道11.9% 岩手県4.5% 福島県5.4% 群馬県12.0% 東京都9.4% 長野県8.3% 岐阜県13.0%
大阪府5.3% 和歌山県4.5% 岡山県12.0% 長崎県13.7%
- 子どもの高校卒業後の希望する進路
大学進学59.3% 短大進学2.0% 専門職大学進学0.4% 専門学校進学7.5%
海外の大学等への進学0.1% 就職10.3% その他0.3%
子どもが希望する進路なら何でもよい18.5% (無回答1.6%)

【注】

※第6回調査(2013年)は、2013年9～10月に全国の高校2年生とその保護者を対象に実施
(有効回答数:高校生2,043人／保護者1,696人)

※第7回調査(2015年)は、2015年9～10月に全国の高校2年生とその保護者を対象に実施
(有効回答数:高校生1,887人／保護者1,584人)

※報告書内の表記について

- グラフの数値は、小数点第2位以下を四捨五入して表示している
- 本文の数値は、グラフ中の数値の小数点第1位を四捨五入して記載している
- <フリーコメント>末尾カッコ内は以下の属性を表す
高校生: [都道府県/性別/希望進路]
保護者: [都道府県/続柄/子どもの性別/希望進路]

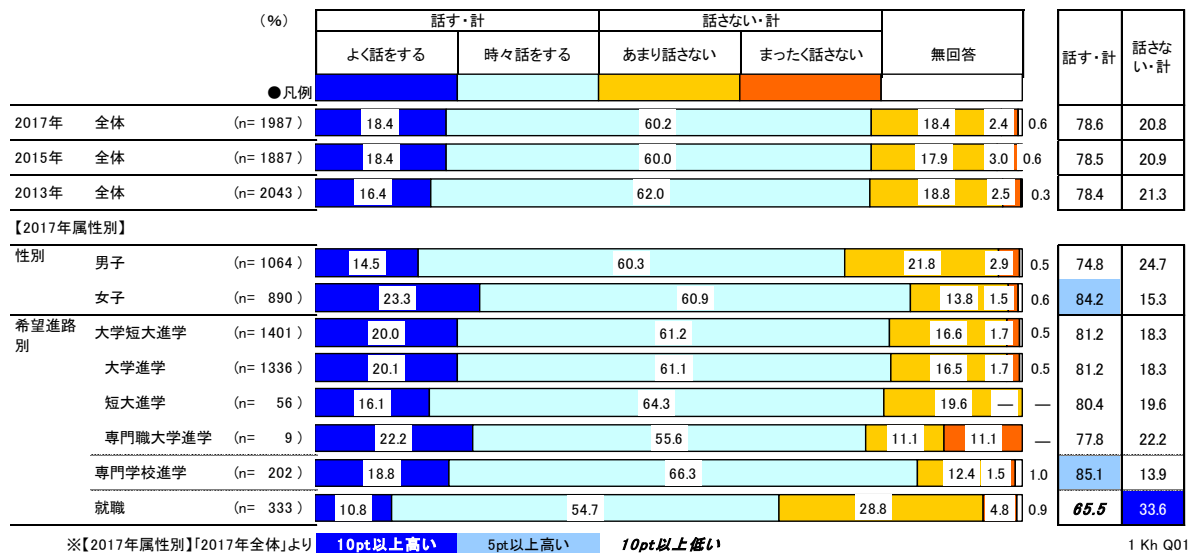
I 親子コミュニケーションの実態

1.進路について話す頻度

- ▶ 高校生の79%、保護者の89%が進路について「話す」（話す・計）。保護者の認識が高校生に比べ高い。
- ▶ 高校生・保護者とも「話す」割合は2013年以降、同程度。
- ▶ 高校生では「女子」、保護者では「母親」の「話す」割合が高い。

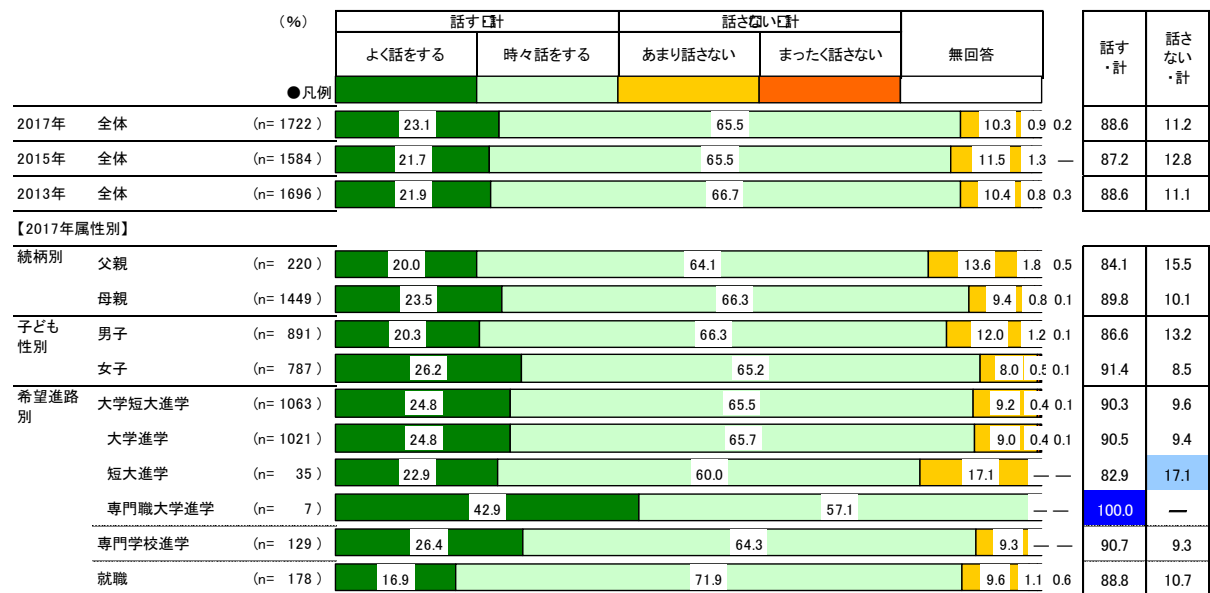
- 高校2年生の時点で卒業後の進路について保護者と話しているかという質問に、高校生の18%が「よく話をする」と回答。「時々話をする」(60%)を含め、79%が進路について会話をしている(話す・計)。
- 性別にみると、「話す・計」の割合は女子(84%)が男子(75%)よりも高い。
- 希望進路別にみると、「話す・計」は大学短大・専門学校進学希望者ではいずれも8割以上を占める。一方、就職希望者(66%)は会話をしている割合が相対的に低い。
- 同様に、保護者にも子ども(高校生)と話しているかと尋ねたところ、23%が「よく話をする」と回答。「時々話をする」(66%)を含む「話す・計」(89%)は、高校生の回答を上回る。
- 続柄別にみると、「話す・計」の割合は母親(90%)が父親(84%)よりも高い。
- 子どもの性別にみると、「話す・計」の割合は女子(91%)が男子(87%)よりもやや高い。

【高校生】進路についての話を保護者としているか（全体／単一回答）



1 Kh Q01

【保護者】進路についての話を子どもとしているか（全体／単一回答）



1 Hh Q01

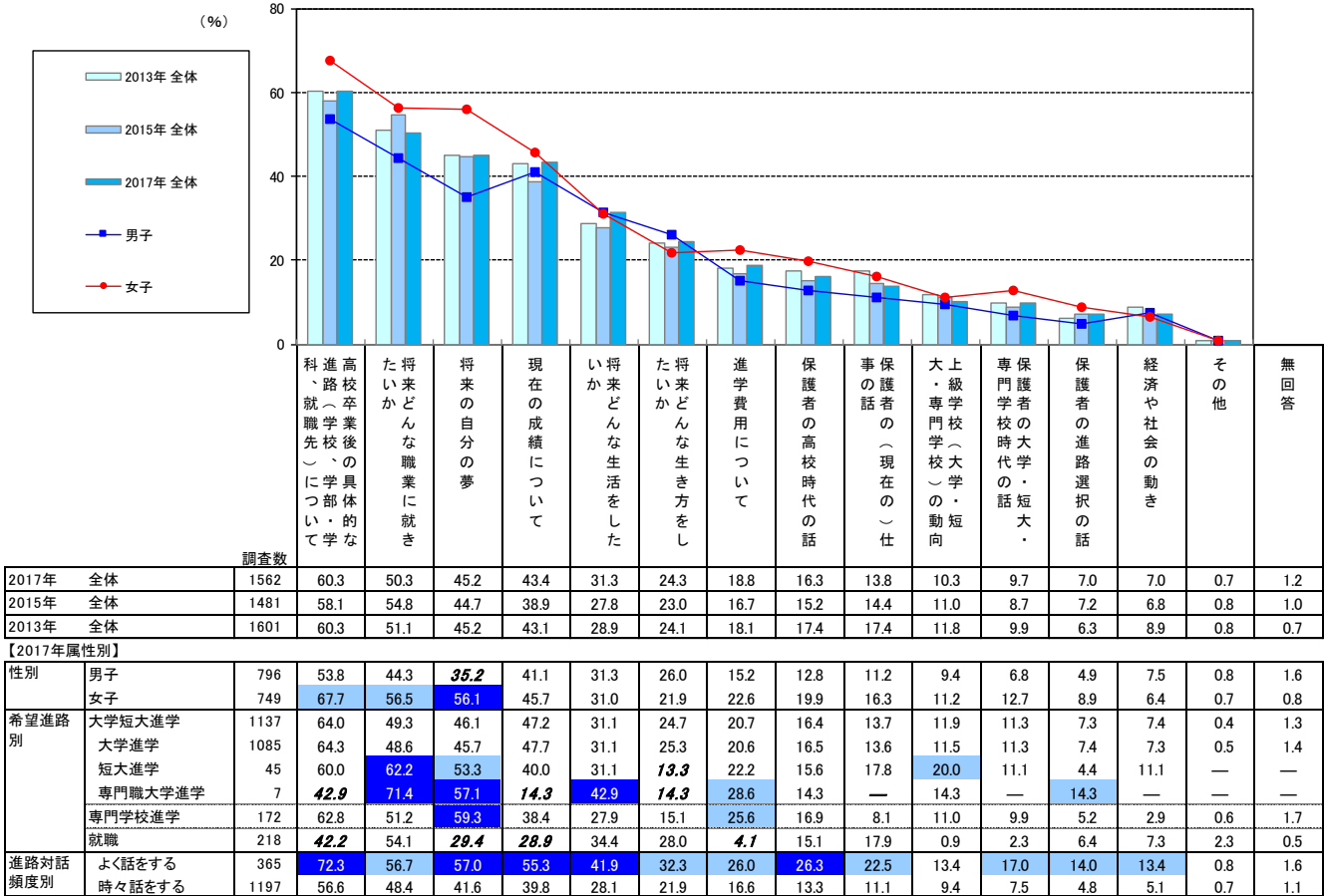
2.進路について話す内容

▶ 進路について話す内容は、「卒業後の具体的な進路について」が6割。

- ① 高校卒業後の具体的な進路について (60%)
- ② 将来どんな職業に就きたいか (50%)
- ③ 将来の自分の夢 (45%)
- ④ 現在の成績について (43%)
- ⑤ 将来どんな生活をしたいか (31%)

- 5ページの『卒業後の進路について保護者と話しているか』に「会話がある」「よく話をする」～「時々話をする」と回答した高校生に、どんな話をしているかすべて選んでもらった。回答上位は上記の通り。
過去調査結果と比較して、上位の顔ぶれは変わらない。
- 性別にみると、女子は男子に比べスコアが高い項目が多く、会話の内容が幅広い。特に「高校卒業後の具体的な進路について」「将来どんな職業に就きたいか」「将来の自分の夢」は男子を大きく上回る。
- 希望進路別にみると、大学短大進学・専門学校進学希望者のトップは「高校卒業後の具体的な進路について」、就職希望者は「将来どんな職業に就きたいか」がそれぞれトップ。
- 進路対話頻度別(5ページの『卒業後の進路について保護者と話しているか』の回答別)にみると、全項目で「よく話をする」層のほうが「時々話をする」層よりもスコアが高く、会話頻度が高い高校生ほど進路について会話する内容が幅広いことがわかる。

【高校生】 進路について保護者とどんな話をしているか（よく話をする～時々話をする／複数回答）



調査数		科、進路、就職先（卒業後の具体的な進路について）	高校卒業後の具体的な進路について	将来どんな職業に就きたいか	将来の自分の夢	現在の成績について	将来どんな生活をしたいか	将来どんな生き方をしたいか	進学費用について	保護者の高校時代の話	保護者の（現在の）仕事の話	大・中・小・専門学校（大学・短大・専門学校）の時代の話	保護者の大学・短大・専門学校の時代の話	保護者の進路選択の話	経済や社会の動き	その他	無回答
2017年	全体	1562	60.3	50.3	45.2	43.4	31.3	24.3	18.8	16.3	13.8	10.3	9.7	7.0	7.0	0.7	1.2
2015年	全体	1481	58.1	54.8	44.7	38.9	27.8	23.0	16.7	15.2	14.4	11.0	8.7	7.2	6.8	0.8	1.0
2013年	全体	1601	60.3	51.1	45.2	43.1	28.9	24.1	18.1	17.4	17.4	11.8	9.9	6.3	8.9	0.8	0.7

【2017年属性別】																	
性別	男子	796	53.8	44.3	35.2	41.1	31.3	26.0	15.2	12.8	11.2	9.4	6.8	4.9	7.5	0.8	1.6
	女子	749	67.7	56.5	56.1	45.7	31.0	21.9	22.6	19.9	16.3	11.2	12.7	8.9	6.4	0.7	0.8
希望進路別	大学短大進学	1137	64.0	49.3	46.1	47.2	31.1	24.7	20.7	16.4	13.7	11.9	11.3	7.3	7.4	0.4	1.3
	大学進学	1085	64.3	48.6	45.7	47.7	31.1	25.3	20.6	16.5	13.6	11.5	11.3	7.4	7.3	0.5	1.4
	短大進学	45	60.0	62.2	53.3	40.0	31.1	13.3	22.2	15.6	17.8	20.0	11.1	4.4	11.1	—	—
	専門学校進学	7	42.9	71.4	57.1	14.3	42.9	14.3	28.6	14.3	—	14.3	—	14.3	—	—	—
	専門学校進学	172	62.8	51.2	59.3	38.4	27.9	15.1	25.6	16.9	8.1	11.0	9.9	5.2	2.9	0.6	1.7
進路対話頻度別	就職	218	42.2	54.1	29.4	28.9	34.4	28.0	4.1	15.1	17.9	0.9	2.3	6.4	7.3	2.3	0.5
	よく話をする	365	72.3	56.7	57.0	55.3	41.9	32.3	26.0	26.3	22.5	13.4	17.0	14.0	13.4	0.8	1.6
	時々話をする	1197	56.6	48.4	41.6	39.8	28.1	21.9	16.6	13.3	11.1	9.4	7.5	4.8	5.1	0.7	1.1

※ 「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

3.進路について話さない理由

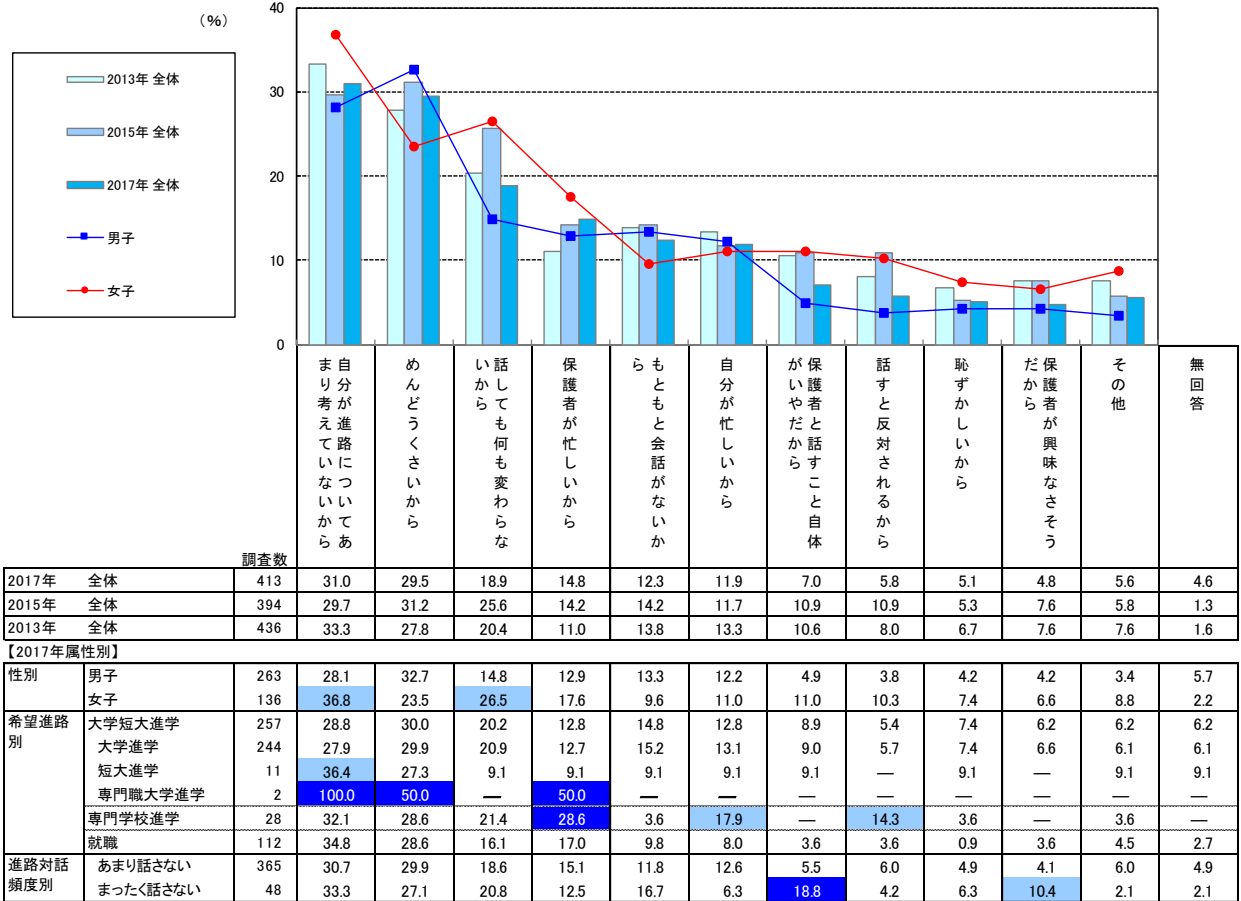
▶ 進路について話さない理由は、「自分が進路についてあまり考えていないから」「めんどくさいから」。

- ①自分が進路についてあまり考えていないから (31%)
- ②めんどくさいから (30%)
- ③話しても何も変わらないから (19%)
- ④保護者が忙しいから (15%)
- ⑤もともと会話がないから (12%)

●5ページの『卒業後の進路について保護者と話しているか』に「会話がない」「あまり話をしない」～「まったく話さない」と回答した高校生に、その理由をすべて選んでもらった。回答上位は上記の通り。
過去調査結果と比較すると、2015年に1位の「めんどくさいから」は減少し、2位の「自分が進路についてあまり考えていないから」が微増したことで順位が入れ替わった。3位の「話しても何も変わらないから」は、2015年には増加したが、2013年度と同程度に減少した。

●男子は「めんどくさいから」(33%)、女子は「自分が進路についてあまり考えていないから」(37%)がそれぞれトップ。女子は男子に比べ「話しても何も変わらないから」「保護者と話すこと自体がいやだから」「話すと反対されるから」といった保護者の反対・無関心な態度による理由のスコアが高い。

【高校生】 進路について保護者と話さない理由（あまり話さない～まったく話さない／複数回答）



※「2017年全体」降順ソート

※【2017年属性別】

100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

4. 保護者がよく使う言葉／その言葉をどう感じるか

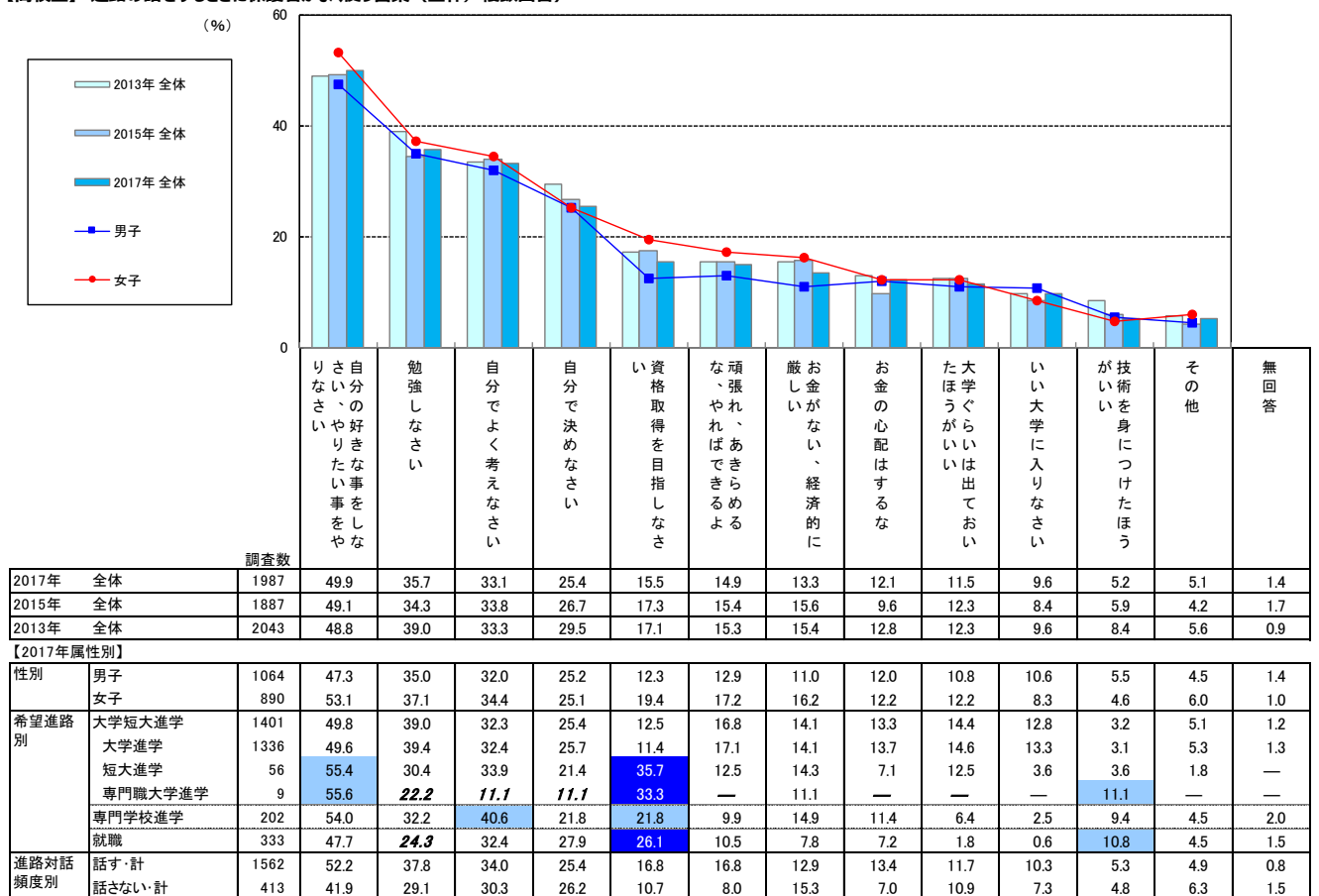
▶ 進路の話をするとき保護者がよく使う言葉について、高校生の認識は「自分の好きな事をしなさい」がトップ。

- ① 自分の好きな事をしなさい、やりたい事をやりなさい (50%)
- ② 勉強しなさい (36%)
- ③ 自分でよく考えなさい (33%)
- ④ 自分で決めなさい (25%)
- ⑤ 資格取得を目指しなさい (16%)

▶ 「自分で…」と高校生に委ねられる言葉については、ポジティブに捉える意見がある一方で、アドバイスが欲しい・自分で決めることに不安を感じるといった意見も挙がった。

- 進路の話をするとき保護者はどんな言葉を使うか、高校生と保護者に尋ねたところ、高校生の回答上位は上記の通り。過去調査結果と比較して上位項目の顔ぶれは変わらない。
- 男女ともトップは「好きな事をしなさい」。全般に女子のスコアが男子よりも相対的に高い項目が多く、「資格取得」「お金がない」など使われる言葉が幅広い。

【高校生】 進路の話をするとき保護者がよく使う言葉（全体／複数回答）



※「2017年全体」降順ソート

※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

4 Kh Q02

<フリーコメント> 保護者の言葉をどう感じるか【高校生】

■自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい

- 自分のやりたいことができるように今の過ごし方を見直したい。自分の意見を尊重してくれているので、手伝いや何かで感謝を伝えたり表わしたい。[岡山県/男子/大学]
- 好きなことをやれと言ってきて嬉しい反面、もう少し母親の意見も聞いてみたいと思う。[北海道/女子/大学]

■勉強しなさい

- 自分では頑張っているのに成績が伴っていないので少し不満になる。[福島県/女子/短期大学]
- 勉強しないこと前提で言うので、どれだけ抗議しても嘘扱いされて腹が立つ 信頼されてない。[和歌山県/女子/大学]

■自分でよく考えなさい

- 最終的に進路を決めるのは、親でも先生でもなく、自分なんだと改めて感じる。[岡山県/男子/大学]
- 自分はよく考えているけど、わからなくて相談しているのにこの言葉を言われると不安になる。[長野県/女子/専門学校]

■自分で決めなさい

- もっと色々調べる必要がある 積極的になる必要がある もう少し相談にのってほしい。[岩手県/女子/大学]

■資格取得を目指しなさい

- 資格を取れば職業が決まる→勉強しよう。[北海道/男子/大学]

▶ 進路の話をするときによく使う言葉について、保護者自身の認識も「自分の好きな事をしなさい」がトップ。

- ①自分の好きな事をしなさい、やりたい事をやりなさい (56%)
- ②自分でよく考えなさい (50%)
- ③資格取得を目指しなさい (33%)
- ④自分で決めなさい (29%)
- ⑤勉強しなさい (28%)

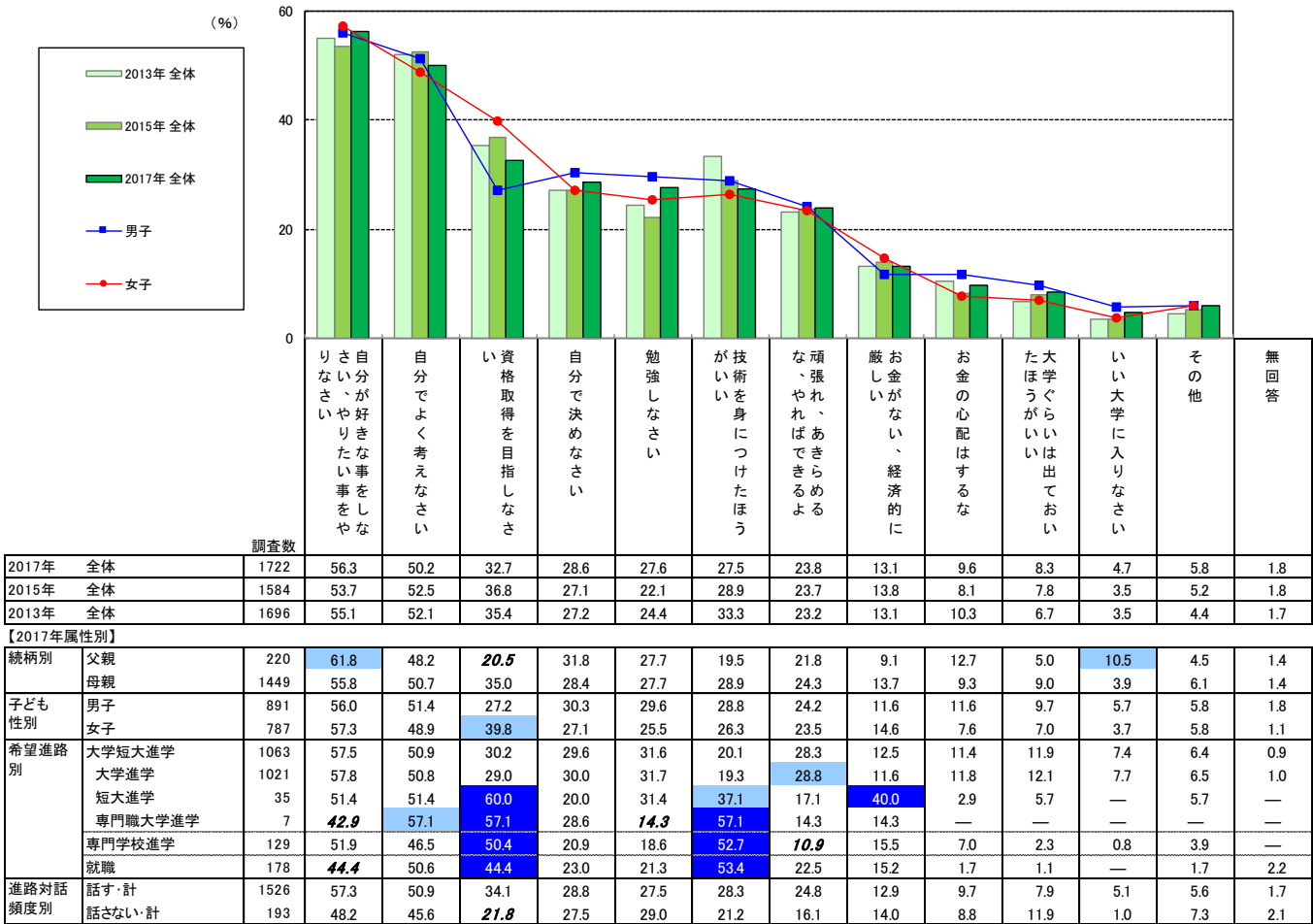
- 保護者の回答上位は上記の通り。2015年から「勉強しなさい」のスコアが増加し、「技術を身につけたほうがいい」と僅差で順位が入れ替わった。
- 続柄別にみると、父親は「自分が好きな事」、母親は「資格取得」のスコアがそれぞれ相対的に高い。
- 子ども性別にみると、「資格取得」のスコアは女子(40%)が男子(27%)を大きく上回る。
- 希望進路別にみると、進路先により順位・スコアに差がある。大学短大進学では「自分の好きな事」がトップだが、専門学校進学・就職希望者では「技術」がトップ。

▶ 高校生・保護者ともトップは「自分の好きな事をしなさい」だが、スコアをみると保護者の認識がより高い。

▶ 一方、「勉強しなさい」は保護者の認識以上に高校生は認識。
「資格取得」「技術」については保護者が伝えていると認識しているほど子どもに届いていない。

- 「勉強しなさい」は、高校生では2位(36%)だが保護者では5位(28%)。高校生が感じるほど、保護者は話しているとは認識していない。
- 一方、保護者の上位項目のうち、「自分の好きな事」「自分でよく考えなさい」「資格取得を目指しなさい」および「技術を身につけたほうがいい」は、いずれも保護者のスコアが高校生を上回っており、両者の認識には差がある。

【保護者】子どもと進路の話をするときによく使う言葉（全体／複数回答）



※「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

5. 希望進路・進路の悩みの共有度

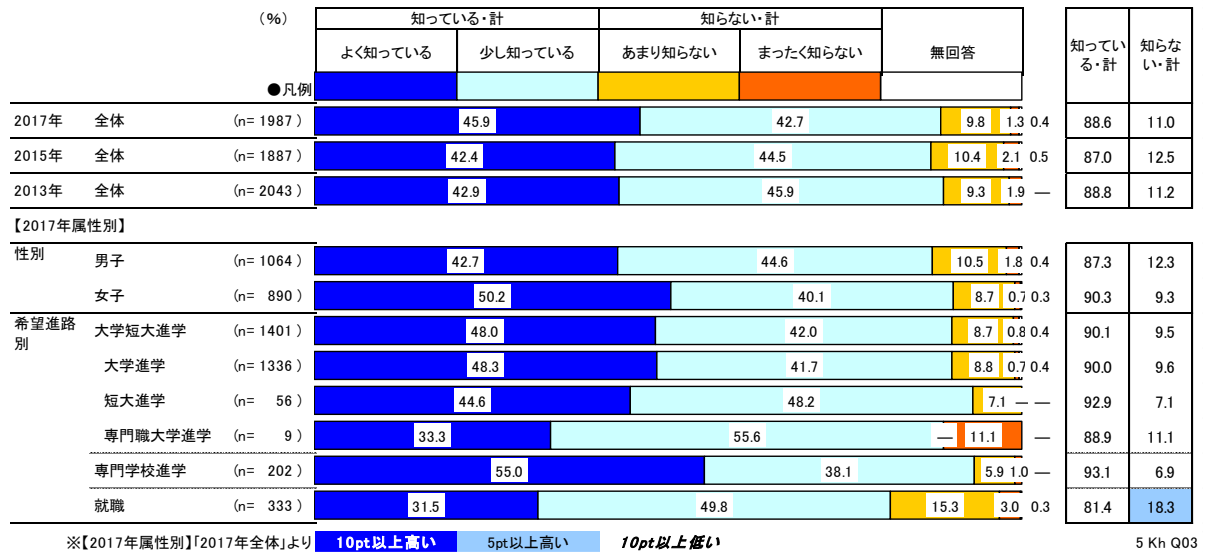
1) 希望進路の共有度

▶ 高校生の89%、保護者の91%が希望進路や進路に対する考えを「知っている」（知っている・計）。

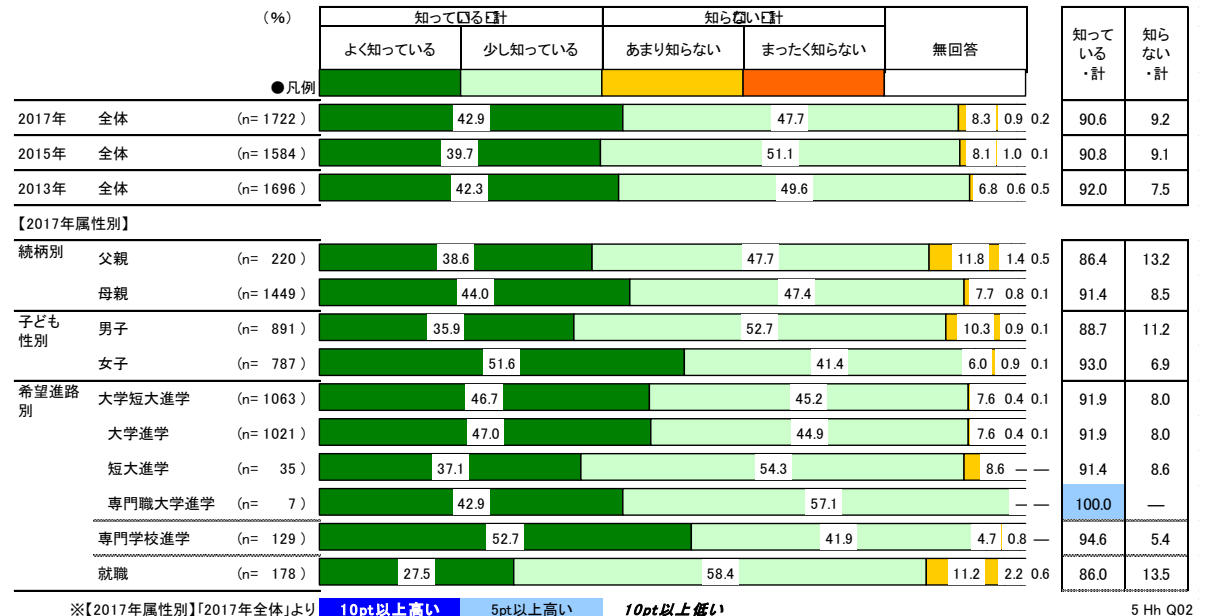
▶ 高校生・保護者とも「知っている」割合は、2013年以降同程度で推移。

- 高校生の希望進路や進路についての考えを保護者はどの程度知っているかという質問に、高校生の46%が「よく知っている」と回答。「少し知っている」(43%)を含め、89%が考えを共有している(知っている・計)。
- 性別にみると、「知っている・計」の割合は女子(90%)が男子(87%)よりもやや高い。
- 希望進路別にみると、「話す・計」は大学短大進学・専門学校進学希望者ではいずれも9割以上を占める。一方、就職希望者(81%)の共有度は相対的に低い。
- 同様に、保護者にも子ども(高校生)の希望進路や考えを知っているか尋ねたところ、43%が「よく知っている」。「少し知っている」(48%)を含め、「知っている・計」は91%。高校生の回答と同程度。
- 続柄別にみると、「知っている・計」の割合は母親(91%)が父親(86%)よりも高い。
- 子ども性別にみると、「知っている・計」の割合は女子(93%)が男子(89%)よりもやや高い。

【高校生】 希望進路や進路に対する考えを保護者は知っているか（全体／単一回答）



【保護者】 子どもの希望進路や、進路に対する考えを知っているか（全体／単一回答）



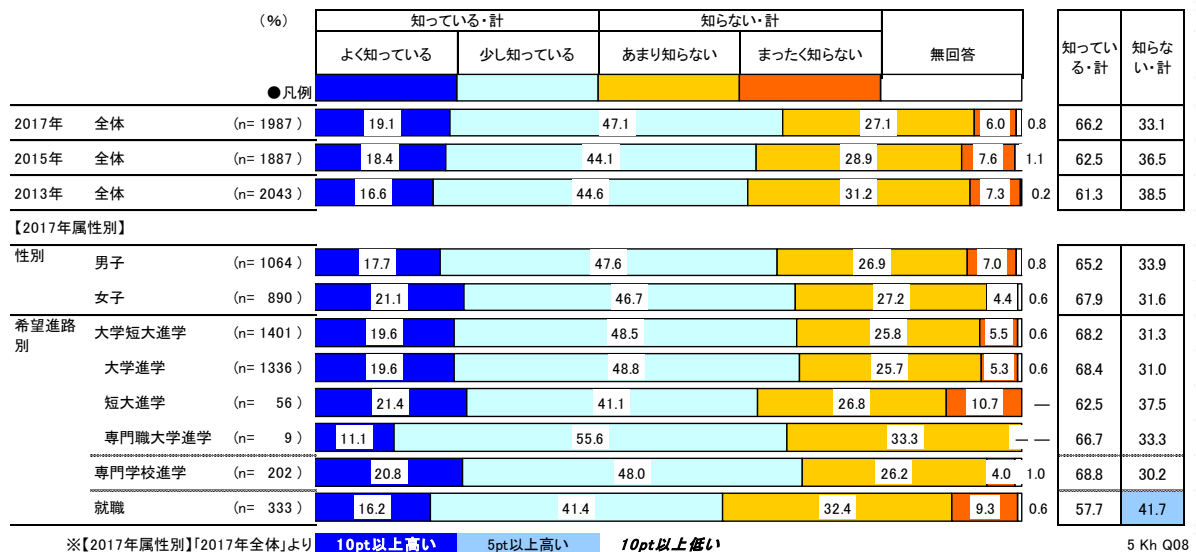
2) 進路選択の不安の共有度

▶ 高校生の66%、保護者の69%が進路選択の悩みや不安を「知っている」。

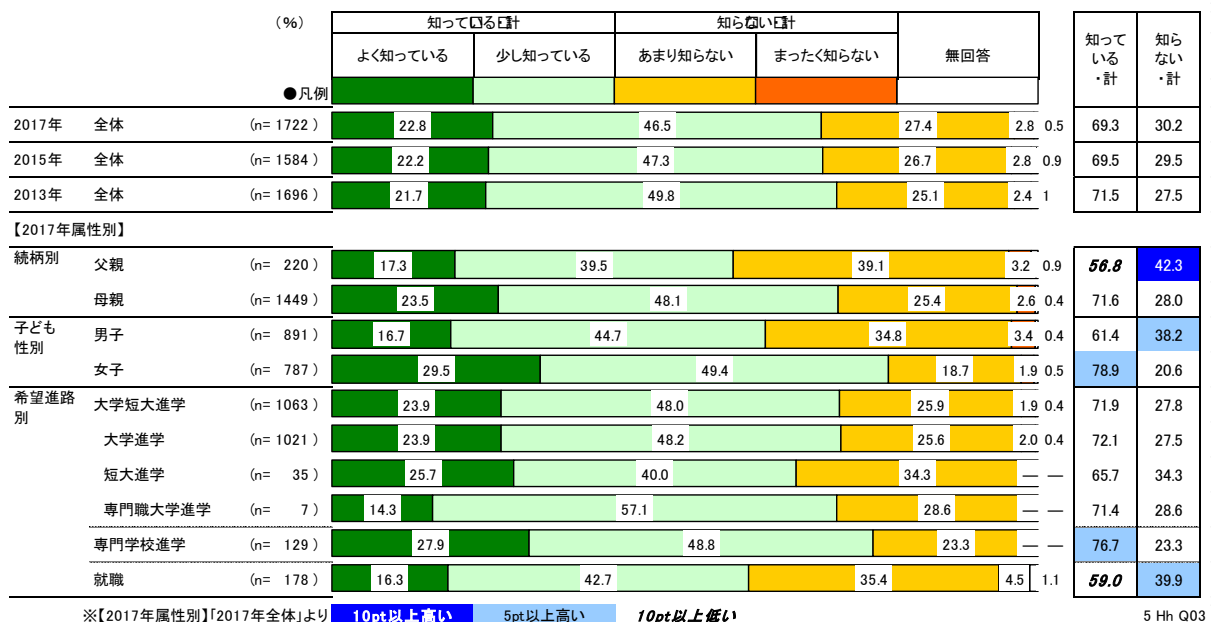
▶ 高校生における「知っている」割合は漸増傾向。高校生・保護者の認識差は縮まりつつある。

- 高校生の進路選択の悩みや不安を保護者はどの程度知っているかという質問に、高校生の19%が「よく知っている」と回答。「少し知っている」(47%)を含め、66%が共有(知っている・計)。過去調査結果と比較すると「知っている・計」の割合は増加傾向がみられる。
- 性別にみると、「知っている・計」の割合は女子(68%)が男子(65%)よりもやや高い。
- 希望進路別にみると、「知っている・計」のスコアは大学短大進学・専門学校進学希望者では約7割を占めるが、就職希望者(58%)の共有度は相対的に低い。
- 一方、保護者は、子ども(高校生)の進路選択の悩みや不安を23%が「よく知っている」と回答。「少し知っている」(47%)を含め、「知っている・計」は69%。10ページの『希望進路の共有度』と同様、高校生の回答と同程度。
- 続柄別・子ども性別にみると、10ページの『希望進路の共有度』と同様、父親(57%)よりも母親(72%)、男子(61%)よりも女子(79%)のほうが「知っている・計」の割合が高く、共有度が高い。

【高校生】 保護者は進路選択の悩みや不安を知っているか（全体／単一回答）



【保護者】 子どもの進路に関する悩みや不安を知っているか（全体／単一回答）

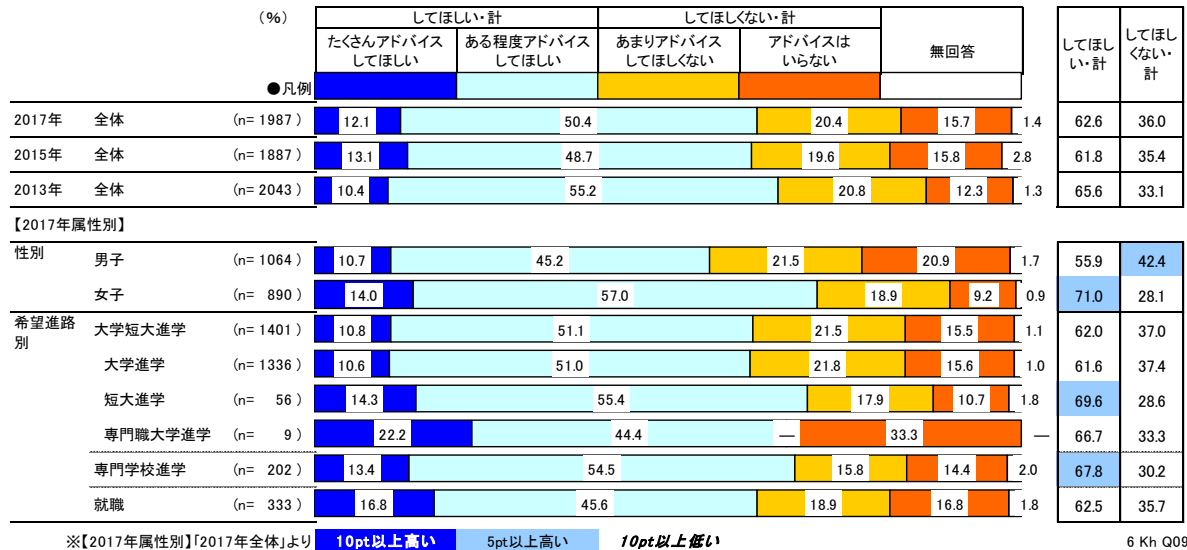


6.保護者からのアドバイス／アドバイスしてほしい内容

▶ 高校生の63%が、保護者にアドバイスを「してほしい」。保護者の79%が、相談・アドバイスを「している」。

- 進路選択について保護者からアドバイスしてほしいかという質問に、高校生の12%が「たくさんアドバイスしてほしい」。「ある程度アドバイスしてほしい」(50%)を含め、63%が保護者からのアドバイスを必要とする(してほしい・計)。
- アドバイスしてほしい内容や理由を書いたところ、「してほしい」理由としては「自信がつく」、「してほしいない」理由としては「自分で決めたい」「干渉しないでほしい」といった意見が挙がった。
- 一方、保護者に子どもの相談に乗ったりアドバイスしているか尋ねたところ、23%が「よくしている」。「少ししている」(56%)を含め、79%がアドバイスをしている(している・計)。保護者の認識が高校生の回答を上回る。
- 続柄別にみると、「している・計」の割合は母親(80%)が父親(73%)よりも高い。

【高校生】 進路選択に際して、保護者にアドバイスしてほしいか（全体／単一回答）



<フリーコメント> 保護者にアドバイスしてほしい内容や理由【高校生】

■たくさんアドバイスしてほしい

- 自分よりも社会の事を知っているし、一番近くで私を客観的に見てくれているのは両親だからです。[福島県/女子/大学]
- 自身の高校時代のアドバイスをしてほしい。自信がつくようなアドバイスをしてほしい。[群馬県/男子/大学]

■ある程度アドバイスしてほしい

- 最後は自分で決めたいので少しだけアドバイスしてほしい。[長野県/男子/大学]

■あまりアドバイスしてほしくない

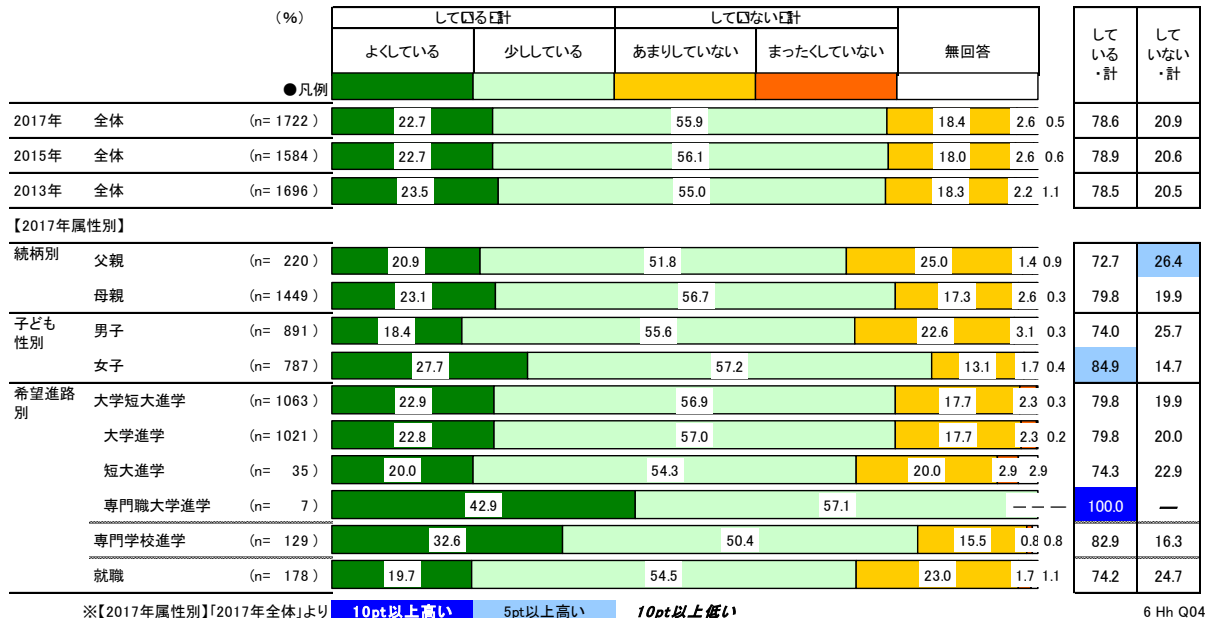
- 今まで親に質問してばかりだったから、少しでも自分の力で選べるようになりたい。[東京都/男子/大学]

- 親の言いなりになりたくない。[群馬県/女子/大学]

■アドバイスはいらない

- 自分に干渉しないでほしい。親に言われるとストレスでしかない。[群馬県/男子/大学]
- 全て自分で考えているから。[大阪府/女子/専門学校]

【保護者】 子どもの進路に関する悩みや不安について、相談に乗ったりアドバイスしているか（全体／単一回答）



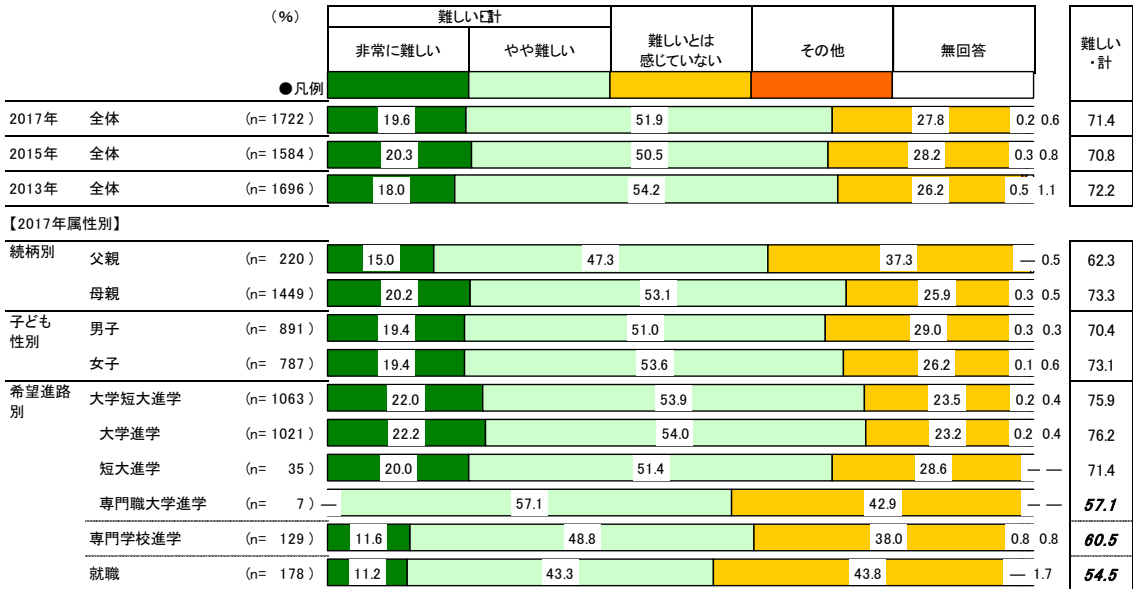
7.保護者がアドバイスすることの困難

1) 子どもの進路選択についてアドバイスすることは難しいか

▶保護者の71%が進路選択について子どもにアドバイスすることは「難しい」。

- 12ページで保護者に子どもの進路選択について『子どもの相談に乗ったりアドバイスしているか』実施状況を尋ねたが、あわせてアドバイスすることの難しさの程度を質問した。「非常に難しい」が20%、「やや難しい」(52%)を含む「難しい・計」は71%。過去調査結果と比較すると、2013年以降「難しい・計」は同程度。
- 続柄別にみると、「難しい・計」の割合は母親(73%)が父親(62%)を大きく上回り、母親は父親に比べ「難しい」と感じながらアドバイスしていることがわかる。
- 子ども性別にみると、「難しい・計」の割合は女子(73%)が男子(70%)に比べやや高い。
- 希望進路別にみると、「難しい・計」の割合は大学短大進学希望者(76%)で最も高く、専門学校進学希望者(61%)、就職希望者(55%)に比べアドバイスすることを難しいと感じている。

【保護者】 進路選択について子どもにアドバイスすることは難しいか（全体／単一回答）



※【2017年属性別】「2017年全体」より 10pt以上高い 5pt以上高い 10pt以上低い

2) 子どもの進路選択についてアドバイスすることが難しい理由

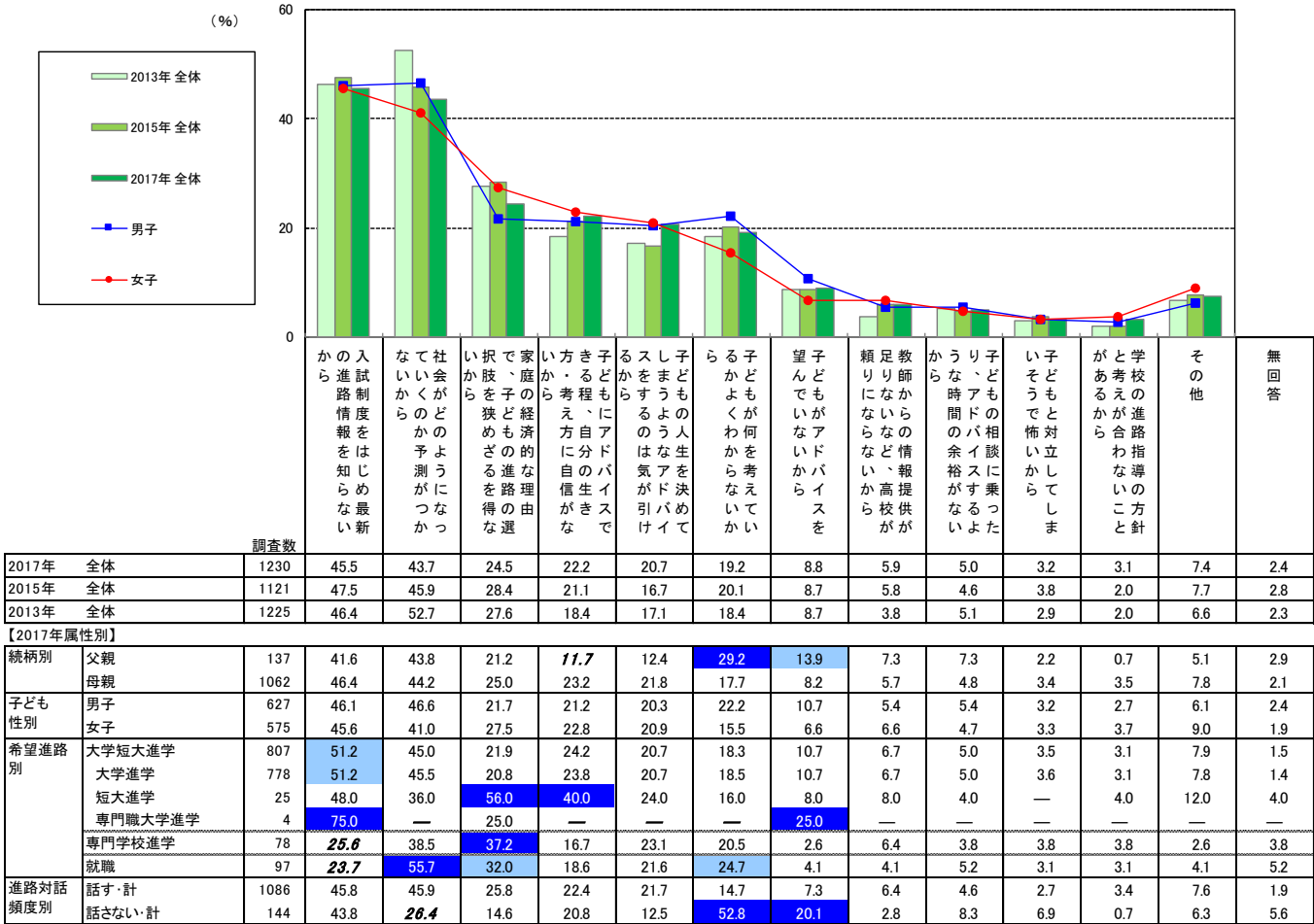
▶ アドバイスが難しい理由のトップは、保護者が「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」。

- ①入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから (46%)
- ②社会がどのように変わっていくのか予測がつかないから (44%)
- ③家庭の経済的な理由で、子どもの進路の選択肢を狭めざるを得ないから (25%)
- ④子どもにアドバイスできる程、自分の生き方・考え方に自信がないから (22%)
- ⑤子どもの人生を決めてしまうようなアドバイスをするのは気が引けるから (21%)

●13ページの『進路選択について子どもにアドバイスすることの難しさ』について「難しい」「非常に難しい」～「やや難しい」と回答した保護者に、その理由をすべて選んでもらった。回答上位は上記の通り。
過去調査結果と比較すると、2013年にトップの「社会がどのように変わっていくのか予測がつかないから」は漸減傾向。一方、5位の「子どもの人生を決めてしまうようなアドバイスをするのは気が引けるから」が2015年に比べ微増した。

●続柄別・進路対話頻度別にみると、父親・話さない層では母親・話す層に比べ「子どもが何を考えているかわからないから」「子どもがアドバイスを望んでいないから」のスコアが相対的に高く、子どもとの関係の希薄さを理由に挙げている。

【保護者】 進路選択についてアドバイスを難しいと感じる要因（アドバイスが「難しい」回答者／複数回答）



※「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

7 Hh Q05SQ1

＜フリーコメント＞ 難しいと感じる要因 その他の回答【保護者】

- 自分が受験生だった頃とは全く考え方が違うので、経験が役に立たない。[岡山県/母親/女子/大学]
- なかなかゆっくりと話をする時間が取れていないのと、いろんな会社について私の知識が乏しく、たくさんのことを話してあげられていないです。[大阪府/母親/男子/何でもいい]
- 自分の学力を把握していないのに努力もせず安易に進学を望んでいるから。また、アドバイスを批判ととらえる。[岡山県/父親/男子/大学]
- 親の希望を押しつけてしまいそうだから。[東京都/母親/女子/大学]

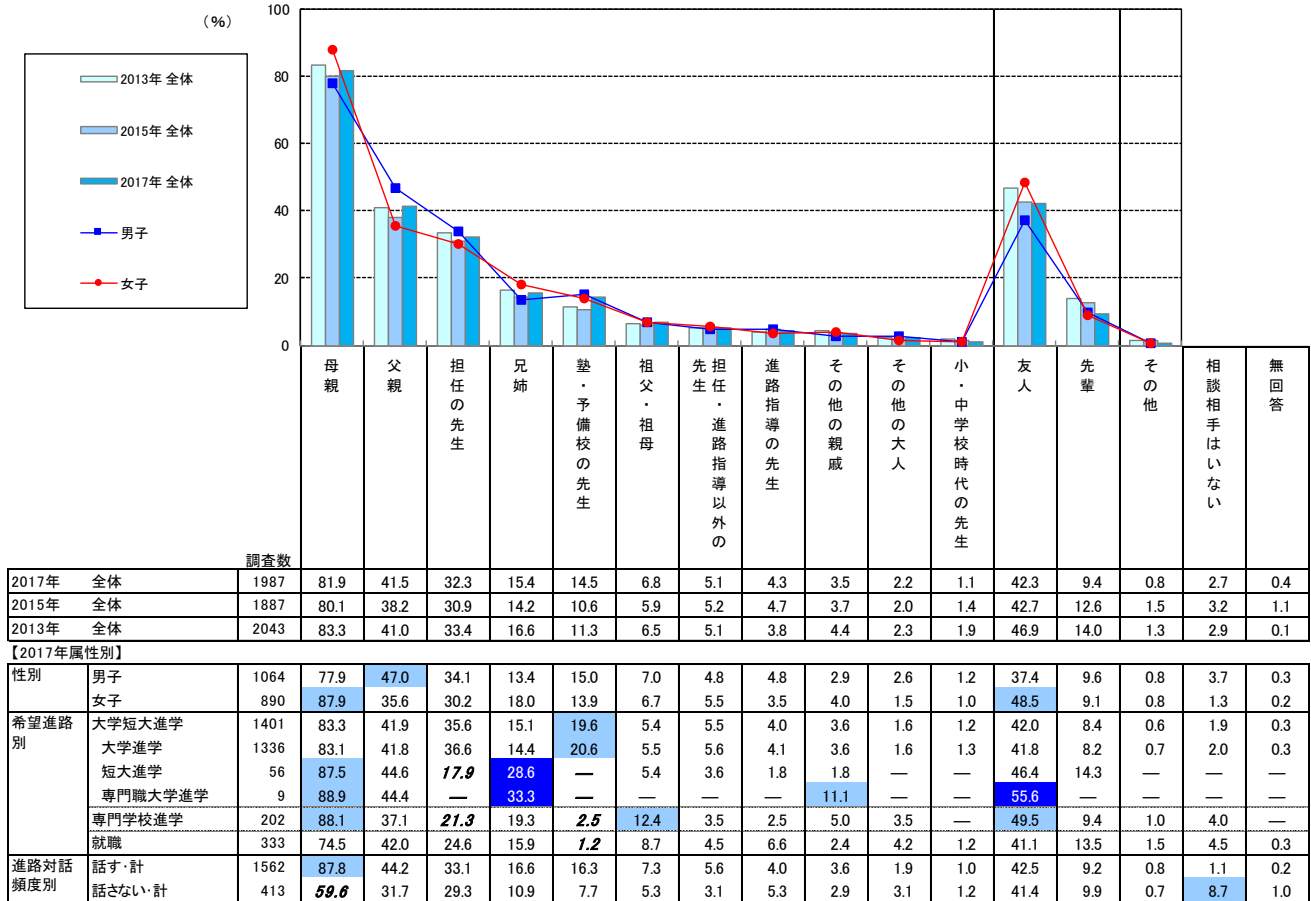
8.進路選択についての相談相手

▶ 高校生が進路を考えるうえで相談する相手は、「母親」が突出。

- ①母親 (82%)
- ②友人 (42%)
- ③父親 (42%)
- ④担任の先生 (32%)
- ⑤兄弟 (15%)

- 高校生に進路を考えるうえで相談する人すべてを尋ねたところ、「母親」が突出。過去調査結果と同様、8割に達する。
- 性別にみると、男女とも「母親」がトップ。2位に男子は「父親」(47%)、女子は「友人」(49%)が続く。
- 希望進路別にみると、いずれの進路とも「母親」がトップ。大学短大進学希望者は他層に比べ「担任の先生」(36%)、「塾・予備校の先生」(20%)のスコアが高く、家族以外にも相談相手が幅広い。
- 高校生に一番の相談相手についてその理由を書いてもらったところ、「母親」は家庭で一緒にいる時間が長く会話・相談の機会も多いことから自分を理解してくれているという“親近感”、「父親」は進学・就職を経験した社会人として、体験談を踏まえた情報を与えてくれる“信頼感”がうかがわれる。
また、「友人」は、同じ状況・立場にある“仲間意識”から話しやすく、お互いに励まし合っているようである。
→フリーコメントは17ページに掲載

【高校生】 進路について相談相手 (全体／複数回答)



※ 「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

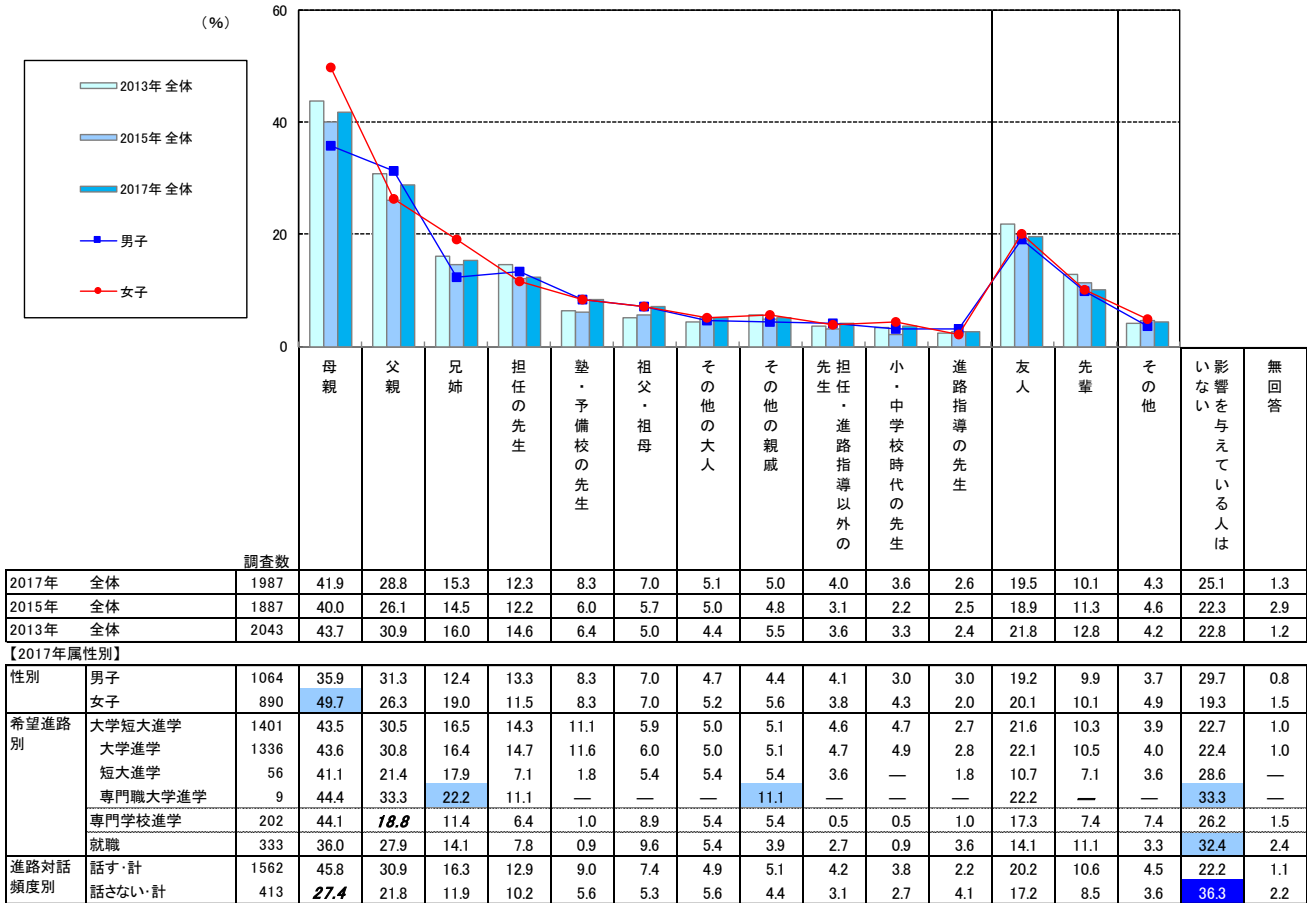
9.進路選択について影響を受ける人物

▶ 高校生が進路を考えるうえで影響を受ける相手も、「母親」がトップ。

- ①母親 (42%)
- ②父親 (29%)
- ③友人 (20%)
- ④兄姉 (15%)
- ⑤担任の先生 (12%)

- 進路を考えるうえで高校生に影響を与えている人すべてを尋ねた。15ページの『相談相手』と同様、「母親」が突出。過去調査結果と比較して上位の顔ぶれは変わらない。
- 性別にみると、男女とも「母親」がトップ、2位「父親」、3位「友人」。『相談相手』と同様に「父親」は男子(31%)のスコアが女子(26%)に比べ相対的に高い。
- 希望進路別にみると、いずれの進路とも「母親」がトップ。
- 進路対話頻度別にみると、話さない層で「影響を与えている人はいない」が比較的高く、ひとりで進路を考える高校生が多い。
- 高校生に一番影響を受ける相手についてその理由を書いてもらったところ、「母親」「父親」いずれも進路について相談する頻度・アドバイスを受ける頻度が多いことが理由として挙げた。さらに、両親の仕事・仕事に向き合う姿にも影響を受けていることがうかがわれる。
また「友人」については、希望進路が似た状況・立場にある仲間であると同時に、競い合う・刺激し合う関係であることといった理由が挙げた。
→フリーコメントは17ページに掲載

【高校生】 進路を考えるうえで（高校生に対して）影響を与えている人（全体／複数回答）



※ 「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

<フリーコメント> 進路選択について一番の相談相手、その理由【高校生】**■母親**

- 1番身近にいる大人。よくしゃべる機会があるから。
[岐阜県/女子/大学]
- 家で一緒にいる時間が多く、家庭の経済状況にも詳しいから。
[北海道/男子/大学]
- 自分の気持ちを考えて相談にのってくれるから。[北海道/女子/大学]
- 考えがまとまってもなくても聞いてくれるので話しやすい。
[東京都/女子/大学]
- 父は、僕に任せてくれているから何も言ってこないため。
[群馬県/男子/その他]

■友人

- 一番身近にいて、同じ立場だから話せることもあるから。
[長崎県/男子/就職]
- 何でも話せるから。たくさん話すから。[東京都/女子/大学]
- 気兼ねなく自分の考えを言えるから。[長崎県/女性/大学]
- 同じ大学入試を控えている者同士だから。[岡山県/男子/大学]
- 悩みなどが共有できたり、一緒にがんばろうと奮起できるから。
[岩手県/女子/大学]

■父親

- 話をしやすい、いろいろな視点から物事を話してくれる。
[岡山県/女性/専門学校]
- 実際に大学進学を経験し、自分のやりたい道を行っているから。
[北海道/男子/大学]
- 体験談をふまえて、わかりやすく教えてくれるから。
[福島県/男子/大学]
- 社会に出ることの大変さを教えてくれる。[群馬県/男子/就職]
- 家族の中で一番物知りだから。[和歌山県/女子/大学]

■兄姉

- 一番年も近いし、その進路の壁を最近にのりこえていった人だから。
[北海道/女子/専門学校]
- 経験をしているので詳しく教えてくれる、話しやすい。
[岩手県/女子/大学]
- 知っている情報が新しい。[東京都/男子/専門学校]
- 両親に話せないことを話せないから。[岡山県/女子/大学]

■担任の先生

- 一番大学への進路情報を知っていると思うから。
[岐阜県/女子/大学]
- 自分の学力や特技や性格を保護者より分かっているから。
[長崎県/男子/大学]
- 色々なタイプの生徒を見ているし、私に良いアドバイスをくれるから。
[岡山県/女子/大学]

■先輩

- 歳が一番近く、社会人としてのことを知っているから。
[大阪府/男子/就職]
- 同じ進路を選んでいて、どんなことを基準に学校とかを決めているのか分かるから。[長野県/女子/専門学校]
- 先輩は今年受験で、進路に詳しいから。[和歌山県/男子/大学]

■相談相手はいない

- 進路を相談することがないし、自分で決めるから。
[和歌山県/女子/大学]
- どう相談したらよいかわからないから。[長崎県/男子/就職]
- 相談しても相手にはわからなさそうだから。[長崎県/女子/専門学校]

<フリーコメント> 進路選択について一番影響を受ける人物、その理由【高校生】**■母親**

- 1番親身に考えてくれているから。[岡山県/女子/大学]
- 一番相談しやすく、受けたアドバイスの多い人だから。
[長崎県/女子/大学]
- どこどこがいいんじゃないかと提案されることが多いから。
[東京都/男子/大学]
- パンフレットなどを頼んでくれて、だいたいのことを決めることができたから。[長崎県/女子/専門学校]
- 母が私のなりたい職業についてるから。[岐阜県/女子/大学]

■父親

- アドバイスや励ましをよくしてくれる。[長崎県/男子/大学]
- どんな職業があって、どういうことができるかを教えてくれるから。
[岩手県/男子/大学]
- 仕事の大変さを教えてくれてもらってるから。[北海道/男子/就職]
- 大学に行きたいと思ったのは父の話をきいて行きたいと思えたから。
[長崎県/女子/大学]
- 立派な職に就いているから、憧れているから。[福島県/女子/就職]

■友人

- これからいっしょに進路を学べる仲間だから。[長野県/男子/大学]
- それぞれ目標をもって選んでいるため、私もそうしようと思うから。
[岐阜県/女子/大学]
- 同じ系統の進路を考えている人と情報交換しているため。
[岡山県/女子/大学]
- 負けられない気持ちになる。[北海道/男子/大学]
- 進路を決めている人や、もう勉強を始めている人がいて刺激をうけるから。[東京都/女子/大学]

■兄姉

- 2人兄がいるのだが、1人は大学、1人は就職したので、どちらの良いところも知っているし悪いところも知っているため。
[長野県/男子/大学]
- 大学に進んでいるので入試についてよくわかっているから。
[北海道/女子/大学]
- 兄が私立に行っているので経済的に国公立にしか行けないため。
[東京都/女子/大学]

■担任の先生

- 進路について、過去のデータに基づいて話をする。
[長崎県/男子/大学]
- 相談すると様々なアドバイスや、他の選択肢もおしえてくれるから。
[岡山県/女子/大学]
- 目標を応援しながら、自分の知識不足な面をアドバイスしてくれるから。[北海道/男子/大学]

■先輩

- 身近だけど自分よりも経験していることが多いから。
[岐阜県/女子/大学]
- 部活動で非常に上手にやっていて、憧れたから。
[岐阜県/男子/大学]

■影響を与える人はいない

- 親と話す前に自分で調べて進路を考えていたから。
[北海道/男子/大学]
- 人に言われても進路を変えるようなことはしないから。
[群馬県/男子/大学]

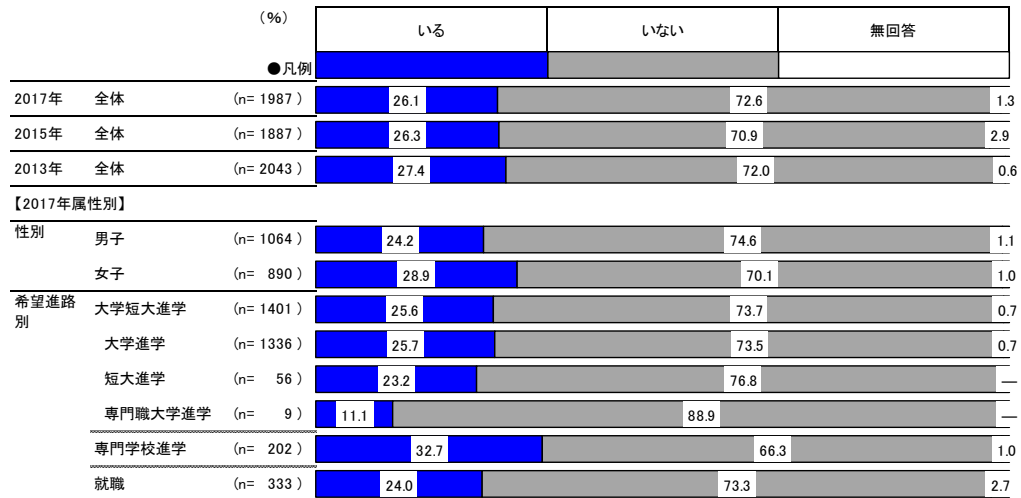
10. 目指している・あこがれている人／その理由

▶ 目指している人やあこがれている人が「いる」高校生は26%。

▶ 目指している人物として、家族では「父親」が16%、「母親」が13%。

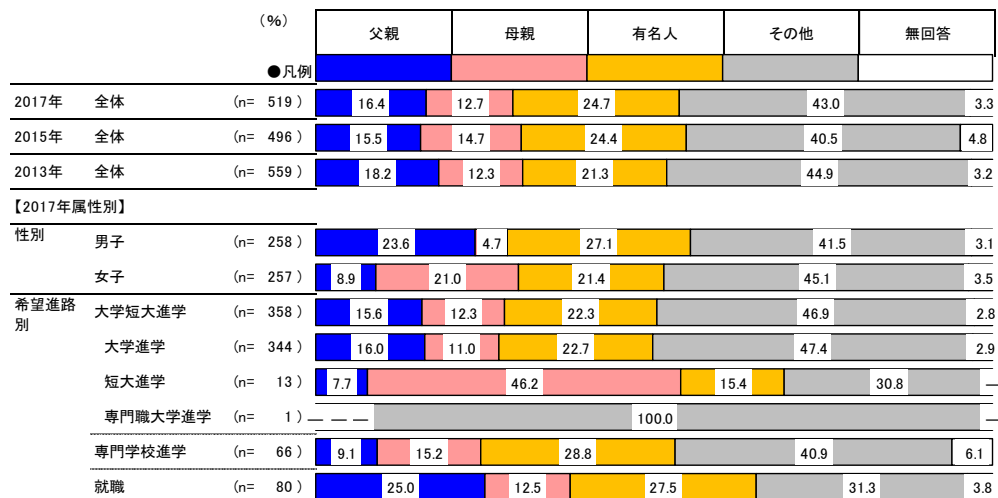
- 高校生に目指す人・憧れている人はいるか尋ねたところ、「いる」は26%。
過去調査結果と比較すると、2015年と同程度。
- 目指す人・憧れている人がいると回答した高校生に、その対象を選んでもらったところ、「有名人」が最も多く25%。
以下、「父親」(16%)、「母親」(13%)が続く。
- 性別にみると、男子は「父親」(24%)、女子は「母親」(21%)の割合が高く、同性の親を理想とする傾向がみられる。

【高校生】 目指している・憧れている人はいるか（全体／単一回答）



10 Kh Q19

【高校生】 目指している・憧れている人（目指している人「いる」回答者／単一回答）



10 Kh Q19SQ1

<フリーコメント> 目指している・あこがれている理由【高校生】

■父親

- 働いて結婚して子供を2人育てるのは凄いことだと思うから。
[東京都/男子/大学]
- マルチリンガルで、いろいろな世界の情勢について知っていてカッコいいと思ったから。[東京都/女子/大学]
- 充実した生活をして人生経験も豊富だから。[群馬県/男子/大学]

※有名人

「櫻井翔」「白石麻衣」「本田圭佑」「堀江貴文」「スティーブ・ジョブズ」スポーツ選手、ミュージシャン、俳優、タレント、作家、アナウンサーなど

※その他

「祖父」「兄」「姉」などそのほか家族・親戚、幼稚園～高校・塾の「先生」「先輩」、就きたい職業の従事者など

■母親

- 自分の身の回りのことに加えて、家族のこと、家計のことなどほとんど一人でやっているから。自分も周りの人のお世話まで出来る人になりたいから。[長崎県/女子/専門学校]
- 自分がなりたいと思う職業についているから。[岐阜県/男子/大学]
- とてもいい人でだれにでもやさしい。かっこいい。たよになる。
[群馬県/女子/短期大学]

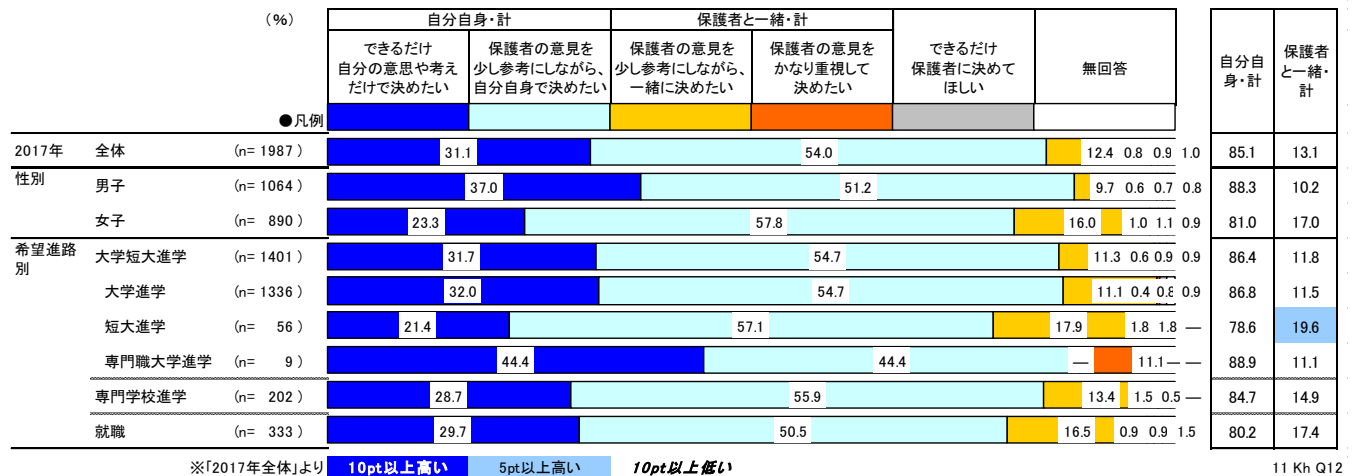
11.希望する進路の決め方

▶ 高校生・保護者とも85%が、進路選択について「高校生自身で決めたい・決めてほしい」（自分自身・計/子ども自身・計）。

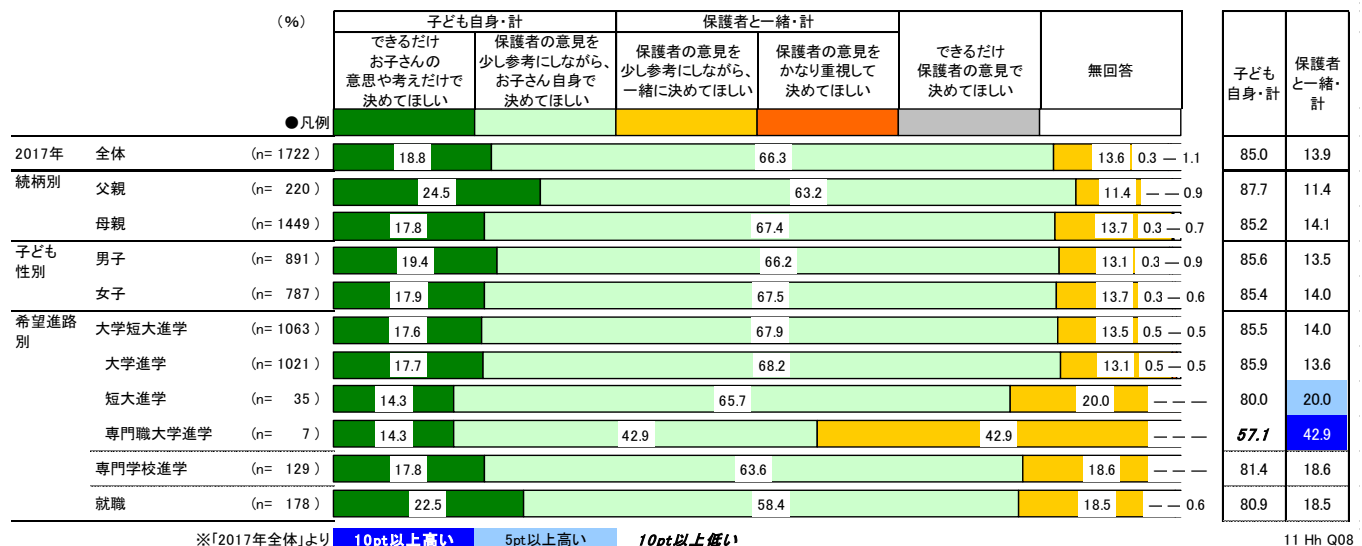
▶ 高校生は「できるだけ自分の意思や考えだけで決めたい」が31%。保護者の「できるだけお子さんの意思や考えだけで決めてほしい」（19%）を上回る。

- 高校生が進路選択をおこなう際に希望する決め方は、「保護者の意見を少し参考にしながら、自分自身で決めたい」(54%)が最多。次いで「できるだけ自分の意思や考えだけで決めたい」(31%)で、両者を合わせると85%が自分自身で進路を決めたい(自分自身・計)。
- 性別にみると、「自分自身・計」の割合は男子(88%)が女子(81%)よりも高い。
- 希望進路別にみると、「自分自身・計」は大学短大進学・専門学校進学希望者ではいずれも8割強。一方、就職希望者(80%)は進学希望者に比べやや低い。
- 同様に、保護者にも希望する進路選択の決め方を尋ねたところ、「保護者の意見を少し参考にしながら、お子さん自身で決めてほしい」(66%)が最多。「できるだけお子さんの意思や考えだけで決めてほしい」(19%)を合わせた「子ども自身・計」(85%)は、高校生と同率。
- 続柄・子どもの性別にみると、「子ども自身・計」の割合は父親・母親、男女とも8割強を占める。父親は「できるだけお子さんの意思や考えだけで決めてほしい」(25%)が母親(18%)に比べ高い。

【高校生】 希望する進路選択の決め方（全体／単一回答）



【保護者】 子どもに希望する進路選択の決め方（全体／単一回答）



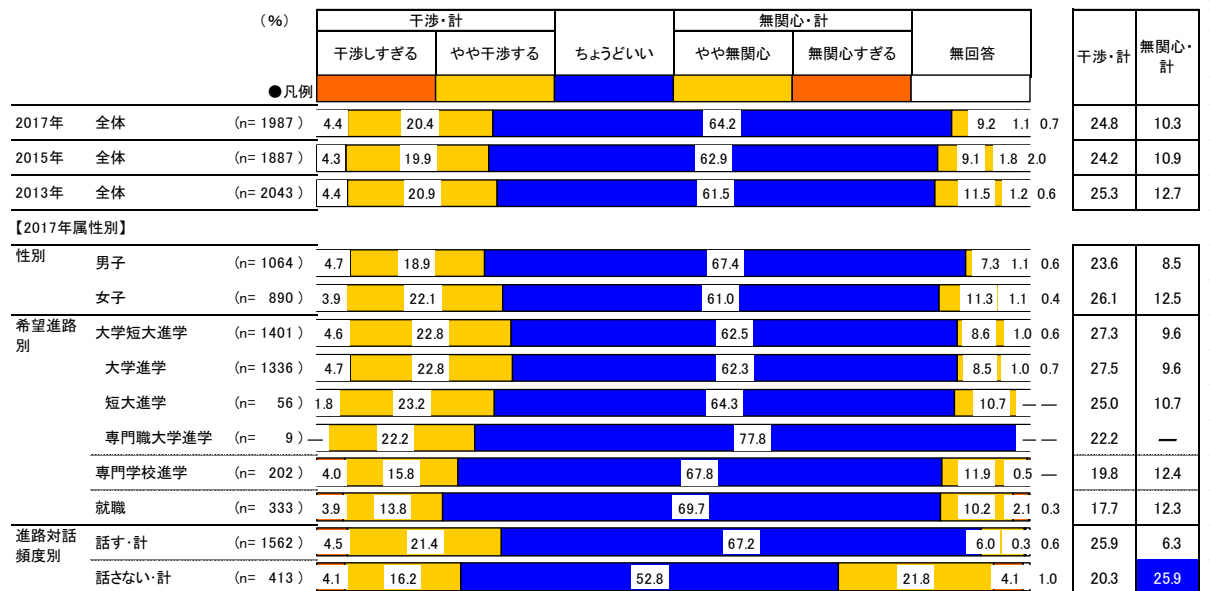
12.進路選択について保護者が取る態度

▶ 進路選択に関する保護者の態度が「ちょうどいい」と感じている高校生は64%。

▶ 「干渉」と感じるのは25%、「無関心」は10%。

- 進路選択に関する保護者の態度を高校生はどのように感じているか尋ねた。「ちょうどいい」が最も多く64%と過半数を占める。「干渉しすぎる」「やや干渉する」の合計は25%(干渉・計)、「無関心すぎる」「やや無関心」の合計は10%(無関心・計)。
- 性別にみると、「ちょうどいい」と感じる割合が男子(67%)が女子(61%)に比べ高い。女子は「無関心・計」の割合(13%)が男子(9%)に比べやや高い。
- 希望進路別にみると、「ちょうどいい」と感じる割合は就職希望者(70%)・専門学校進学希望者(68%)が大学短大進学希望者(63%)に比べて高い。大学短大進学希望者は、「干渉・計」が27%と、専門学校進学希望者(20%)・就職希望者(18%)に比べ、干渉的と感じる割合が高い。
- 進路対話頻度別にみると、「ちょうどいい」の割合は話す層(67%)が話さない層(53%)を大きく上回る。話す層は「干渉・計」(26%)、話さない層は「無関心・計」(26%)の割合がそれぞれ相対的に高い。

【高校生】 進路選択に関する保護者の態度（全体／単一回答）



※【2017年属性別】「2017年全体」より 10pt以上高い 5pt以上高い 10pt以上低い

12 Kh Q15

13.保護者の行動・態度

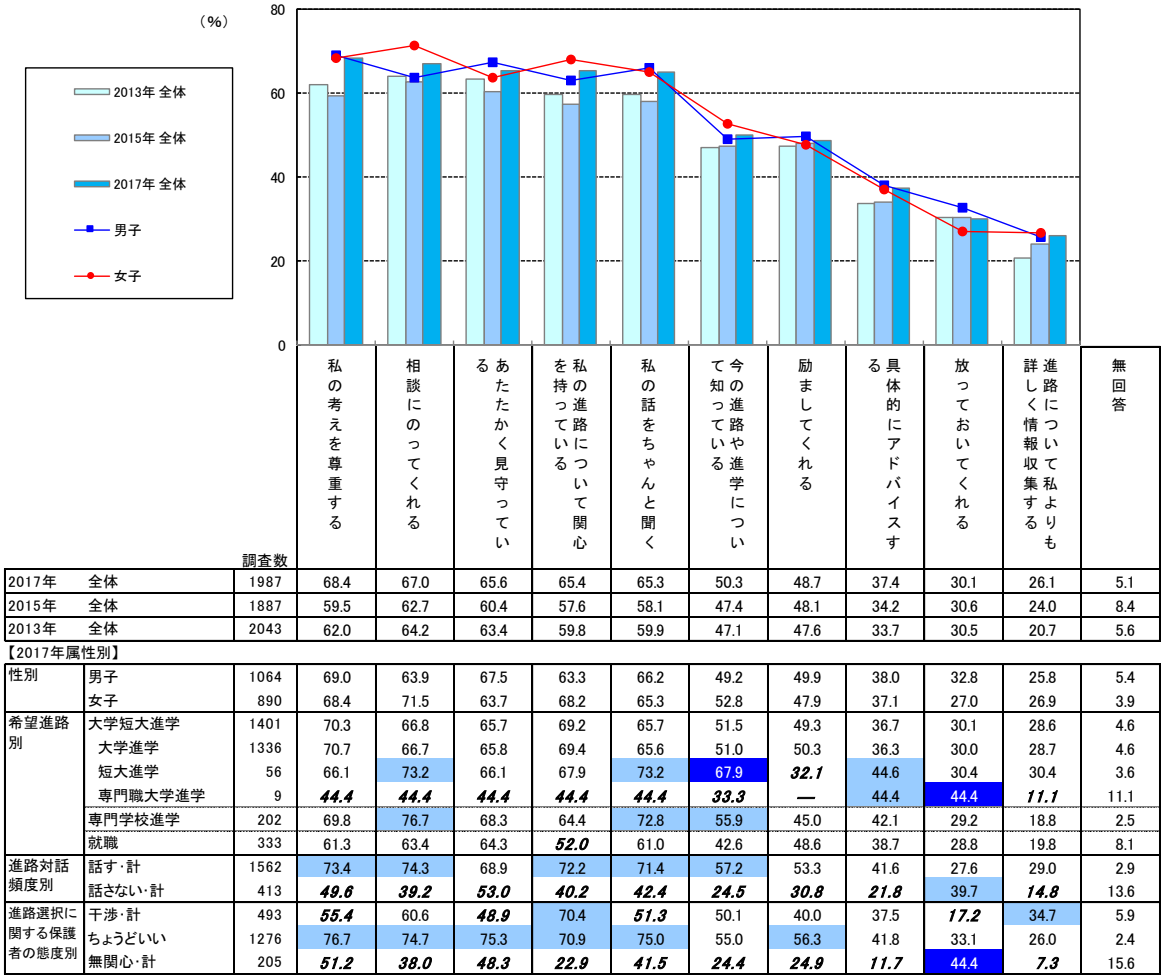
▶進路選択での保護者の行動・態度は「私の考えを尊重する」「相談にのってくれる」。

- ①私の考えを尊重する (68%)
- ②相談にのってくれる (67%)
- ③あたたかく見守っている (66%)
- ④私の進路について関心をもっている (65%)
- ⑤私の話をちゃんと聞く (65%)

▶進路について話す高校生ほど、保護者に「相談にのってくれる」実感が強い。

- 進路選択に関する保護者の行動・態度を呈示し、自分の保護者に当てはまるものすべてを高校生に選んでもらった。回答上位は上記の通り。
過去調査結果と比較すると、上位5項目の順位は入れ替わるが顔ぶれは変わらない。5項目とも2015年からスコアが増加している。
- 性別にみると、男子は「私の考えを尊重する」(69%)、僅差で「あたたかく見守っている」(68%)が1～2位。女子は「相談にのってくれる」(72%)がトップ。男子は「あたたかく見守っている」「放っておいてくれる」、女子は「私の進路について関心を持っている」のスコアが相対的に高く、保護者との距離感の認識に違いがみえる。
- 進路対話頻度別にみると、話をする層のほうが「放っておいてくれる」を除く項目のスコアが高く、保護者は幅広い行動・態度で高校生の進路選択に関与していることがわかる。
- 20ページの『進路選択に関する保護者の態度』の回答別にみると、保護者の態度が「ちょうどいい」層では「私の考えを尊重する」「あたたかく見守っている」「私の話をちゃんと聞く」「相談にのってくれる」が7割強に達し、他層を上回る。「干渉」層は「進路について私よりも詳しく情報収集する」、「無関心」層では「放っておいてくれる」のスコアがそれぞれ他層に比べて高い。

【高校生】進路選択で保護者にあてはまること（全体／複数回答）



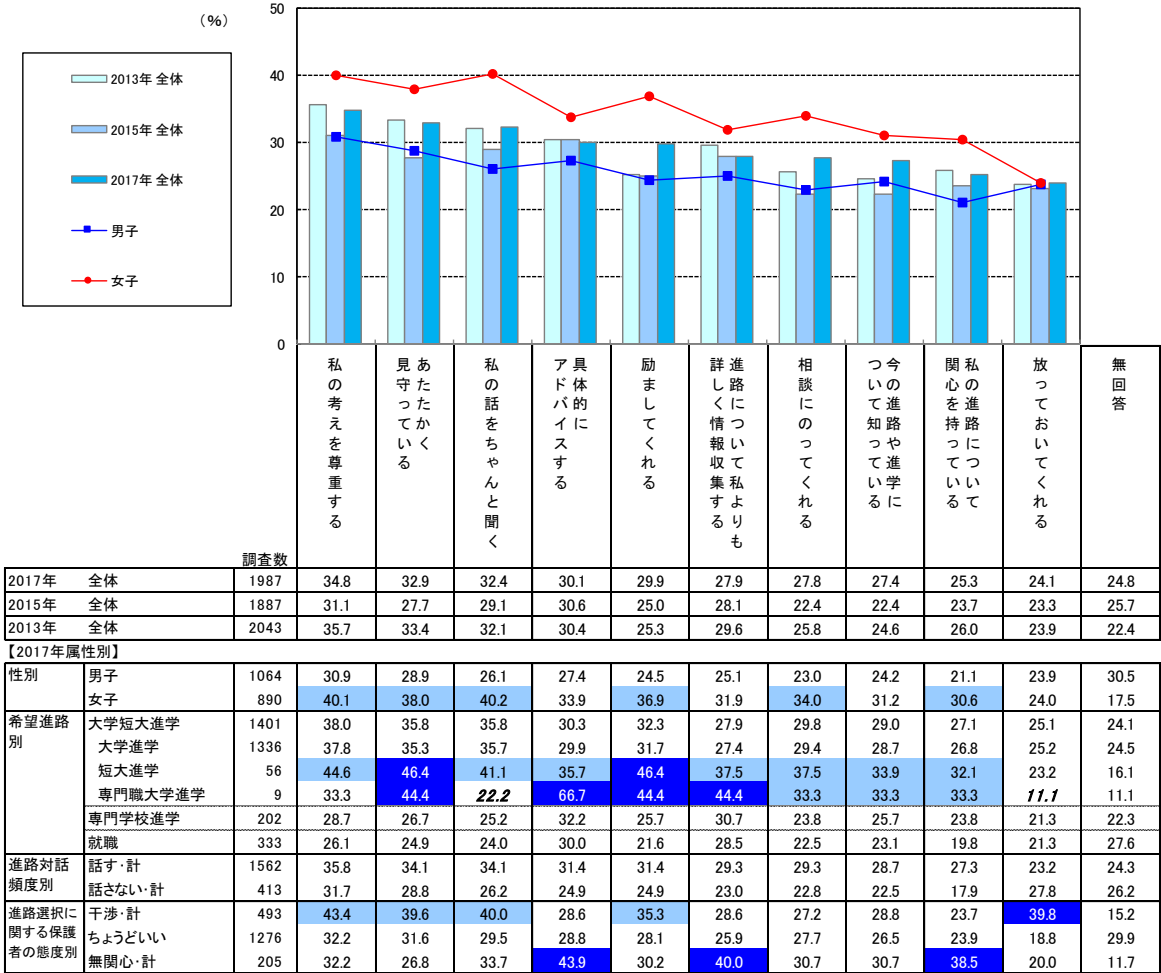
※「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

14.保護者にしてほしい行動・態度

- ▶ 高校生が進路選択で保護者にしてほしい行動・態度は、「私の考えを尊重する」「あたたかく見守っている」。
- ①私の考えを尊重する (35%)
 - ②あたたかく見守っている (33%)
 - ③私の話をちゃんと聞く (32%)
 - ④具体的にアドバイスする (30%)
 - ⑤励ましてくれる (30%)
- ▶ 進路選択に関して保護者の態度を「干渉」と感じている高校生は、「考えを尊重」「話をちゃんと聞く」「見守っている」「放っておいてくれる」といった自分で考えて行動できるような距離感を希望。一方、「無関心」と感じている高校生は、「アドバイス」「情報収集」「進路に関心」といった具体的な関心・関与をそれぞれ希望している。

- 21ページ『保護者の行動・態度』と同じ選択肢を用い、保護者に希望する行動・態度を高校生に選んでもらったところ、回答上位は上記の通り。
過去調査結果と比較すると、「私の考えを尊重する」「あたたかく見守っている」「私の話をちゃんと聞く」「励ましてくれる」「相談にのってくれる」「今の進路や進学について知っている」のスコアが2015年から増加。
- 性別にみると、「放っておいてくれる」を除き女子のスコアが男子を上回り、保護者への要望が幅広い。
- 進路対話頻度別にみると、話さない層は「放っておいてくれる」が話す層に比べ高く、保護者関与に否定的な態度。
- 進路選択に関する保護者の態度別にみると、「干渉」層では「私の考えを尊重する」「私の話をちゃんと聞く」「あたたかく見守っている」「放っておいてくれる」「励ましてくれる」のスコアが他層に比べ高く、自分の意思が尊重されることを希望している。一方、「無関心」層では「具体的にアドバイスする」「進路について私よりも詳しく情報収集する」「私の進路について関心を持っている」が他層に比べ高く、保護者の積極的な関与を希望している。

【高校生】 進路選択で保護者にしてほしいこと（全体／複数回答）



※「2017年全体」降順ソート

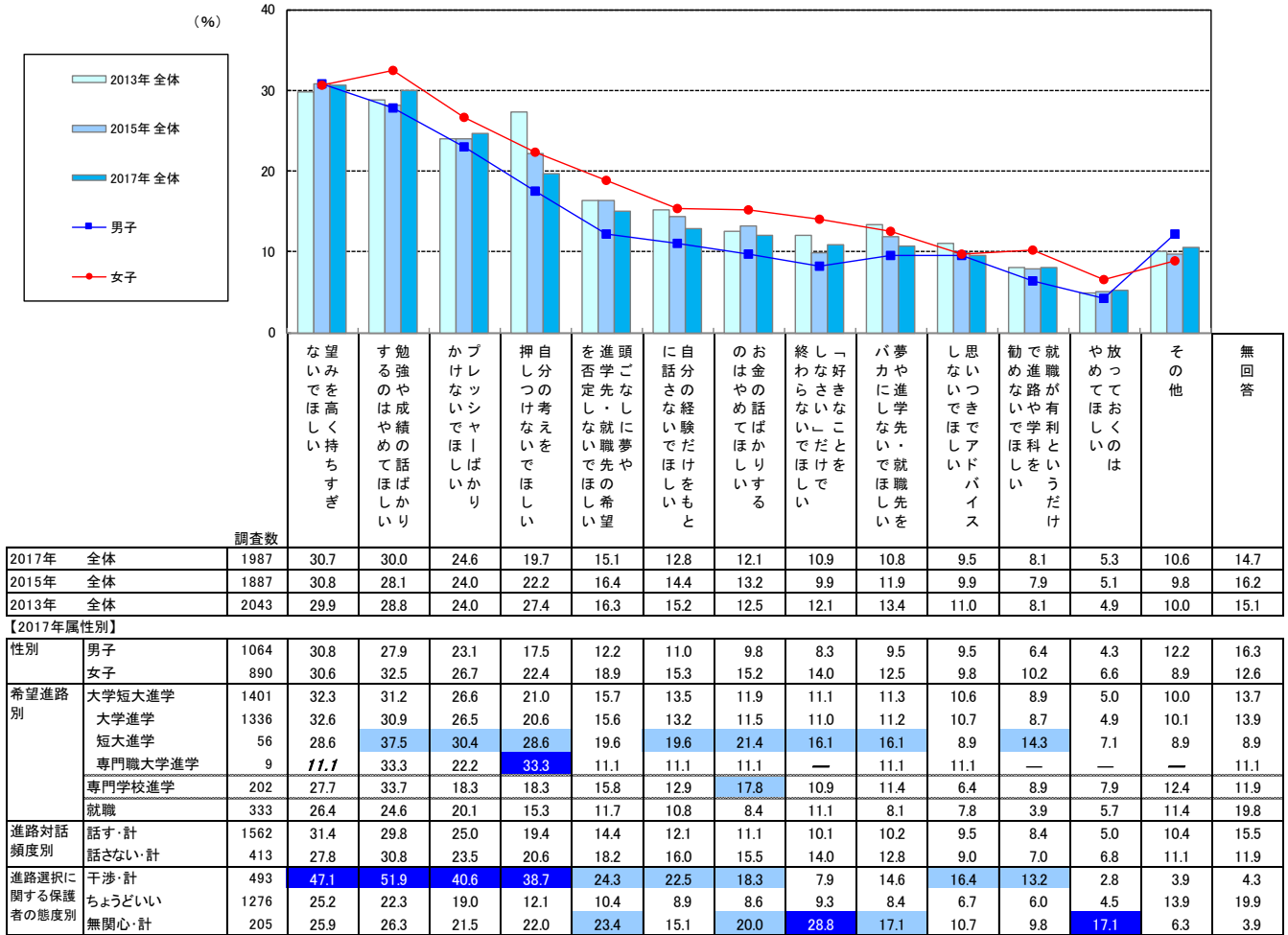
※【2017年属性別】

100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

15.保護者にやめてほしい行動・態度

- ▶ 高校生が進路を考えるうえで保護者にやめてほしい行動・態度は「高望み」と「勉強や成績の話」。
- ①望みを高く持ちすぎないでほしい (31%)
 - ②勉強や成績の話ばかりするのはやめてほしい (30%)
 - ③プレッシャーばかりかけないでほしい (25%)
 - ④自分の考えを押しつけないでほしい (20%)
 - ⑤頭ごなしに夢や進学先・就職先の希望を否定しないでほしい (15%)
- ▶ 進路選択に関して保護者が「干渉」「無関心」と感じている高校生は、やめてほしい行動・態度が多い。
- 高校生に進路を考えるうえで保護者にやめてほしい行動・態度を選んでもらった。トップは「望みを高く持ちすぎないでほしい」、僅差で「勉強や成績の話ばかりするのはやめてほしい」が続く。過去調査結果と比較すると上位の顔ぶれは変わらないが、「自分の考えを押しつけないでほしい」は2013年以降減少傾向。
 - 性別にみると、男子は「望みを高く持ちすぎないでほしい」(31%)、女子は「勉強や成績の話ばかりするのはやめてほしい」(33%)がトップ。女子のスコアが男子を上回る項目が多く、女子のほうが保護者の行動・態度に対する不満が強いことがうかがわれる。特にスコア差が大きい項目は、「頭ごなしに夢や進学先・就職先の希望を否定しないでほしい」「お金の話ばかりするのはやめてほしい」「『好きなことをしなさい』だけで終わらないでほしい」。
 - 進路選択に関する保護者の態度別にみると、「ちょうどいい」層に比べ「干渉」層では「勉強や成績の話ばかりするのはやめてほしい」「望みを高く持ちすぎないでほしい」「プレッシャーばかりかけないでほしい」「自分の考えを押しつけないでほしい」といった保護者の期待に関する項目が他層に比べ高い。一方、「無関心」層では、「『好きなことをしなさい』だけで終わらないでほしい」「放っておくのはやめてほしい」といった、放任に関する項目が他層に比べ高い。

【高校生】 進路選択で保護者にやめてほしいこと（全体／複数回答）



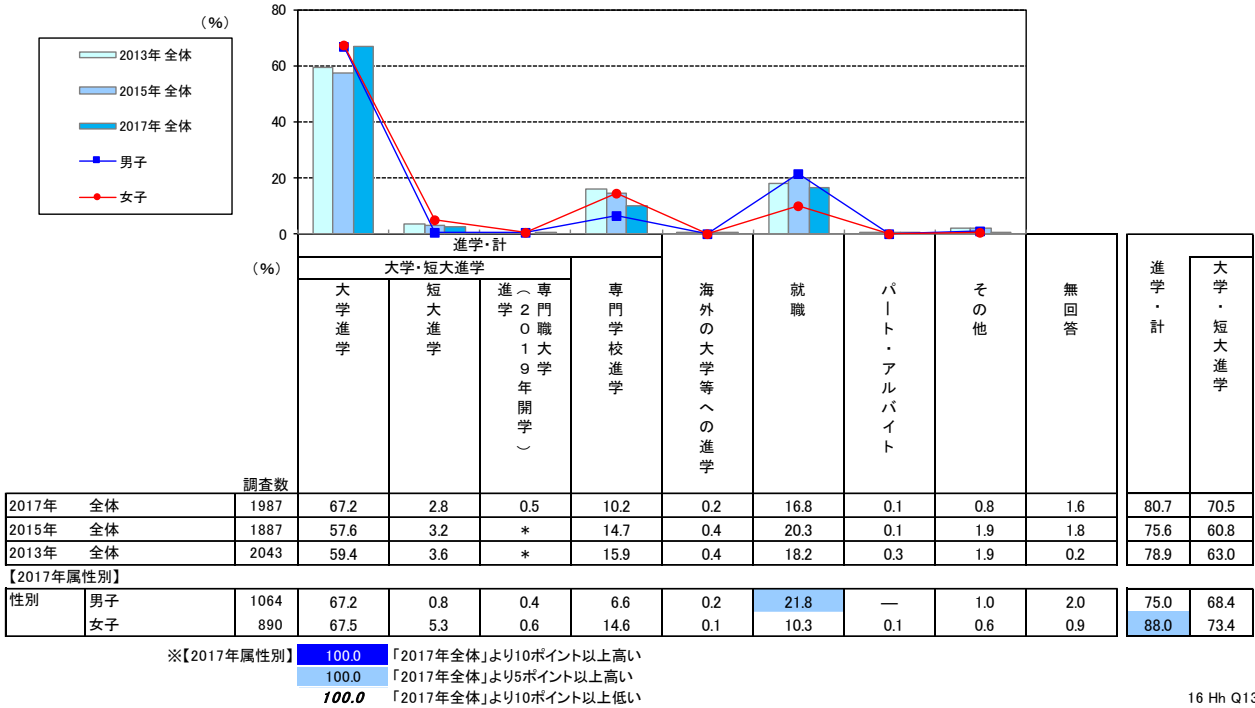
※ 「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

Ⅱ 進路・将来にまつわる考え

16.高校卒業後の希望進路

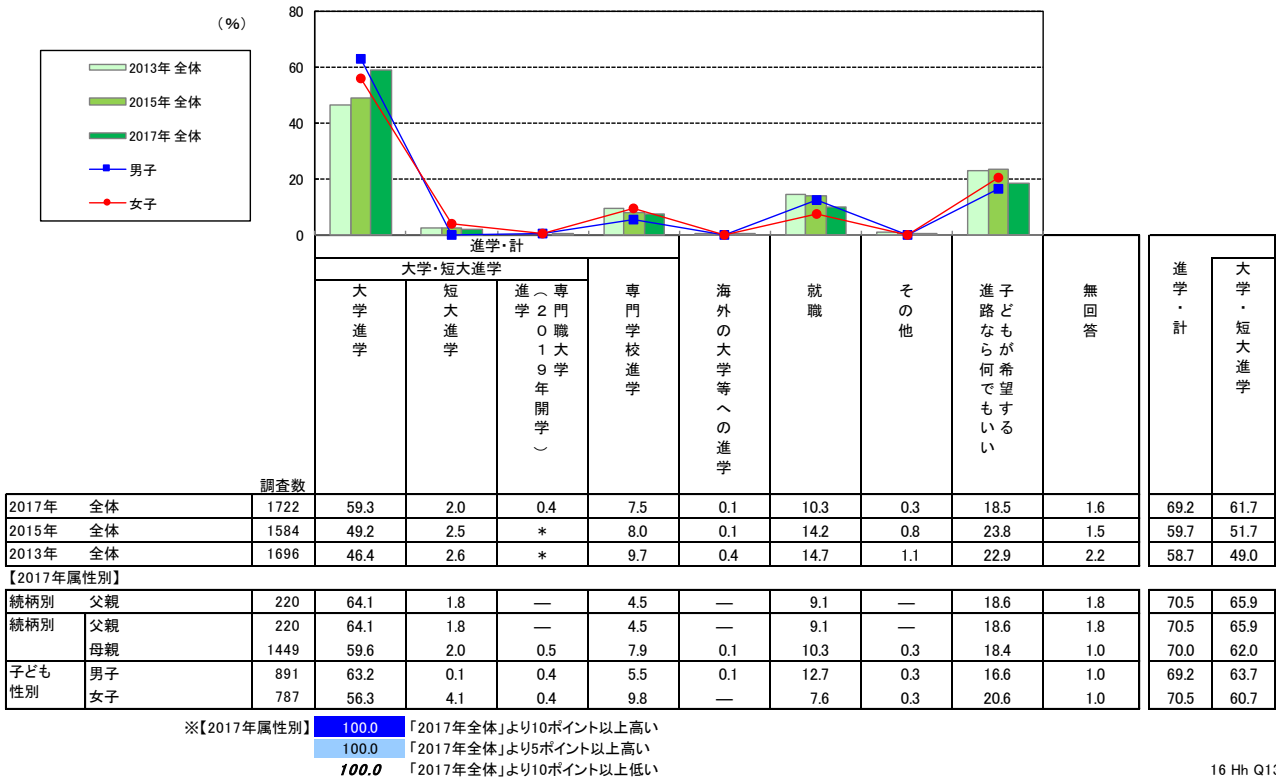
- ▶ 高校卒業後の希望進路は、大学進学（67%）、短大進学（3%）、専門職大学（0.5%）、専門学校（10%）、就職（17%）。8割が進学を希望。
- ▶ 保護者が子どもに希望する進路は、大学進学（59%）、短大進学（2%）、専門職大学（0.4%）、専門学校（8%）、就職（10%）。7割が進学を希望。
また、「子どもが希望する進路なら何でもいい」が19%。

【高校生】 高校卒業後の希望進路（全体／単一回答）



16 Hh Q13

【保護者】 高校卒業後の希望進路（全体／単一回答）



16 Hh Q13

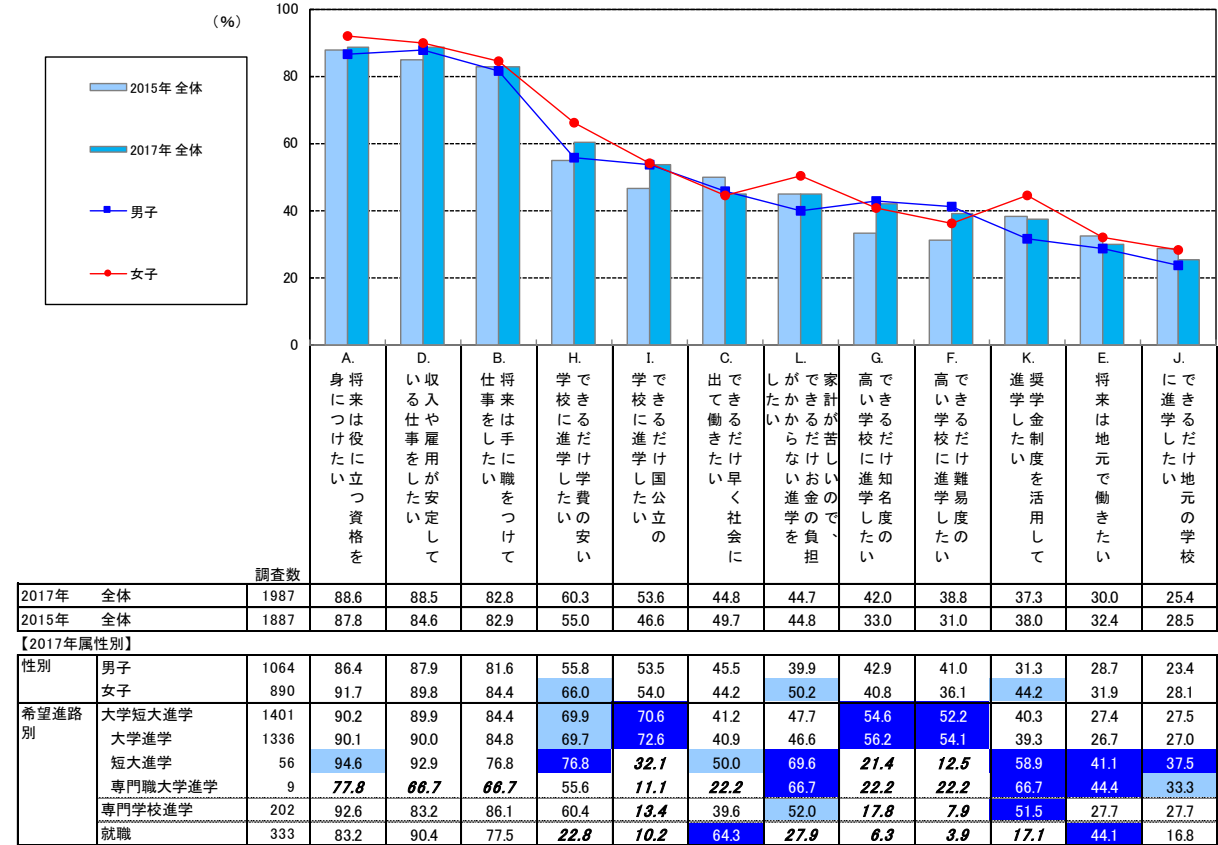
17. 進路についての価値観

1) 進路について思うこと

- ▶ 高校生が進路について思うことは
 - ① 将来は役に立つ資格を身につけたい (89%)
 - ② 収入や雇用が安定している仕事をしたい (89%)
 - ③ 将来は手に職をつけて仕事をしたい (83%)
 - ④ できるだけ学費の安い学校に進学したい (60%)
 - ⑤ できるだけ国公立の学校に進学したい (54%)
- ▶ 「資格」「安定」「手に職」の仕事に関する3項目が突出。

- 高校生と保護者に、進路に関する価値観12項目についてそれぞれどう思うか尋ねた。高校生の「とてもそう思う」「まあそう思う」合計値が高い項目は上記の通り。
2015年の結果と比較すると、「学費の安い学校」「国公立の学校」「知名度の高い学校」「難易度の高い学校」が増加した一方、「できるだけ早く社会に出て働きたい」が減少している。
- 性別にみると、男女とも上位の顔ぶれは同様。男子は、「できるだけ難易度の高い学校に進学したい」が女子に比べ高い。一方、女子は「できるだけ学費の安い学校に進学したい」「家計が苦しいので、できるだけお金の負担がかからない進学をしたい」「奨学金制度を活用して進学したい」が男子に比べ高く、学費負担への心配がうかがわれる。
- 希望進路別にみると、いずれの進路希望者も上位3項目の顔ぶれは同様。大学短大進学希望者は「学費の安い学校」「国公立の学校」「知名度の高い学校」「難易度の高い学校」といった、学校に関する項目への関心が相対的に高い。また、専門学校進学希望者は「お金の負担がかからない進学」「奨学金制度を活用して進学」といった費用への関心が相対的に高い。一方、就職希望者は「早く社会に出て働きたい」「将来は地元で働きたい」のスコアが相対的に高く、働くことへの意欲・希望がより高い。

【高校生】 進路に関する価値観（全体／「思う」計）



※「2017年全体」降順ソート
※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

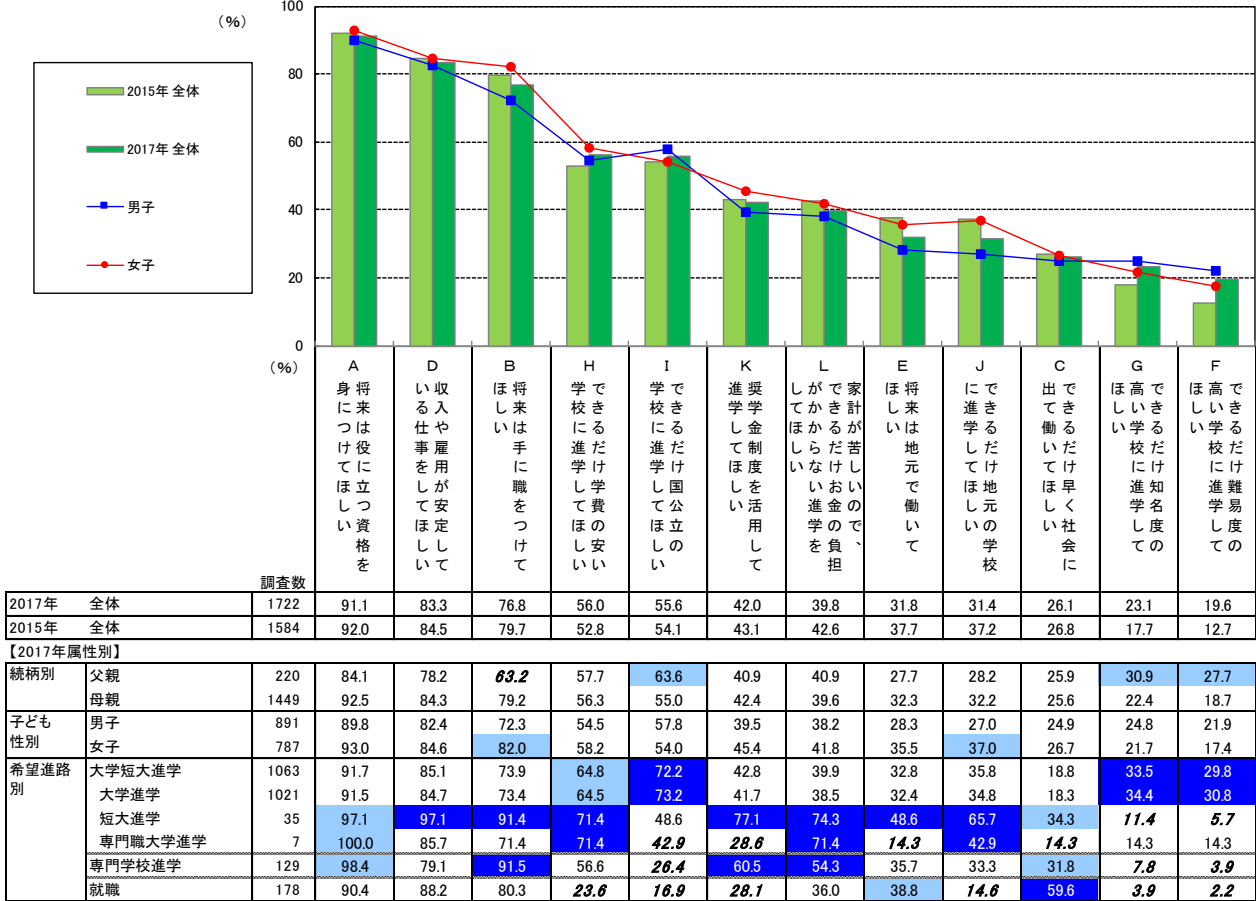
▶ 保護者が子どもの進路について思うことは

- ① 将来は役に立つ資格を身につけてほしい (91%)
- ② 収入や雇用が安定している仕事をしてほしい (83%)
- ③ 将来は手に職をつけてほしい (77%)
- ④ できるだけ学費の安い学校に進学してほしい (56%)
- ⑤ できるだけ国公立の学校に進学してほしい (56%)

▶ 高校生と同じく「資格」「安定」「手に職」の仕事に関する3項目が突出。

- 同じく、保護者に進路に関する価値観12項目についてそれぞれどう思うか尋ねたところ、「とてもそう思う」「まあそう思う」合計値が高い項目は上記の通り。
2015年結果と比較すると、「知名度の高い学校」「難易度の高い学校」が増加した一方、「地元で働いてほしい」「地元の学校」が減少している。
- 保護者の続柄別にみると、上位3項目はいずれも母親のスコアが父親に比べ高く、母親がより資格・技術により収入・雇用が安定した仕事に就くことへの志向が強いことがわかる。
- 子どもの性別にみると、女子は男子に比べ「手に職」「奨学金制度を活用して進学」「地元の学校に進学」「地元で働いてほしい」が相対的に高い。
- 希望進路別にみると、いずれの進路希望者も上位3項目の顔ぶれは同様。大学短大進学希望者は「国公立の学校」「学費の安い学校」「知名度の高い学校」「難易度の高い学校」といった、学校に関する項目への関心が相対的に高い。また、専門学校進学希望者は「役に立つ資格」「手に職」といった資格・技術への関心が相対的に高い。一方、就職希望者は「将来は地元で働いてほしい」「早く社会に出て働いてほしい」のスコアが相対的に高く、働くことへの要望がより高い。

【保護者】 進路に関する価値観（全体／「思う」計）



※ 「2017年全体」降順ソート
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

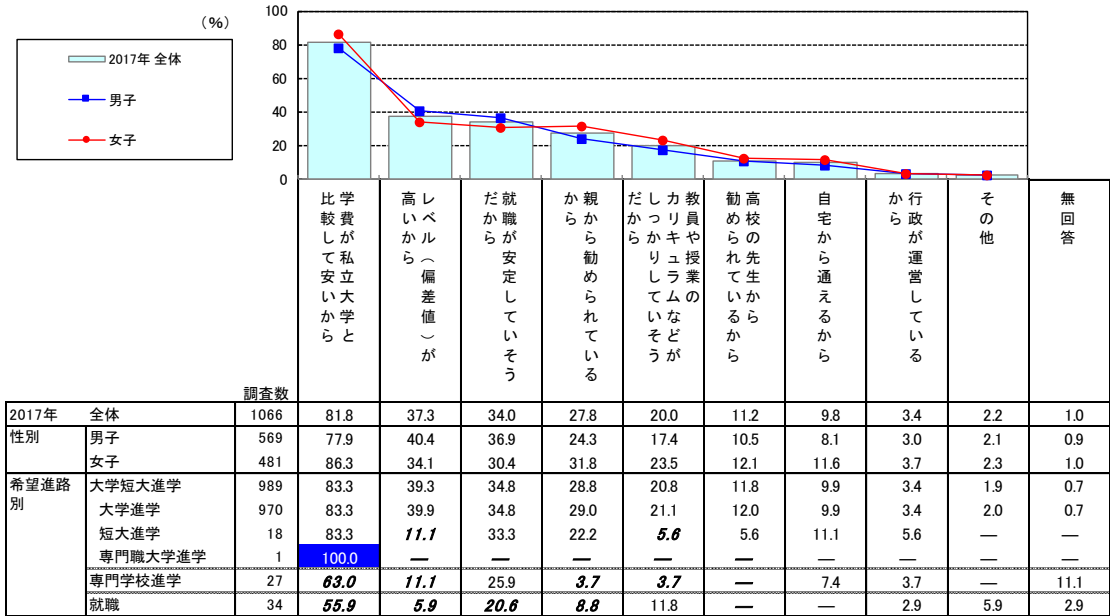
2) 国公立の学校に進学したい・進学してほしい理由

▶ 高校生・保護者とも、「学費が私立大学と比較して安いから」国公立の学校へ進学したい・してほしい。

●25～26ページの『進路について思うこと』で「国公立の学校に進学したい・してほしい」と回答した高校生・保護者に、その理由をすべて選んでもらった。

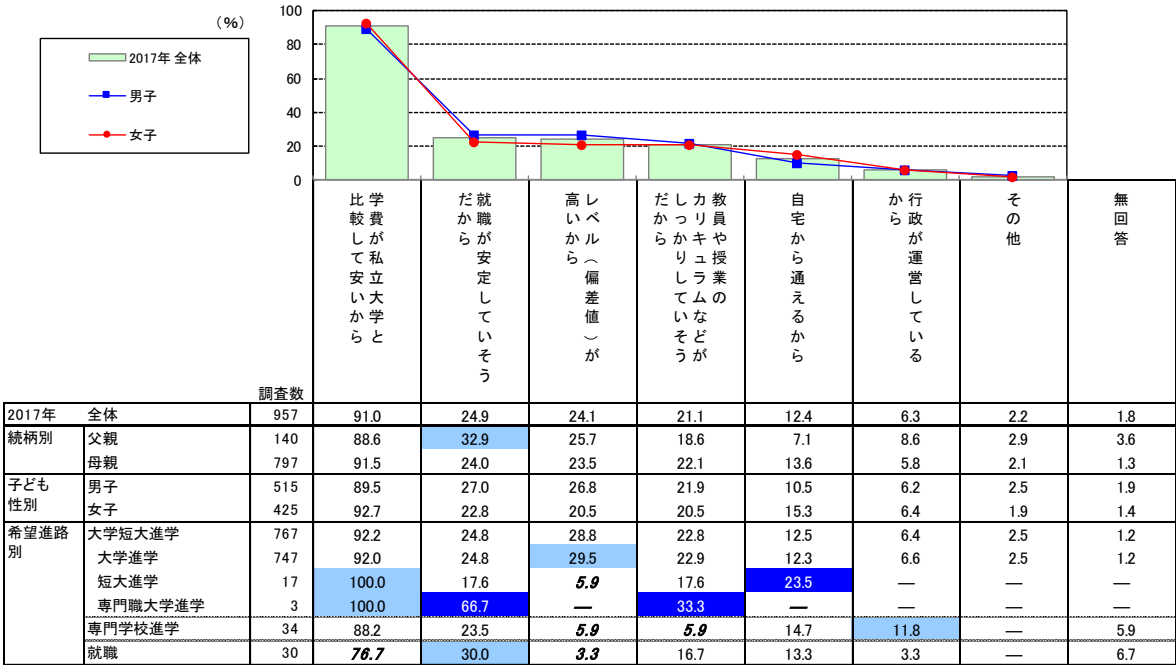
高校生の82%・保護者の91%が「学費が私立大学と比較して安いから」を挙げた。
次いで、高校生は「レベルが高いから」(37%)、「就職が安定していそうだから」(34%)が続く。保護者も順位が入れ替わるが、「就職が安定していそうだから」(25%)、「レベルが高いから」(24%)が続く。

【高校生】 国公立の学校に進学したい理由（国公立の学校に進学したいと「思う」回答者／複数回答）



※「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い 17 Hh Q10SQ1

【保護者】 国公立の学校に進学してほしい理由（国公立の学校に進学してほしいと「思う」回答者／複数回答）



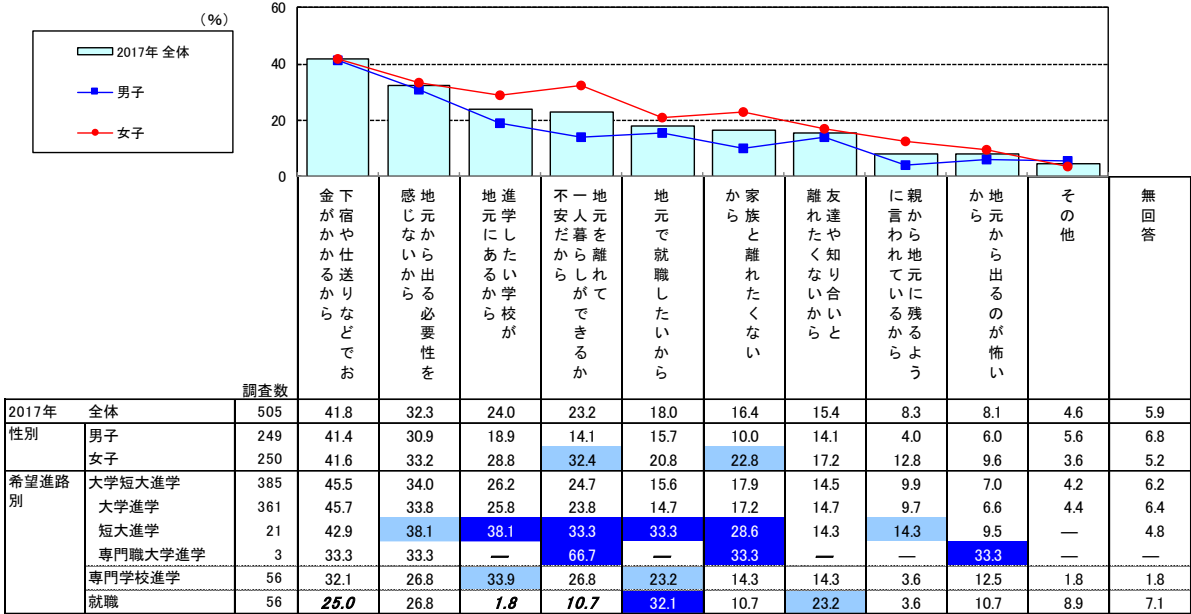
※「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い 17 Hh Q10SQ1

3) 地元の学校に進学したい・進学してほしい理由

▶ 高校生・保護者とも、「下宿や仕送りなどでお金がかかるから」地元の学校へ進学したい・してほしい。

● 25～26ページの『進路について思うこと』で「地元の学校に進学したい・してほしい」と回答した高校生・保護者に、その理由をすべて選んでもらった。
高校生の42%・保護者の73%が「下宿や仕送りなどでお金がかかるから」を挙げた。
次いで、高校生は「地元を出る必要性を感じないから」(32%)、「進学したい学校が地元にあるから」(24%)、「地元を離れて一人暮らしができるか不安だから」(23%)、「地元で就職したいから」(18%)。保護者は「地元を離れて一人暮らしができるか不安だから」(33%)、「治安や安全面が心配だから」(29%)、「地元で就職してほしいから」(24%)、「家族と離れてほしくないから」(22%)が続く。

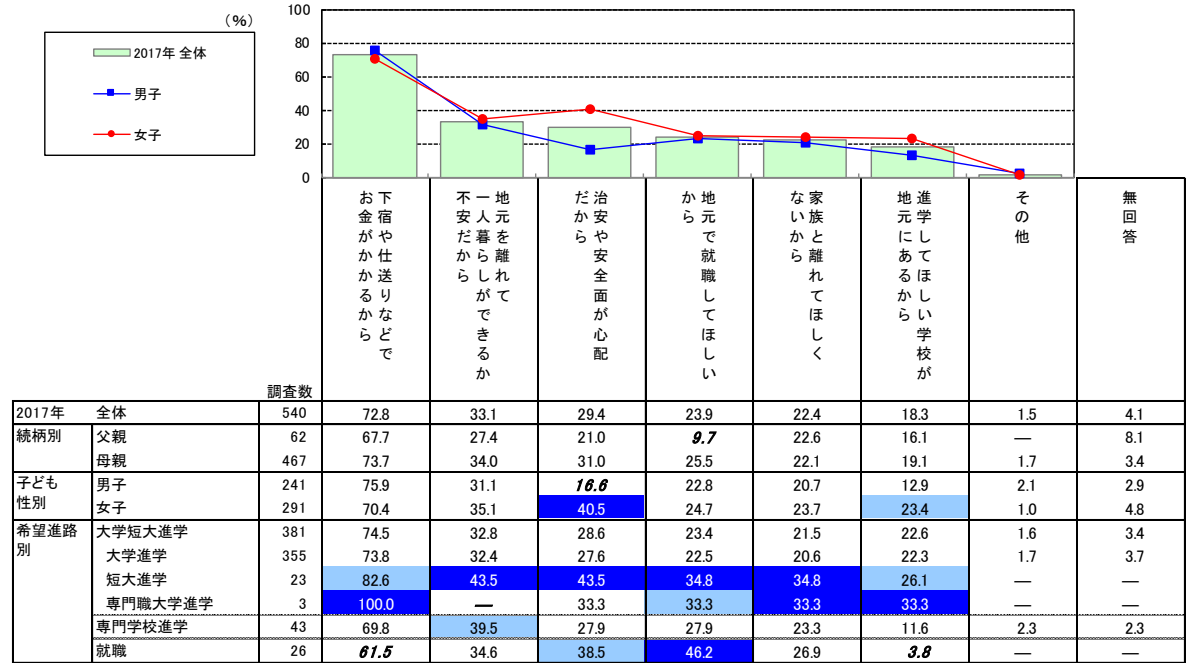
【高校生】 地元の学校に進学したい理由（地元の学校に進学したいと思う回答者／単一回答）



※「2017年全体」降順ソート ※「2017年属性別」 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

17 Kh Q17SQ2

【保護者】 地元の学校に進学してほしい理由（地元の学校に進学してほしいと思う回答者／複数回答）



※「2017年全体」降順ソート ※「2017年属性別」 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

17 Hh Q10SQ2

18. 将来就きたい・就いてほしい職業／その理由

1) 高校生が将来就きたい職業

▶ 高校生の55%が就きたい職業が「ある」。

▶ 就きたい職業のトップは「教師」。以下、「公務員」「看護師」など国家資格が必要な職業が上位。

男子は「公務員」「製造業」「教師」、女子は「看護師」「教師」「保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連」が人気。

● 高校生に将来就きたい職業はあるか尋ねたところ、「ある」が半数強(55%)。

● 性別にみると、「ある」の割合は女子(65%)が男子(47%)を大きく上回る。女子の過半数が将来就きたい職業を決めている。

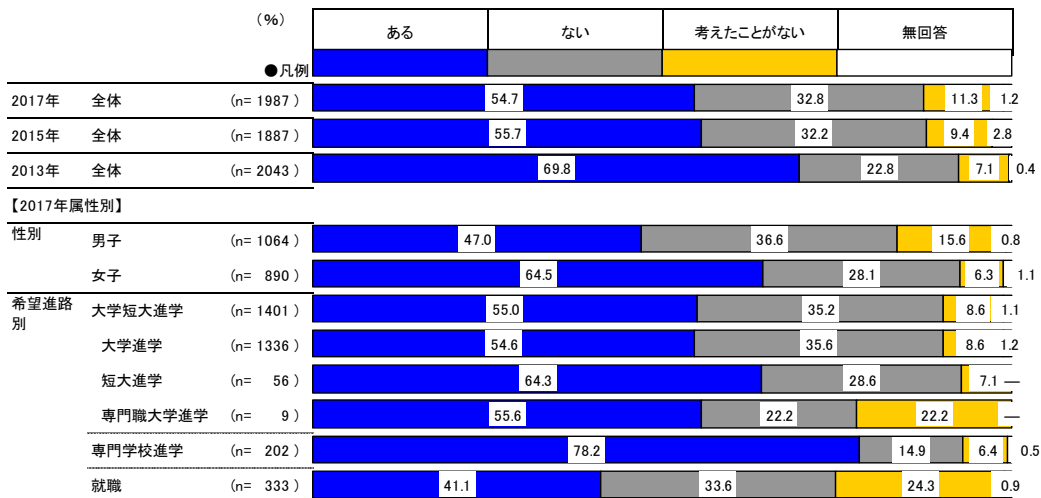
● 具体的に就きたい職業は、「教師」が最も多く、「公務員」「看護師」「製造業(自動車・造船など)」が続く。

● 男子は、「公務員」が最多。以下「製造業(自動車・造船など)」「教師」「医師・歯科医師・獣医」「エンジニア・プログラマー・IT関連」。

女子は、「看護師」が最多。以下「教師」「保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連」「公務員」「薬剤師」。

→フリーコメントは31ページに掲載

【高校生】 将来、就きたい職業があるか (全体／単一回答)



18 Kh Q22

【高校生】就きたい職業ランキング (就きたい職業が「ある」・職業回答者／自由回答)

(%)

全体		
順位	職業	(n=1045)
1	教師	10.5
2	公務員	10.2
3	看護師	7.9
4	製造業(自動車・造船など)	7.0
5	医師・歯科医師・獣医	5.6
6	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	5.3
7	薬剤師	4.3
8	技術者・研究者	3.3
9	建築士・建築関連	3.2
10	美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連	3.1
11	エンジニア・プログラマー・IT関連	2.9
12	画家・イラストレーター・アニメーター・CGデザイナー・芸術・ゲーム関連	2.6
13	放射線技師・臨床検査技師	2.5
14	管理栄養士・栄養士	2.4
15	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	2.1
16	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	2.0
17	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	1.8
	俳優・アイドル・ミュージシャン・声優・芸能関連	1.8
	会社員	1.8
20	ジャーナリスト・編集者・ライター	1.6

男子		
順位	職業	(n= 480)
1	公務員	16.0
2	製造業(自動車・造船など)	14.0
3	教師	12.1
4	医師・歯科医師・獣医	7.1
5	エンジニア・プログラマー・IT関連	5.4
6	技術者・研究者	5.2
7	建築士・建築関連	4.6
8	薬剤師	4.0
9	画家・イラストレーター・アニメーター・CGデザイナー・芸術・ゲーム関連	2.7
10	放射線技師・臨床検査技師	2.1
女子		
順位	職業	(n= 554)
1	看護師	13.7
2	教師	9.0
	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	9.0
4	公務員	5.2
5	薬剤師	4.7
6	医師・歯科医師・獣医	4.5
7	管理栄養士・栄養士	4.0
	美容師・理容師・ヘアメイクアーティスト・エステティシャン・美容関連	4.0
9	放射線技師・臨床検査技師	2.9
10	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	2.5
	臨床心理士・心理カウンセラー・スクールカウンセラー・心理関連	2.5

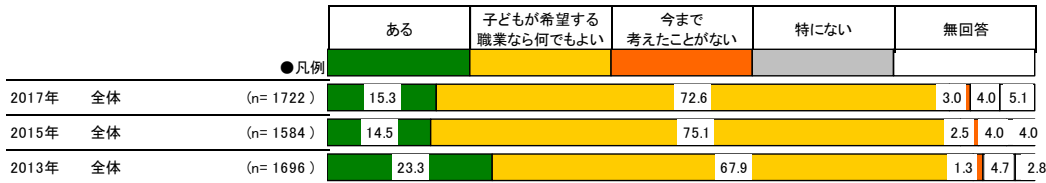
2) 保護者が子どもに将来就いてほしい職業

- ▶ 保護者の15%が子どもに就いてほしい職業が「ある」。73%が「子どもが希望する職業なら何でもよい」。
- ▶ 就いてほしい職業は「公務員」が突出。以下「看護師」「医療事務・医療関連」「医師・歯科医師・獣医」「教師」「薬剤師」など雇用が安定したイメージがある職業や医療系の職種が上位。

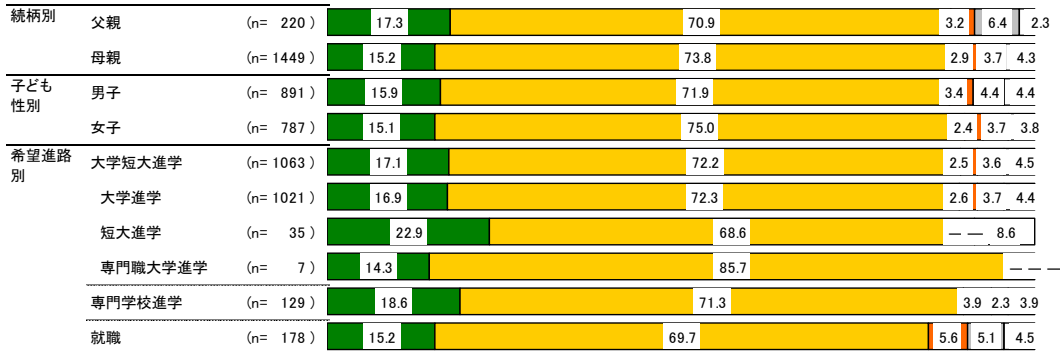
- 保護者に子どもに将来就いてほしい職業はあるか尋ねたところ、「子どもが希望する職業なら何でもよい」(73%)が過半数を占める。就いてほしい職業が「ある」は15%。
- 具体的に就いてほしい職業を尋ねたところ、「公務員」が突出。次いで「看護師」「医療事務・医療関連」「医師・歯科医師・獣医」「教師」「薬剤師」が続く。
- 男子の保護者では、「公務員」が突出。以下「医師・歯科医師・獣医」「医療事務・医療関連」「教師」「製造業(自動車・造船など)」が続く。
女子の保護者では、「看護師」が突出。以下「公務員」「医療事務・医療関連」「薬剤師」「医師・歯科医師・獣医」。

→フリーコメントは31ページに掲載

【保護者】 将来、子どもに就いて欲しい職業はあるか (全体／単一回答)



【2017年属性別】



18 Hh Q20

(%)

【保護者】就いてほしい職業 (就いてほしい職業がある・職業回答者／自由回答)

全体		
順位	職業	(n= 241)
1	公務員	32.0
2	看護師	12.9
3	医療事務・医療関連	9.5
4	医師・歯科医師・獣医	8.7
5	教師	5.8
6	薬剤師	5.8
7	製造業（自動車・造船など）	3.7
8	技術者・研究者	3.7
9	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	2.1
10	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	1.7
11	管理栄養士・栄養士	1.7
12	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	1.7
13	放射線技師・臨床検査技師	1.2
14	保健師	1.2
15	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ	1.2
16	空港職員・航空関連	1.2
17	鉄道関連	1.2
18	ホテル・旅館・旅行関連	1.2
19	会社員	1.2
20	学校職員	0.8
21	助産師	0.8
22	エンジニア・プログラマー・IT関連	0.8
23	建築士・建築関連	0.8
24	社長・経営者・起業家	0.8

子どもの性別：男子		
順位	職業	(n= 129)
1	公務員	44.2
2	医師・歯科医師・獣医	11.6
3	医療事務・医療関連	8.5
4	教師	7.0
5	製造業（自動車・造船など）	6.2
6	技術者・研究者	5.4
7	薬剤師	4.7
8	看護師	2.3
9	鉄道関連	2.3
10	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	2.3
子どもの性別：女子		
順位	職業	(n= 110)
1	看護師	24.5
2	公務員	17.3
3	医療事務・医療関連	10.9
4	薬剤師	7.3
5	医師・歯科医師・獣医	5.5
6	教師	4.5
7	保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連	3.6
8	管理栄養士・栄養士	3.6
9	保健師	2.7
10	社会福祉士・介護福祉士・福祉関連	2.7

<フリーコメント> 将来就きたい職業の理由【高校生】**■教師**

- 自分を育て、指導してくれた先生のようにになりたいと思ったから。
[岩手県/男子/大学]
- 教えることが好き。大変な分やりがいや達成感があると思う。
[北海道/女子/大学]
- 身近で安定していて忙しそうだがやりがいがありそうだから。
[東京都/男子/大学]
- 今までたくさんの先生方に支えられた。今度は自分が生徒の力になりたいと思うから。[岡山県/女子/大学]z
- 人の夢を育てる、すばらしい職業だと思うから。[長崎県/男子/大学]

■公務員(国家・地方、警察官・消防士・自衛官など)

- 本当にやりたいこと(趣味を超えて)をするために、時間とお金が必要だから。[北海道/男子/大学]
- 収入が安定しているし、子育てにも協力的で安心して生活ができそうだから。[福島県/女子/大学]
- 社会を支えていけるような仕事に就きたいため。
[和歌山県/男子/大学]
- 地域活性化に貢献するため。[福島県/男子/大学]
- 命救助は勇気もあるし、身の危険もあり大変なのはわかるがやりがいはあると思うから。[長野県/男子/大学]

■看護師

- 母が看護師だから。小さい頃からの夢だから。
[北海道/女子/専門学校]
- いつまでも働けるし、人と関わるのが好きだし、看護の分野に興味があるから。[東京都/女子/専門学校]
- 就職するときに、正社員で雇ってくれる所が多いから。安定しているから。人の役に立ちたい。資格をとっていた方が、これからの時代はいいから。[長崎県/女子/大学]
- 医療に興味があるし、安定しているから。[/]

<フリーコメント> 将来就いてほしい職業の理由【保護者】**■公務員(国家・地方、警察官・消防士・自衛官など)**

- 安定した職業であり、国や地方が潰れる事は滅多にないので。
[岡山県/母親/男子/大学]
- 子供が自分の将来の事を考えて、安定した職業だと、言ったから。
[北海道/母親/男子/専門学校]
- 女性が働き続けるための環境が整っていることが多いから。
[長崎県/母親/女子/大学]
- 責任感があり、スポーツをずっとしてきているので、体力もあり、向いていると思うから。[長野県/母親/男子/専門学校]

■看護師

- 人を助ける職業に就きたいと言っていたので、大変だけれど、やりがいもあり、また高収入で安定していると思うから。
[岐阜県/母親/男子/その他]
- 子供は小さい頃から人の役に立つ仕事、やりがいのある仕事、医療に関する事、どんな仕事かは、はっきりしないが言葉にして話していましたので、やりたい仕事を一番して欲しいです。自分の人生だから。
[長崎県/母親/女子/その他]
- 女性として、働きがいのある、年齢、状況に合わせた働き方ができる。子どももやってもよいと考えているから。[岐阜県/母親/女子/大学]
- 資格があれば再就職もできる可能性が高く、いくつになっても働くことができるので[東京都/母親/女子/大学]

■医療事務・医療関連

- 本人も医療職を希望しているので、又、専門職であるため、人の健康維持に取り組んで充実感を得る事ができる。
[岩手県/母親/男子/大学]
- 私自身も看護師で、手に職をつけておいて良かったと思うから。
[岡山県/母親/女子/専門学校]
- 安定している。資格を取れる・活かせる。[長崎県/母親/女子/大学]
- いつまでも働けるから[岡山県/母親/女子/大学]

■製造業(自動車・造船など)

- 自分が小さい頃からずっとあこがれていた職業で、人の役にも立てるし、今後どんな事があっても車はなくなるから。
[長野県/男子/専門学校]
- 物を作ったりすることが好きで、部品などを作りたいと思ったから。
[長崎県/男子/就職]
- 流れ作業だから、勉強とかが苦手だから合っていると思った。
[群馬県/女子/就職]

■医師・歯科医師・獣医

- 安定していて、なおかつ高収入だから。大変な仕事だと思うので、生活にハリが出ると思うから。[/]
- 人のために自分が役立っていることを自覚できるから。金銭面でも親に恩返しができそうだから。[岩手県/男子/大学]
- 自分がサッカーをやっている縁でスポーツで負傷した人の診察をしたいから。あこがれたから。[岩手県/男子/大学]

■保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連

- 子供が好きで、子供とかかわれる仕事をしたいから。誰かの役に立ちたいから。[長野県/女子/大学]
- 小さい頃から小さい子が好きで、保育体験に行った時に、保育士をずっとやれたら嬉しいと思ったから。[東京都/女子/短期大学]
- 子供が好きだし、今、人が足りていないから。[群馬県/女子/専門学校]

■薬剤師

- 昔から医療関係の仕事に就きたかった。病気を治す手助けをしたい。給料が安定している。[北海道/女子/大学]
- 小さい時に体が弱くよく薬を使っていたので、自分が救う側になりたいから。[長崎県/男子/大学]
- 薬のことを勉強して、開発などもしたいし、薬を使って病気で苦しんでいる人の役に立ちたいから。[長崎県/女子/大学]

■医師・歯科医師・獣医

- 父が医師なので、同業者として悩みを受けとめやすいしどのような苦労も人のために、自分の糧になるわかりやすい仕事だと思うから。
[北海道/母親/男子/大学]
- 社会的に安定し、尚、人の役に立つ職業に就いてほしいから。
[和歌山県/母親/男子/大学]

■教師

- 本人が希望しているし、人と関わりを持つ中で自己有用感を抱くことも出来ると思うから。[岡山県/母親/女子/大学]
- 安定しているから又親が教員をしているから。
[東京都/母親/男子/大学]

■薬剤師

- 国家試験に合格し、医薬品の調合、供給、その他の薬事衛生に携わる人になってもらいたい。[福島県/母親/女子/大学]
- 資格を持って、長く働いて欲しいと思うから。
[岩手県/母親/女子/大学]

■製造業(自動車・造船など)

- せっかく資格を取得したのでそれをいかしてほしい。
[大阪府/母親/男子/何でもいい]
- 人の生活を発展させたり、役に立つものをつくることは、夢のある仕事だから。またそれを、チームで開発していくことで人間としても成長できるから。[長崎県/母親/男子/大学]

■技術者・研究者

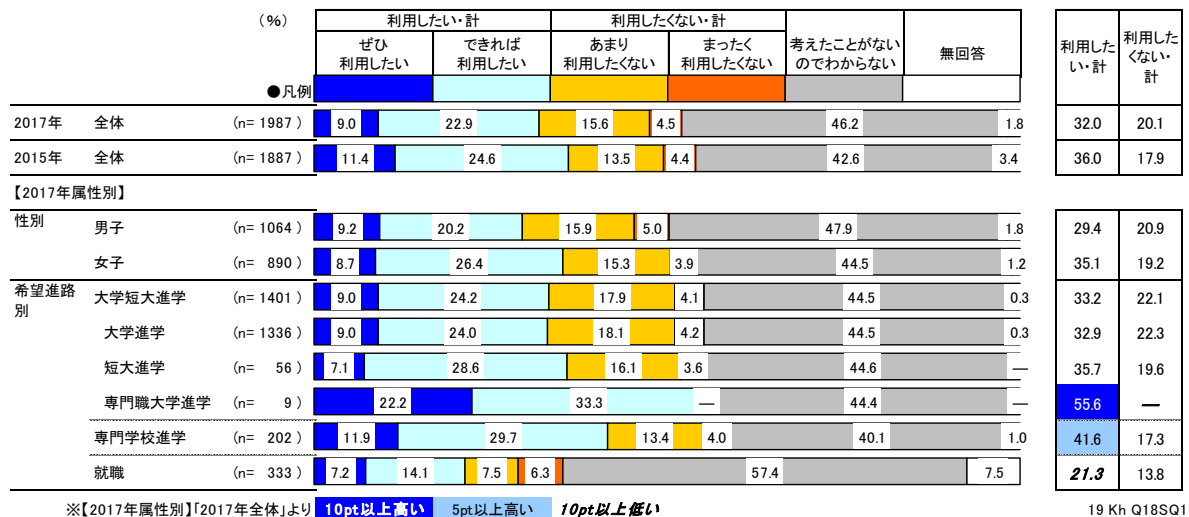
- 科学技術の進歩に関するような仕事をしてもらいたい。
[群馬県/母親/男子/大学]
- 子供が望んでいるから ノルマに左右されずにアカデミックな分野で活躍してほしいから。[長野県/母親/男子/大学]

19.貸与型奨学金制度の利用意向

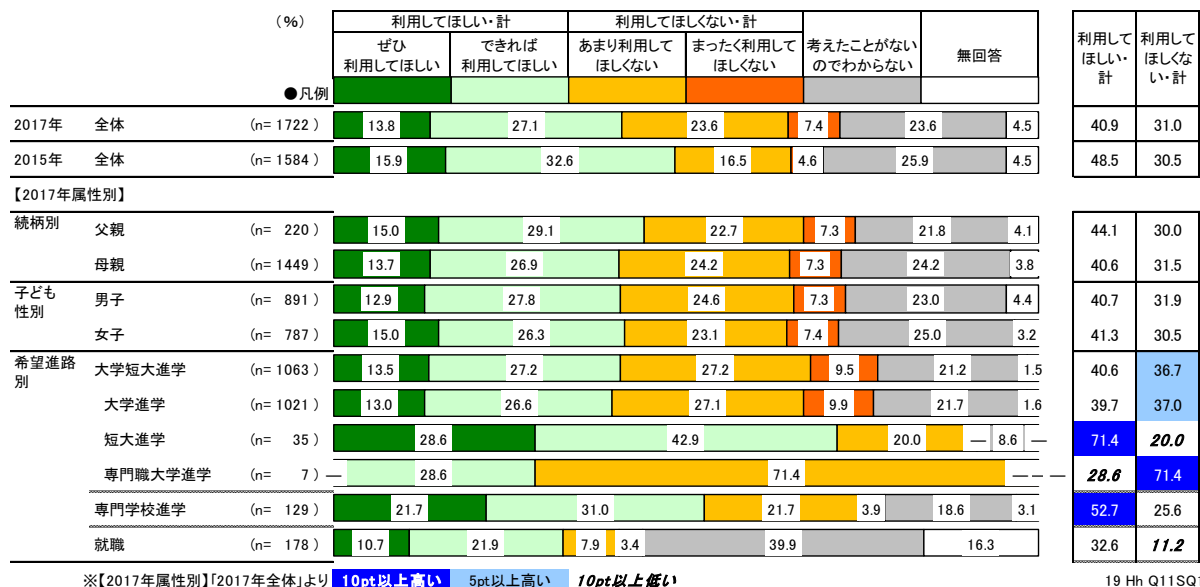
- ▶ 高校生の32%が貸与型奨学金を「利用したい」・保護者の41%が「利用してほしい」。
- ▶ 保護者の利用意向が高校生に比べ高い。
- ▶ 高校生・保護者とも、専門学校希望者の利用意向が相対的に高い。

- 高校生に貸与型奨学金制度の利用意向を尋ねたところ、9%が「ぜひ利用したい」と回答。「できれば利用したい」(23%)を含め、32%が利用したいと回答(利用したい・計)。一方で、46%は「考えたことがないのでわからない」。
- 性別にみると「利用したい・計」の割合は女子(35%)が男子(29%)を上回る。
- 希望進路別にみると、「利用したい・計」は、専門学校進学希望者(42%)が他層に比べ高い。
- 同様に、保護者にも貸与型奨学金の利用意向を尋ねたところ、14%が「ぜひ利用してほしい」と回答。「できれば利用してほしい」(27%)を含め、41%が利用してほしいと思っている(利用してほしい・計)。一方、「利用してほしい・計」は31%、「考えたことがないのでわからない」は24%。
- 希望進路別にみると、「利用してほしい」は専門学校進学希望者(53%)が他層に比べ高い。

【高校生】貸与型奨学金制度の利用意向(全体/単一回答)



【保護者】貸与型の奨学金制度の利用意向(全体/単一回答)

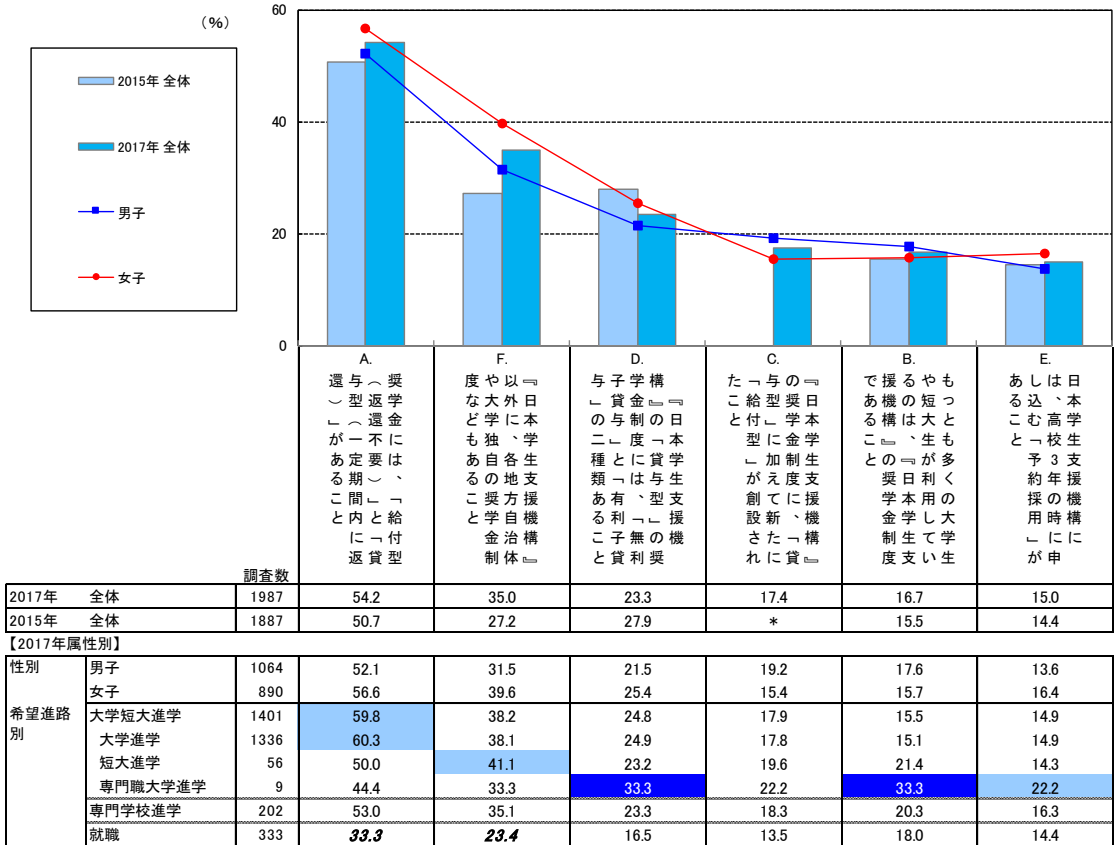


20.奨学金制度に関する認知

- ▶奨学金制度に関して、「給付型と貸与型があること」は高校生の半数強が認知。
- ①奨学金には、「給付型（返還不要）」と「貸与型（一定期間に返還）」があること (54%)
 - ②『日本学生支援機構』以外に、各地方自治体や大学独自の奨学金制度などもあること (35%)
 - ③『日本学生支援機構』の「貸与型」の奨学金制度には、「無利子貸与」と「有利子貸与」の二種類あること (23%)
 - ④『日本学生支援機構』の奨学金制度に、「貸与型」に加えて新たに「給付型」が創設されたこと (17%)
 - ⑤もっとも多くの大学生や短大生が利用しているのは、『日本学生支援機構』の奨学金制度であること (17%)
- ▶大学短大進学希望者の6割が「給付型と貸与型があること」を認知。

- 高校生に対して奨学金制度に関する認知を尋ねたところ、「知っていた」の回答上位は上記の通り。
- 男女とも上位の顔ぶれは同様。女子は男子に比べて「日本学生支援機構以外の奨学金制度があること」の認知率が高い。
- 希望進路別にみると、大学短大進学・専門学校進学希望者は「給付型と貸与型があること」の認知率が半数以上。特に大学短大進学希望者で60%に達する。

【高校生】 奨学金制度の認知状況（全体／「知っていた」）



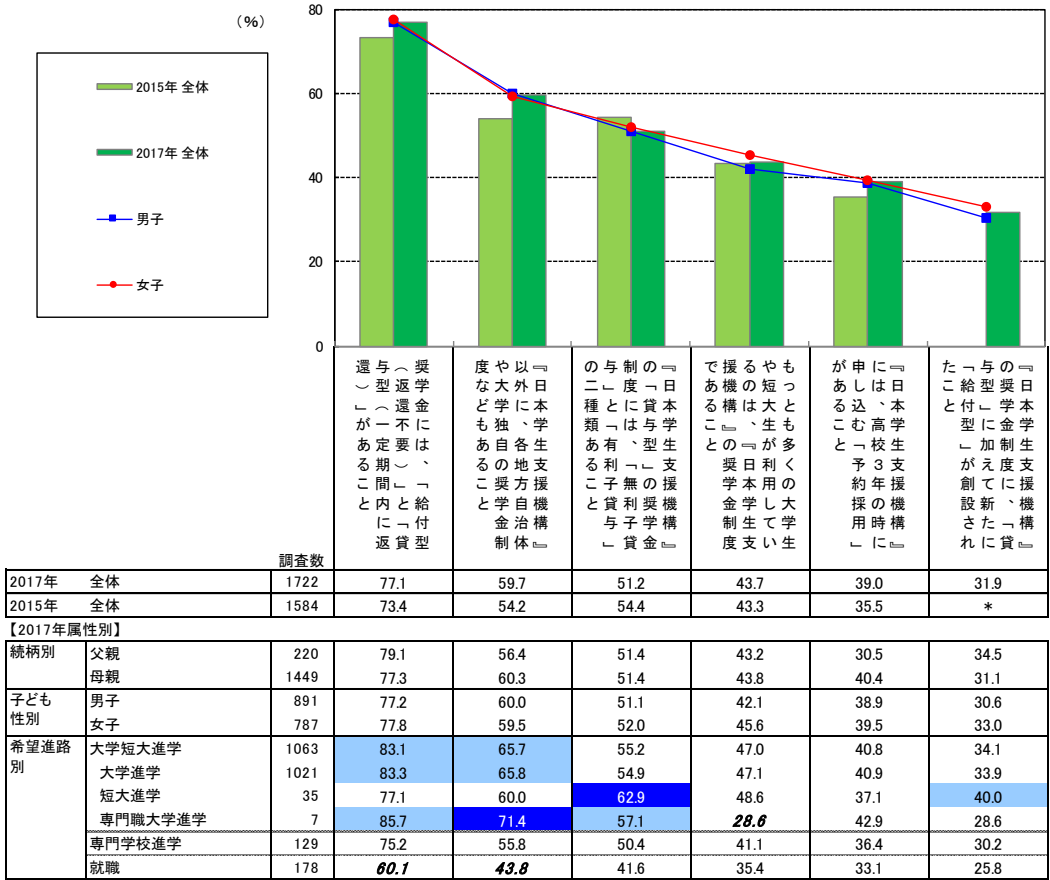
※「2017年全体」降順ソート

※【2017年属性別】
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

- ▶奨学金制度に関して、「給付型と貸与型があること」は保護者の約8割が認知。
- ①奨学金には、「給付型（返還不要）」と「貸与型（一定期間に返還）」があること (77%)
 - ②『日本学生支援機構』以外に、各地方自治体や大学独自の奨学金制度などもあること (60%)
 - ③『日本学生支援機構』の「貸与型」の奨学金制度には、「無利子貸与」と「有利子貸与」の二種類あること (51%)
 - ④もっとも多くの大学生や短大生が利用しているのは、『日本学生支援機構』の奨学金制度であること (44%)
 - ⑤『日本学生支援機構』の奨学金制度には、高校3年の時に申し込む「予約採用」があること (39%)

- ▶大学短大進学希望者の8割が「給付型と貸与型があること」を認知。
- 保護者に対しても奨学金制度に関する認知を尋ねたところ、「知っていた」の回答上位は上記の通り。
 - 続柄別にみると、各項目の認知率は概ね同程度だが、「予約採用」は母親の認知(40%)が父親(31%)を上回る。
 - 希望進路別にみると、大学短大進学・専門学校進学希望者は、「給付型と貸与型があること」「日本学生支援機構以外の奨学金制度があること」「日本学生支援機構の奨学金制度には無利子と有利子があること」を半数以上が認知。特に大学短大進学希望者は「給付型と貸与型があること」(83%)、「日本学生支援機構以外の奨学金制度があること」(66%)の認知率が過半数に達する。

【保護者】 奨学金制度の認知状況（全体／「知っていた」）



※「2017年全体」降順ソート
※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

21. 家庭の経済事情の進路決定への影響

▶ 保護者の74%が、家庭の経済事情が子どもの進路決定に「影響がある」。

- 保護者に、家庭の経済事情が子どもの進路選択にどの程度影響があるか質問した。「非常に影響がある」が31%、「ある程度影響がある」(44%)を含めた「影響がある・計」は74%。過半数が、家庭の経済事情が子どもの進路決定になんらか影響があると回答。
- 続柄別にみると、「影響がある・計」の割合は母親(75%)が父親(71%)をやや上回り、母親のほうが影響があると感じている。
- 子ども性別にみると、「影響がある・計」の割合は女子(76%)が男子(73%)に比べやや高い。
- 希望進路別にみると、「影響がある・計」の割合は専門学校進学希望者(81%)で最も高い。次いで、大学短大進学希望者(75%)、就職希望者(71%)でも過半数が影響があると回答。
- 32ページ『貸与型奨学金制度の利用意向』回答別にみると、「利用したい」層の87%が「影響がある・計」。「非常に影響がある」割合が4割と「利用したくない」層を大きく上回っており、家庭の経済事情が奨学金制度の利用意向により強く影響しているようである。一方、「利用したくない」層でも、75%が「影響がある・計」と回答。家庭の経済事情が進路決定になんらか影響していることがうかがわれる。

【保護者】 家庭の経済事情の進路決定への影響（全体／単一回答）

			(%)		影響がある・計		影響がない・計		無回答		影響がある・計	影響がない・計
					非常に影響がある	ある程度影響がある	どちらともいえない	あまり影響がない	まったく影響がない			
●凡例												
2017年	全体	(n= 1722)			30.6		43.6		14.2	7.6 2.0 2.0	74.2	9.6
続柄別	父親	(n= 220)			24.1		46.8		13.2	10.9 3.6 1.4	70.9	14.5
	母親	(n= 1449)			31.5		43.8		14.3	7.2 1.8 1.4	75.2	9.0
子ども性別	男子	(n= 891)			28.5		44.4		15.6	7.5 2.4 1.6	73.0	9.9
	女子	(n= 787)			32.9		43.3		13.0	7.9 1.7 1.3	76.2	9.5
希望進路別	大学短大進学	(n= 1063)			28.6		46.4		13.0	9.6 2.2 0.3	75.0	11.8
	大学進学	(n= 1021)			27.9		46.4		13.1	10.0 2.3 0.3	74.3	12.2
	短大進学	(n= 35)			42.9		48.6		8.6	— — —	91.4	—
	専門職大学進学	(n= 7)			57.1		28.6		14.3	— — —	85.7	—
	専門学校進学	(n= 129)			39.5		41.1		14.0	3.9 1.6 —	80.6	5.4
	就職	(n= 178)			37.1		34.3		15.2	4.5 1.1 7.9	71.3	5.6
	貸与型奨学金利用意向別											
	利用したい・計	(n= 704)			40.6		46.4		9.4	2.7 0.6 0.3	87.1	3.3
	利用したくない・計	(n= 533)			28.3		46.5		11.3	10.1 3.6 0.2	74.9	13.7

※「2017年全体」より 10pt以上高い 5pt以上高い 10pt以上低い

21 Hh Q12

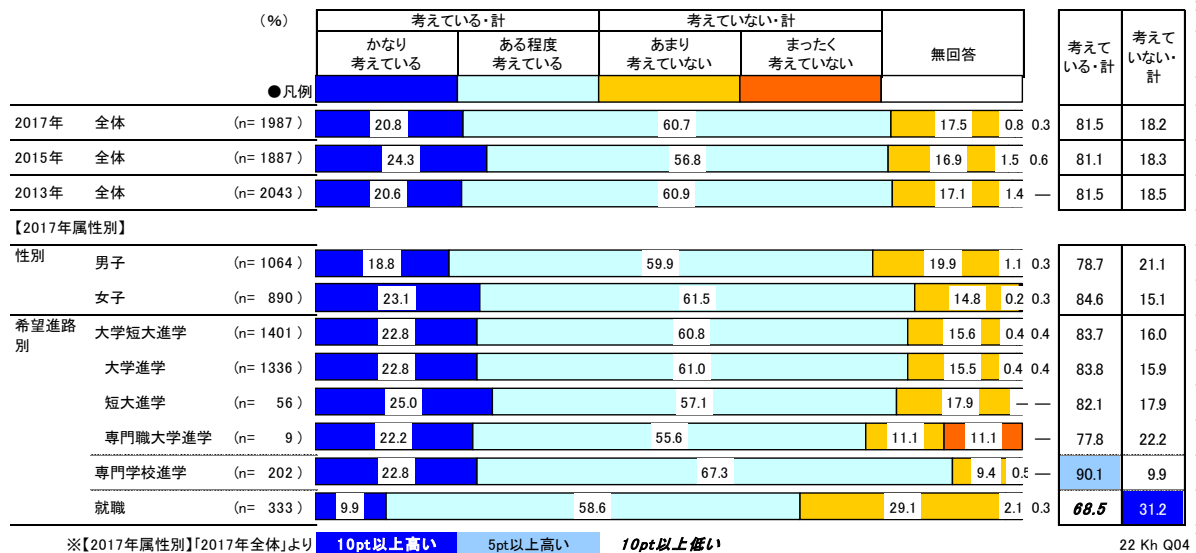
Ⅲ 進路・将来にまつわる期待と不安

22.進路意識と将来への自信

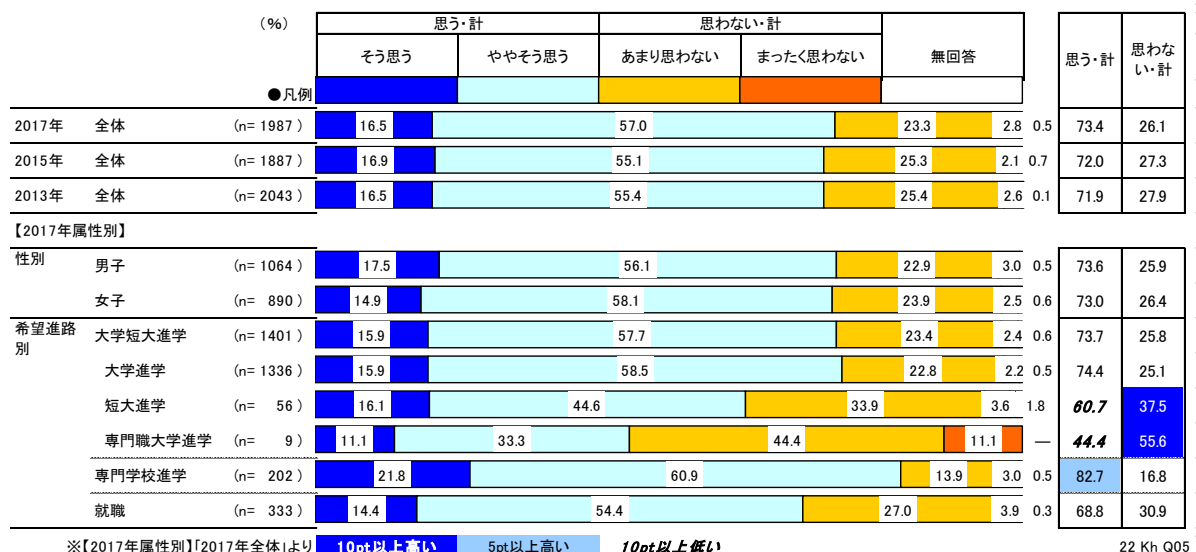
▶ 高校生の82%が進路について「考えている」。73%が自分の進路を歩んでいけると「思う」。

- 高校2年生の時点で進路選択についてどの程度考えているか高校生に質問したところ、21%が「かなり考えている」と回答。「ある程度考えている」(61%)と合わせると82%が進路について考えている(考えている・計)。
- 性別にみると、「考えている・計」の割合は女子(85%)が男子(79%)を上回り、女子の進路検討意識が相対的に高い。
- 希望進路別にみると、「考えている・計」は大学短大進学・専門学校進学希望者では8～9割を占めるが、就職希望者(69%)の進路検討意識は相対的に低い。
- また、これからいろいろなことがあっても自分の進路を歩んでいけそうか高校生に質問したところ、「そう思う」は17%、「ややそう思う」(57%)を含めた73%が自分の進路を歩んでいけそうと思っている(思う・計)。
- 男女とも「思う・計」は7割強。
- 希望進路別にみると、「思う・計」は専門学校進学希望者が83%と、大学短大進学希望者(74%)・就職希望者(69%)を上回り、自分の進路は実現可能であるという認識が相対的に高い。

【高校生】 自分の進路選択について考えているか (全体／単一回答)



【高校生】 自分の進路を歩んでいけそうか (全体／単一回答)

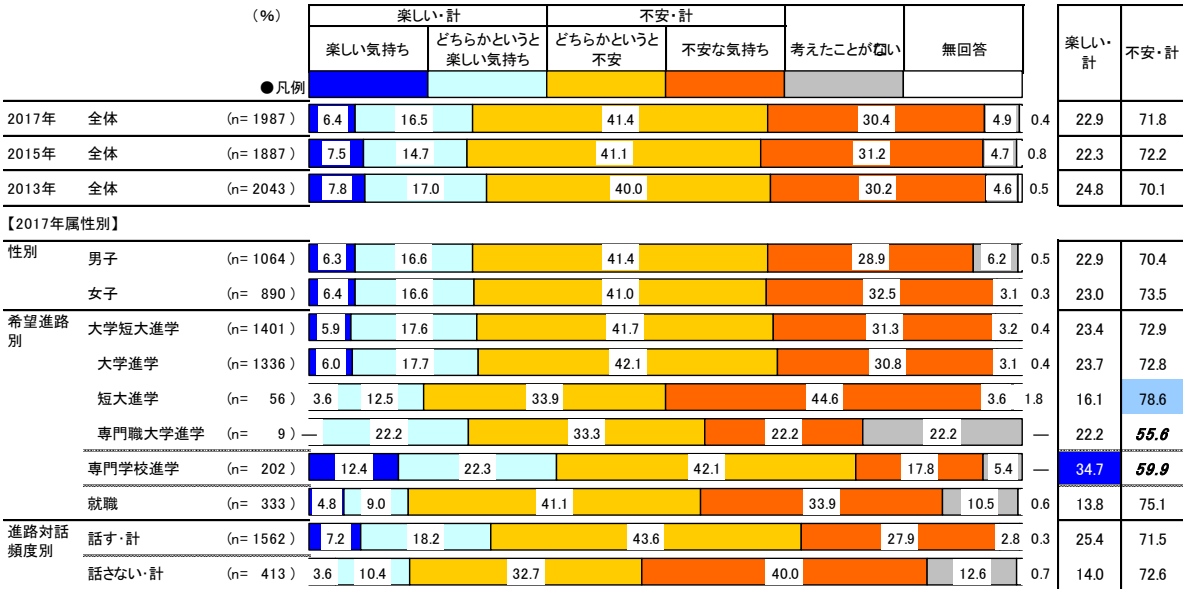


23.進路を考えたときの気持ち

▶ 進路を考えたとき、高校生の72%が「不安」

- 高校生に進路を考えたとき、どんな気持ちになるか質問したところ、「楽しい気持ち」は6%。「どちらかという楽しい気持ち」(17%)を合わせて23%が「楽しい」と回答(楽しい・計)。一方、「どちらかという不安」(41%)、「不安な気持ち」(30%)を含めた「不安・計」は72%。進路に不安を感じている高校生が過半数を占めている。
- 進路対話頻度別にみると、保護者と進路について話す層では「楽しい・計」が25%で話さない層に比べて高い。一方、話さない層では「考えたことがない」(13%)が話す層に比べて高い。
- さらに、進路を考えたときの気持ち別に保護者と進路について話す内容(6ページ参照)をみると、「楽しい気持ち・計」と回答した高校生は「将来の自分の夢」が高く、自分の将来への希望を保護者と話していることがわかる。

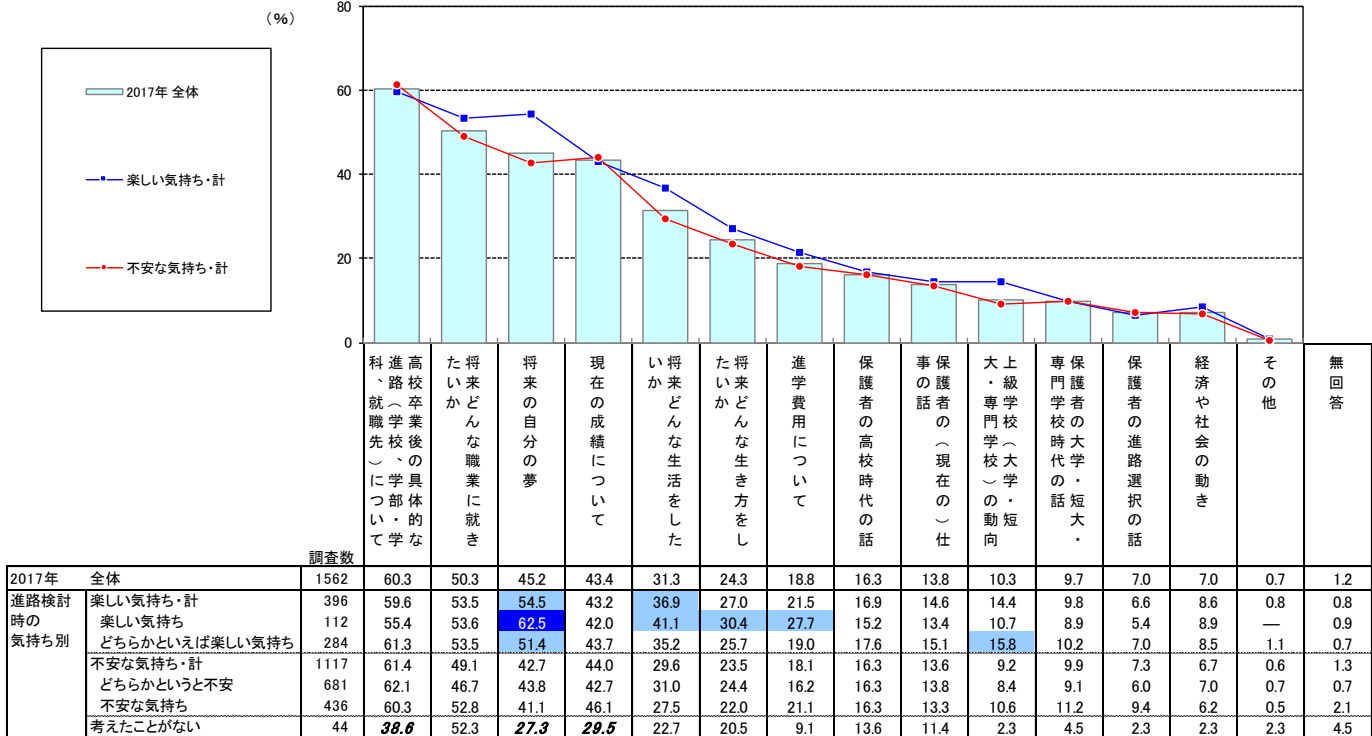
【高校生】 進路を考える時、どんな気持ちになるか (全体／単一回答)



※【2017年属性別】「2017年全体」より 10pt以上高い 5pt以上高い 10pt以上低い

23 Kh Q06

【高校生】 進路について保護者とどんな話をしているか (よく話をする〜時々話をする／複数回答)



※ 「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

23 Kh Q01SQ1

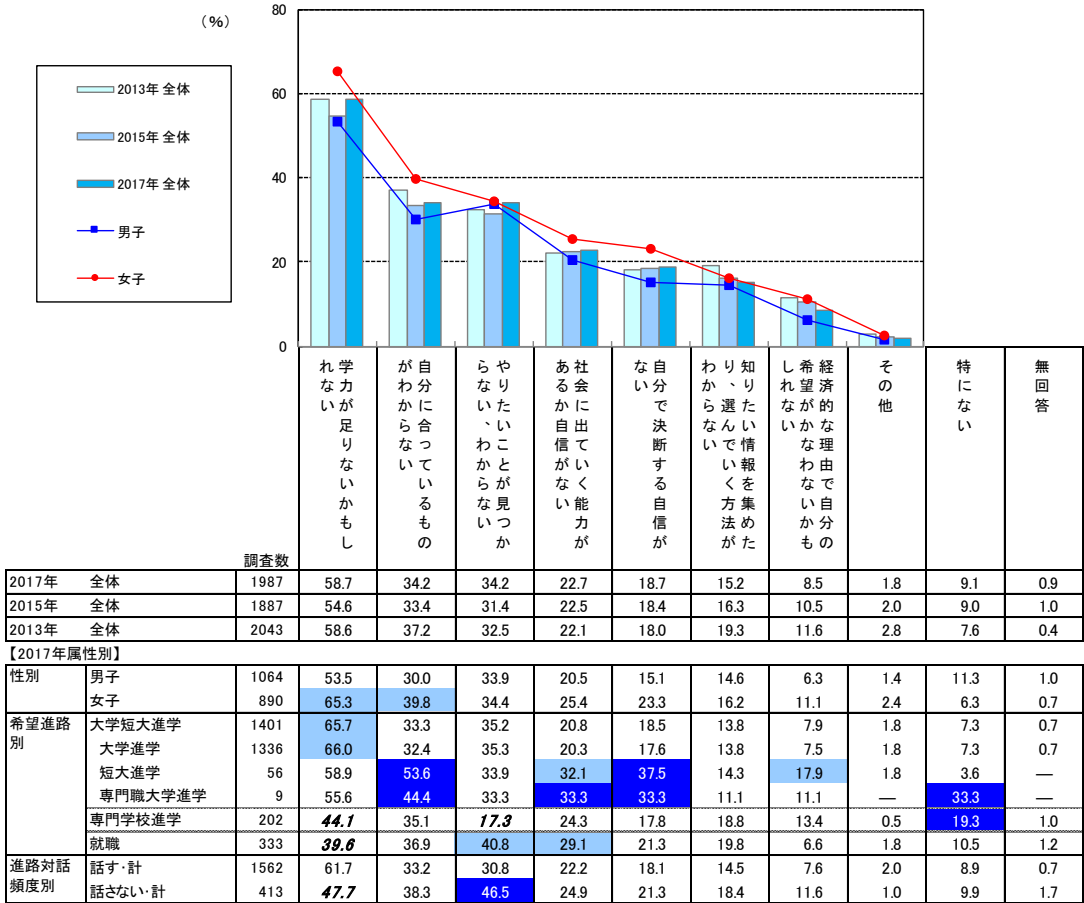
24.進路選択についての気がかり

▶ 進路選択について高校生の最大の気がかりは「学力不足」。

- ①学力が足りないかもしれない (59%)
- ②自分に合っているものがわからない (34%)
- ③やりたいことが見つからない、わからない (34%)

- 高校生に進路選択についての気がかりをすべて選んでもらった。トップは「学力が足りないかもしれない」が6割。過去調査と比較して、上位の顔ぶれは変わらない。
- 性別にみると、女子は男子に比べ「学力が足りないかもしれない」「自分に合っているものがわからない」「自分で決断する自信がない」のスコアが高く、気がかりが多いことがわかる。
- 希望進路別にみると、大学短大進学・専門学校進学希望者では「学力が足りないかもしれない」、就職希望者では「やりたいことが見つからない、わからない」がそれぞれトップ。
- 進路対話頻度別にみると、話す層は話さない層に比べ「学力が足りないかもしれない」が高い。一方、話さない層では「自分に合っているものがわからない」「やりたいことが見つからない、わからない」のスコアが話す層に比べ高い。

【高校生】 進路選択についての気がかり（全体／複数回答）



※「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

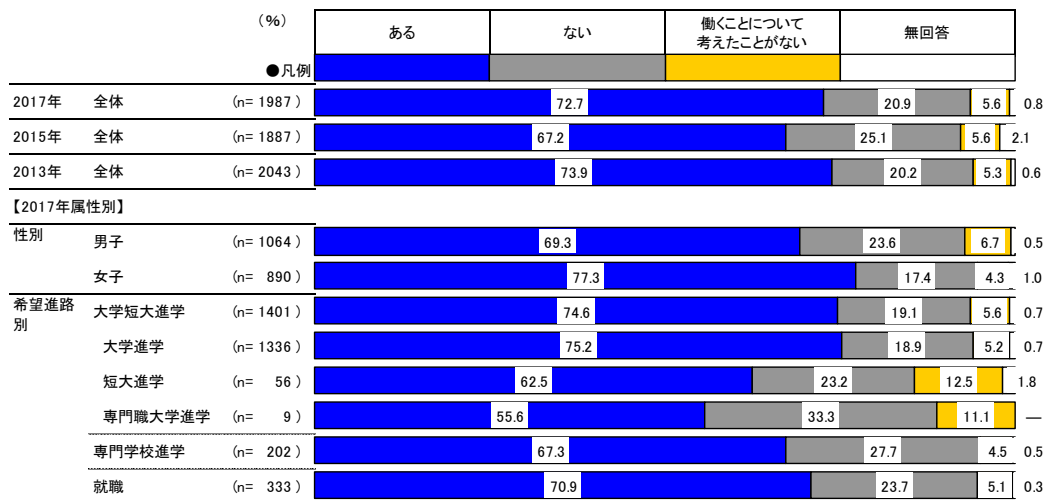
25.将来働くことについての気がかかり

1) 高校生が将来働くことについて気がかかりはあるか

▶ 高校生の7割・保護者の6割が、高校生が将来働くことについて気がかかりが「ある」。

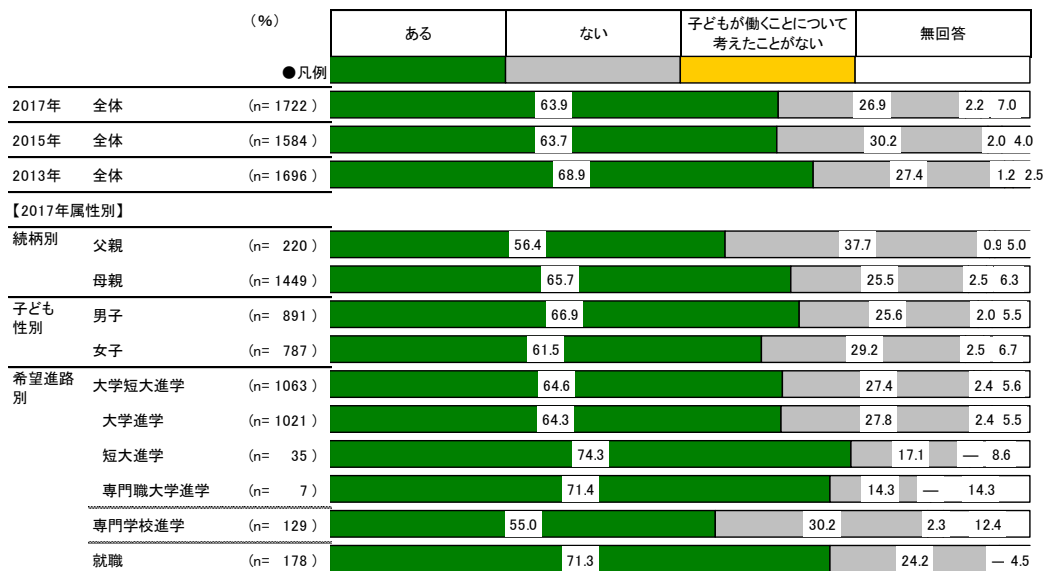
- 高校生が将来働くことについて気がかかりなことがあるかという質問に、高校生の73%が「ある」と回答。過去調査結果と比較すると、「ある」の割合は2015年に減少したが、今回は2013年と同程度まで増加した。
- 性別にみると、「ある」の割合は女子(77%)が男子(69%)よりも高い。
- 同様に、保護者にも将来子どもが働くことについて気がかかりはあるか尋ねたところ、64%が「ある」。過去調査結果と比較すると、「ある」の割合は2015年に減少し今回も同程度で推移。この結果、高校生の認識とのスコア差がやや開いている。
- 続柄別にみると、「ある」の割合は母親(66%)が父親(56%)よりも高い。
- 子どもの性別にみると、「ある」の割合は男子(67%)が女子(62%)よりもやや高い。
- 希望進路別にみると、「ある」の割合は就職希望者が最も高く、71%。次いで、大学短大進学希望者(65%)、専門学校進学希望者(55%)。

【高校生】 将来、働くことについて気がかかりなことはあるか（全体／単一回答）



25 Hh Q18SQ1

【保護者】 将来、子どもが働くことについて気がかかりはあるか（全体／単一回答）



25 Hh Q18SQ1

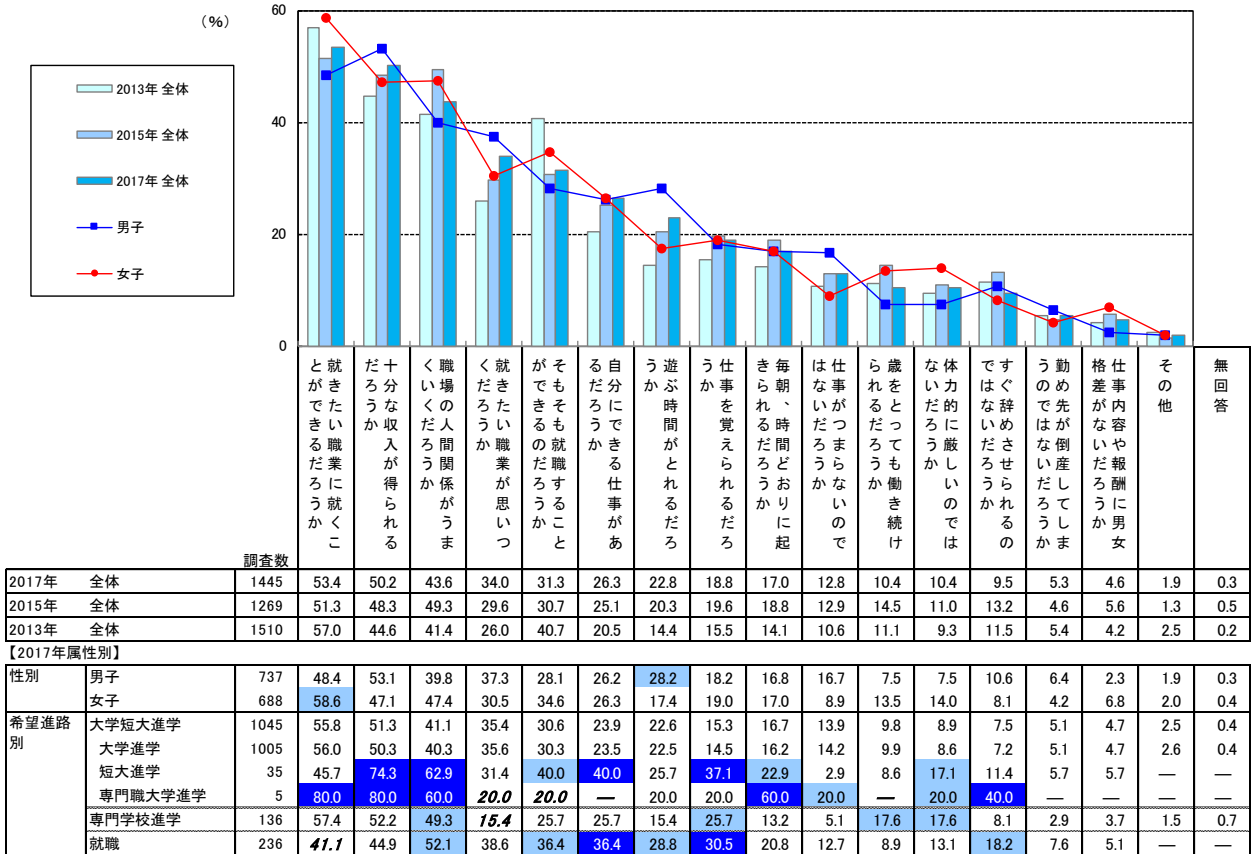
2) 将来働くことについて気がかりなこと

▶ 将来働くことについて、高校生の最大の気がかりは「就きたい職業に就けるか」。

- ① 就きたい職業に就くことができるだろうか (53%)
- ② 十分な収入が得られるだろうか (50%)
- ③ 職場の人間関係がうまくいくだろうか (44%)
- ④ 就きたい職業が思いつくだろうか (34%)
- ⑤ そもそも就職することができるのだろうか (31%)

- 39ページで『将来働くことについて気がかり』が「ある」と回答した高校生と保護者に、具体的に気がかりな内容を5項目まで選んでもらった。高校生の回答上位は上記の通り。
- 性別にみると、男子は「十分な収入が得られるだろうか」(53%)、女子は「就きたい職業に就くことができるだろうか」(59%)がそれぞれトップ。
以下、男子は「就きたい職業が思いつくだろうか」「遊ぶ時間がとれるだろうか」「仕事がつまらないのではないだろうか」、女子は「職場の人間関係がうまくいくだろうか」「そもそも就職することができるだろうか」「体力的に厳しいのではないだろうか」「歳をとっても働き続けられるだろうか」がそれぞれ相対的に高い。男子は仕事の内容・条件への気がかり、女子は仕事に就けるか・続けられるかの気がかりがより強いことがうかがわれる。
- 希望進路別にみると、大学短大進学・専門学校進学希望者は「就きたい職業に就くことができるだろうか」、就職希望者は「職場の人間関係がうまくいくだろうか」がそれぞれトップ。
就職希望者は進学希望者に比べ「そもそも就職することができるのだろうか」「自分にできる仕事があるだろうか」「仕事を覚えられるだろうか」が相対的に高く、3割以上。就職・職業選択への気がかりがより強い。

【高校生】 将来、働くことについて気がかりなこと（気がかりが「ある」回答者／5項目まで複数回答）



※「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

▶ 子どもが将来働くことについて、保護者の気がかりも「就きたい職業に就けるか」。

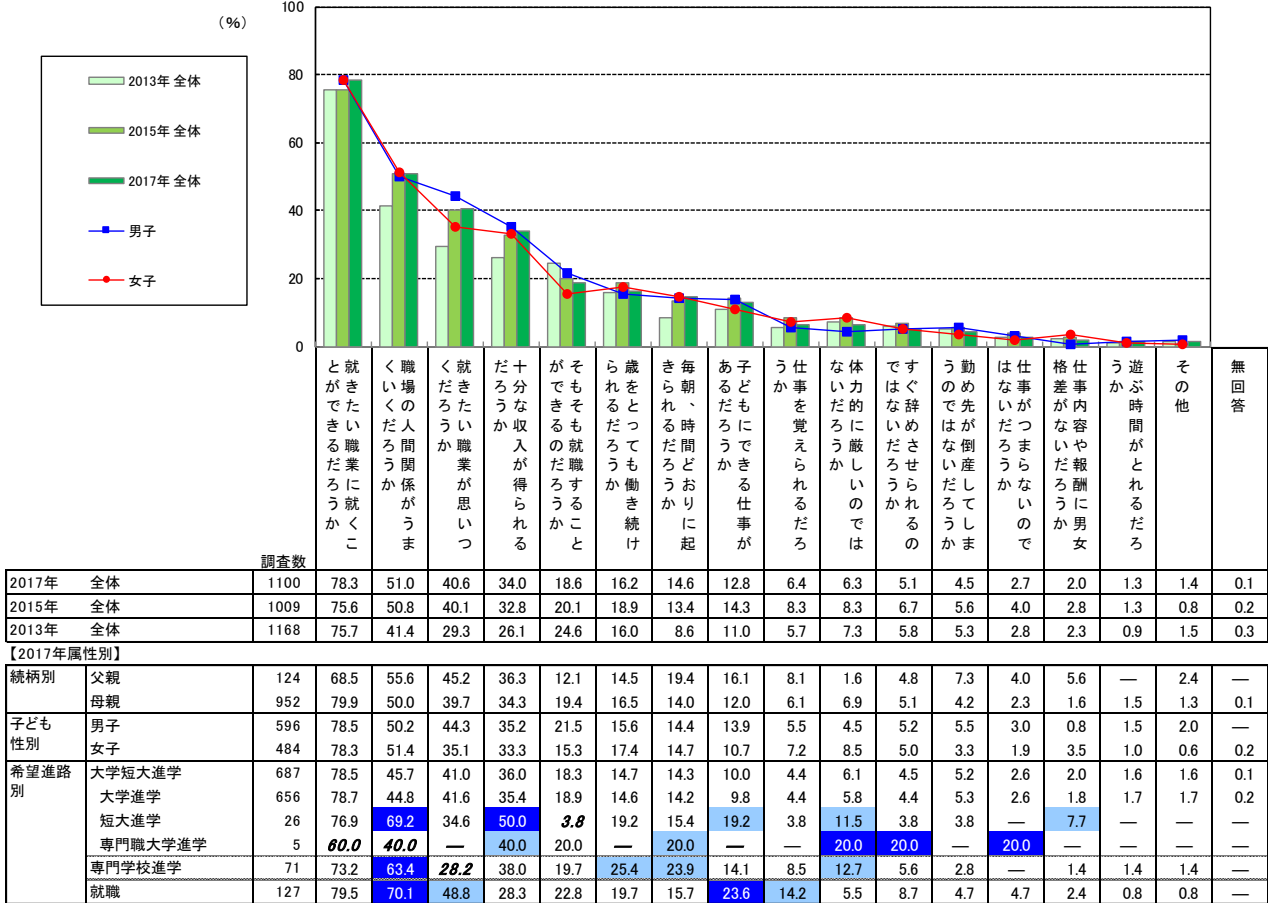
- ①就きたい職業に就くことができるだろうか (78%)
- ②職場の人間関係がうまくいだろうか (51%)
- ③就きたい職業が思いつくだろうか (41%)
- ④十分な収入が得られるだろうか (34%)
- ⑤そもそも就職することができるのだろうか (19%)

- 保護者の回答上位は上記の通り。「就きたい職業が思いつくだろうか」(78%)が突出、スコアは2015年から増加している。
- 続柄別にみると、父親・母親とも上位の顔ぶれは概ね同様だが、父親は5位に「毎朝、時間どおりに起きられるだろうか」が挙がり、就職後への気がかりがうかがわれる。
- 子どもの性別にみると、男女とも上位の顔ぶれは同様。男子は「就きたい職業が思いつくだろうか」「そもそも就職することができるのだろうか」のスコアが女子に比べ高い。
- 希望進路別にみると、いずれの進路もトップは「就きたい職業に就くことができるだろうか」が7割超。さらに、専門学校進学希望者・就職希望者では、「職場の人間関係がうまくいだろうか」が過半数に達する。

▶ 高校生・保護者ともトップは「就きたい職業に就くことができるだろうか」。
高校生の2位は「十分な収入」、保護者の2位は「職場の人間関係」。

- 高校生、保護者とも気がかりなことのトップは「就きたい職業が思いつくだろうか」で共通だが、スコアは保護者(78%)が高校生(53%)よりも高い。
- 2位には、高校生は「十分な収入」、保護者は「職場の人間関係」が続き、就職後の気がかりについて捉え方が異なることがうかがわれる。

【保護者】 将来、子どもが働くことについて気がかりなこと（気がかりが「ある」/5項目まで回答）



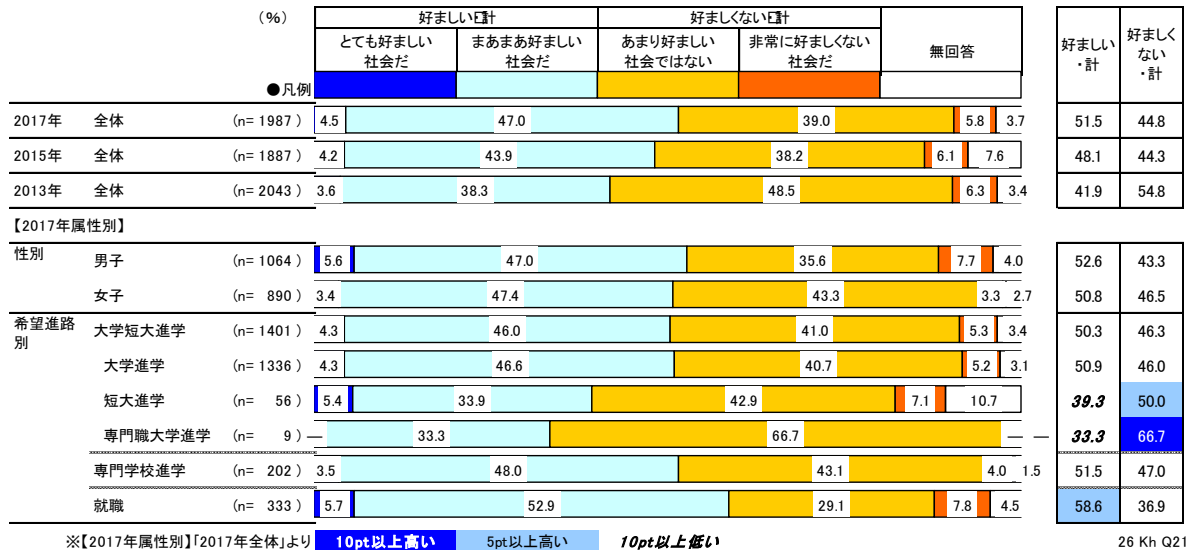
※「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

26.未来社会への認識:これからの社会は好ましいか／その理由

- ▶ 高校生の52%、保護者の34%がこれからの社会は高校生にとって「好ましい」と考えている。
- ▶ 高校生・保護者とも、2013年以降「まあまあ好ましい」認識の増加傾向が続く。

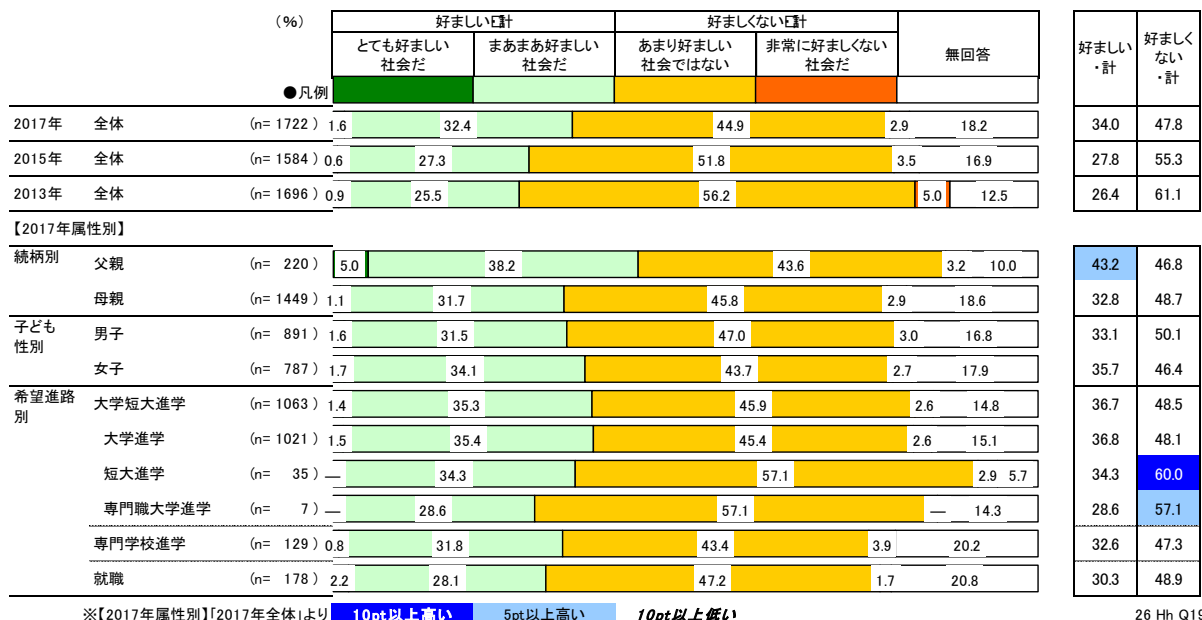
- これからの社会は高校生にとって好ましいと思うか質問した。高校生は「まあまあ好ましい社会だ」が最も多く、47%。次いで「あまり好ましい社会ではない」(39%)。「とても好ましい」「まあまあ好ましい」の合計(好ましい・計)は52%。2013年以降、「まあまあ好ましい社会だ」が漸増しており、今回は「好ましい・計」のスコアが半数以上を占めた。
- 同様に、保護者にもこれからの社会は子どもにとって好ましいと思うか尋ねたところ、「好ましくない・計」(48%)が半数近くを占め、高校生に比べ未来社会への認識は厳しい。しかしながら過去調査結果と比較すると、高校生と同様に「まあまあ好ましい社会だ」の割合が漸増傾向で「好ましい・計」のスコアは増加していることから、保護者も肯定的な認識に転じつつあることがうかがわれる。
- 未来社会について「とても好ましい」～「非常に好ましくない」と思う理由を書いてもらったところ、高校生は「AI発達による職業・雇用の喪失」「少子高齢化による若年世代の負担増」などを危惧する反面、「選択肢が多い」「若い人が必要とされる」といった自分の努力しだいで未来を実現できるだろうという前向きな回答が挙がった。一方、保護者は「少子高齢化」「人材不足」「格差」「人間関係」など不安要素を挙げつつ、「働き方改革」により雇用・労働環境が改善され、「チャンスや可能性」が増えることへの期待を込めた回答が挙がった。
→フリーコメントは43ページに掲載

【高校生】未来展望：これからの社会は好ましいか（全体／単一回答）



26 Kh Q21

【保護者】これからの社会は好ましい社会か（全体／単一回答）



26 Hh Q19

＜フリーコメント＞ 未来社会への認識の理由【高校生】

■とても好ましい

- 他国より安定してそう。[群馬県/男子/大学]
- 外国語を話すことを利用して働きたいと考えている自分にとって、グローバル化はとても好ましい社会だと思う。[岡山県/女子/大学]
- これからの社会にはAIの進出も考えられ、人間らしさが求められるから。[群馬県/男子/大学]
- 男女ともに平等な社会になっていくと思うから。[群馬県/女子/大学]
- 若い人が少ないから自分達でがんばっていく。[北海道/男子/就職]
- 何にでも挑戦できる社会だから。[岡山県/男子/大学]
- 未来に期待を抱かなかったら、私たちは何に期待を抱くのだろうか。[北海道/男子/大学]

■まあまあ好ましい

- 理計不遇(研究費削減)ジェンダーバイアス等の問題はありますが、治安的には問題ないし、安心できる。[東京都/男子/大学]
- 将来の生き方についていろいろな選択肢があるから。[岡山県/男子/大学]
- これからもっとグローバル化がすすめば、格差や年功序列といったものが薄れ、もっと自分の個性を出しやすくなると思うから。[長崎県/男子/大学]
- 高齢化が進んだので私たちのような若い人が必要とされるだろうから。[岐阜県/女子/大学]
- オリンピックも近いので、雇用や経済は豊かになると思うから。[北海道/男子/就職]
- 英語が話せるのがあたり前など、難しい社会にはなるが、それは進歩したからだと思う。[東京都/女子/大学]
- 工夫して努力をすれば、結果がついてくる仕組みになっているから。[岐阜県/男子/大学]

■あまり好ましくない

- グローバル化が進み、日本人以外の就活生が増えていくから。[岐阜県/女子/大学]
- AIの登場によって、便利な社会とはなるが、職に就きづらくなると思われるから。[福島県/女子/大学]
- 格差や、妊娠した時の仕事、保育園などについて不安が多いから。[東京都/女子/大学]
- 高齢者が増加しているため、それを若い世代が金銭的にも支えなければいけないような社会だと思うため。[和歌山県/男子/大学]
- 「コミュニケーション重視」「学歴関係なし」の風潮が高まっていて、明確なもののさがなくて、何をどれだけ頑張ったらいいいのかわからない。[北海道/男子/大学]
- 100%終身雇用というわけでもないし、いい会社に入っても、過労死してしまうような世の中だから。[群馬県/男子/大学]

■非常に好ましくない

- 政府の取り組み方が乏しく女性が活躍しづらい上に給与の面でも不安が残る。アベノミクスといえど一部にとどまり、地方の活性化には何1つ貢献が見られない。[群馬県/男子/大学]
- お金がある人が良い教育を受けて良い職について、良い収入を得る→良い連鎖。それに対して、お金が足りないから進学できない→就職できても良い収入を得ることができない。→悪い連鎖。こういう社会になっているから。[岡山県/女子/大学]
- 悪い面ばかり報道されているような社会だから。[岩手県/男子/大学]
- パソコンも英語も苦手だから、生活できるか心配。[岡山県/女子/短期大学]
- 若者の負担が昔より大きくなって、ストレスがたまる世の中になっているのに、「最近の若者はだめだ」とかいつてくる人がいるから。[岩手県/男子/大学]

＜フリーコメント＞ 未来社会への認識の理由【保護者】

■とても好ましい

- 若い人が非常に少なく人材不足だから。[北海道/父親/男子/就職]
- 不得意な事があっても、挑戦するという事に、ワクワクして欲しい。自分が成長するチャンスだと思って生きていってくれたら◎。[長崎県/母親/女子/大学]
- 努力しだいで、学費を心配する事なく、どれだけでも学べと思う。[長崎県/母親/女子/大学]

■まあまあ好ましい

- 時代によって働き方の考えも変化しているので、今現在、選択肢がたくさんあり、かなり自由だと感じています。[群馬県/母親/女子/就職]
- 私が子供の頃より、いろいろな生き方が認められる時代になっているから。[岩手県/母親/女子/大学]
- オリンピックを控え、少しずつ景気が良くなりそうだから。[岐阜県/母親/女子/何でもいい]
- 働き方改革が注目され、現在の働き方やワークライフバランスに注目した取組みが少しずつだがかはまっていることに期待している。[岩手県/母親/女子/大学]
- 時代とともに職業の種類が増え対して少子化という事があり、努力すれば、チャンスや可能性は広がっていく様に思えます。[群馬県/母親/男子/大学]
- 自分のやりたい事、または自分にあった職業につくことができれば、どんどんと力を発揮し、伸びていくことが出来る社会になっていると思うから。[長野県/母親/男子/大学]
- やる気があれば、いろいろな情報や手段があってスキルアップを目指す社会だと思うから。[岐阜県/母親/男子/大学]
- 企業はまだ学歴だけで採用するところばかりで学歴コンプレックスになりがちだけど、好きなことをつきつめて、天職を探索したのなら人生は楽しいはず。個性をみて認めてくれる社会に少しなっていると思う。[群馬県/母親/男子/専門学校]

■あまり好ましくない

- 社会インフラの老朽化、高齢化、国際状況不安、エネルギー問題、人手不足。[岩手県/父親/男子/大学]
- 人間関係が複雑になってきていることと、社会が安定していないため生きがいを持ってある程度豊かなくらしができるのか不安です。[長崎県/母親/男子/大学]
- 超高齢社会となって子供が少なく、働く世代が少なく、女性も共働きをせざるを得ない。でも家事育児も負担しなくてはならないとなるとますます子供を持ちにくくなると思われるため。[群馬県/母親/女子/大学]
- 高度に複雑化した社会(即戦力を求められる)・年金問題。福利厚生水準低下。人口減少など経済の低迷。[長崎県/父親/男子/大学]
- ニュースで取り上げられる、過労死や、パワハラやいじめによる自殺など、メンタル面が今の子供達に耐える事ができるか？[長野県/母親/女子/何でもいい]
- ゆとり世代の人たちが増え、社会に出てからの教育がしっかり行ってもらえるか不安に思うから。[岐阜県/母親/男子/その他]
- 格差社会の広がり、正規職に就くことが難しい。社会保障が不安定税の重圧。[福島県/母親/男子/何でもいい]
- SNSの発達により、便利にはなったが、人との付き合い方が難しくなったと思うから。[東京都/母親/男子/大学]

■非常に好ましくない

- どんどん不安定な世の中になっているのは否めないと思う。そんな中で、社会人として生きていけるのか不安に思う。[東京都/母親/女子/大学]
- 高齢者福祉に対する負担を背迫わなければならないという懸念。[岩手県/母親/男子/大学]
- 学歴ではなく、スキルが重要とされる社会となるため。[岡山県/父親/男子/大学]

IV 保護者の動き

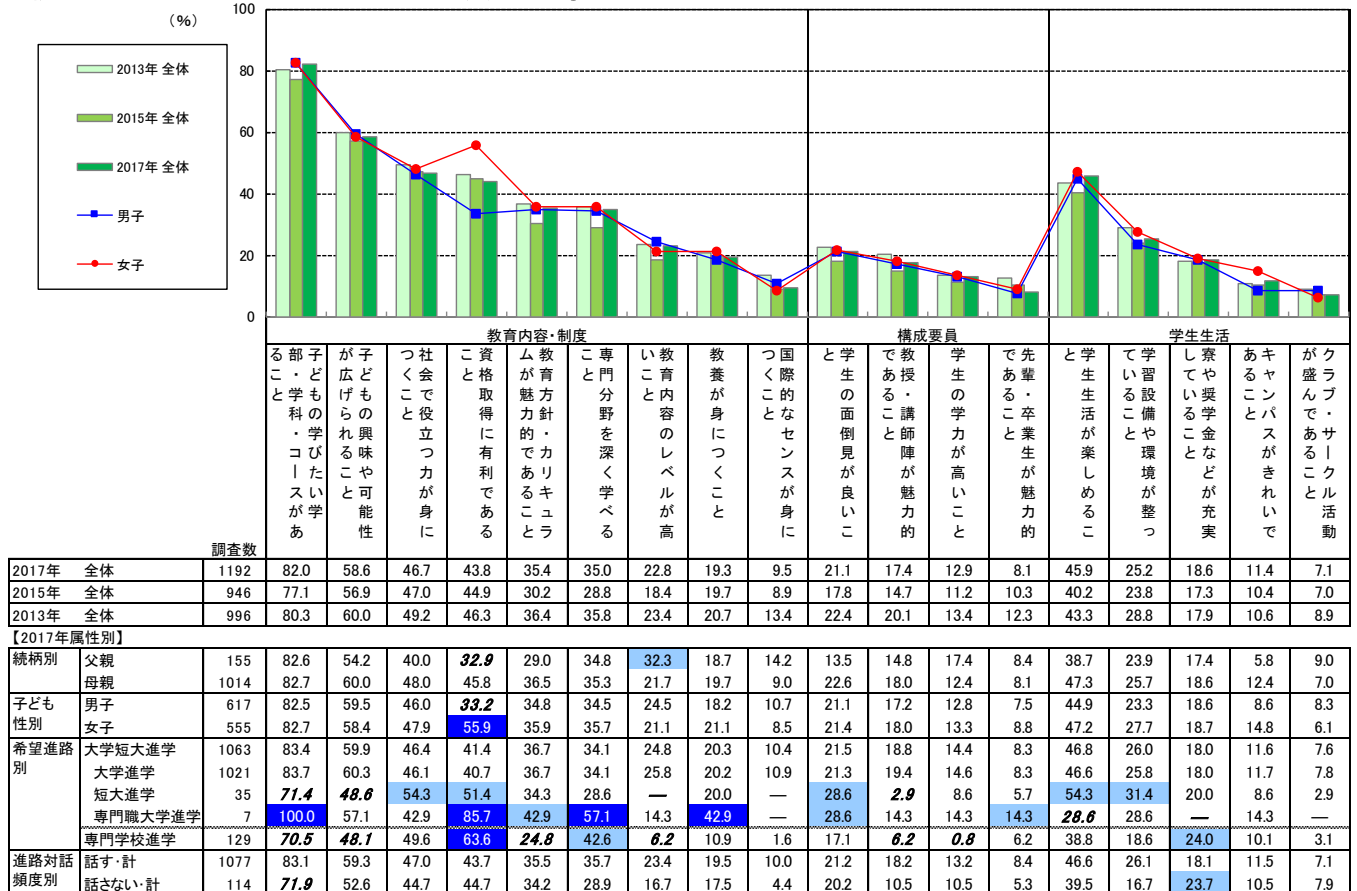
27.進学先検討の重視点

▶ 子どもの進学を希望する保護者が進学先検討で重視するのは、教育内容・制度や卒業後の就職に関する事柄が多い。

- | | | |
|----------|------------------------|-------|
| ①教育内容・制度 | 子どもの学びたい学部・学科・コースがあること | (82%) |
| ②教育内容・制度 | 子どもの興味や可能性が上げられること | (59%) |
| ③卒業後 | 就職に有利であること | (56%) |
| ④入試難易度 | 学費が高くないこと | (47%) |
| ⑤卒業後 | 卒業後に社会で活躍できること | (47%) |
| ⑥教育内容・制度 | 社会で役立つ力が身につくこと | (47%) |
| ⑦学生生活 | 学生生活が楽しめること | (46%) |
| ⑧卒業後 | 将来の選択肢が増えること | (46%) |
| ⑨教育内容・制度 | 資格取得に有利であること | (44%) |
| ⑩立地・環境 | 勉強するのに良い環境であること | (39%) |

●子どもの進学先の学校を考える際に、重視するのはどのようなことか、すべて選んでもらった。回答上位は上記の通り。「子どもの学びたい学部・学科・コースがあること」「子どもの興味や可能性が上げられること」が1～2位に挙がり、子ども自身の希望・興味に沿った教育を受けられることを重視していることがわかる。

【保護者】 進学先検討で重視すること（進学希望者／複数回答）①



※ カテゴリーごとに「2017年全体」降順ソート

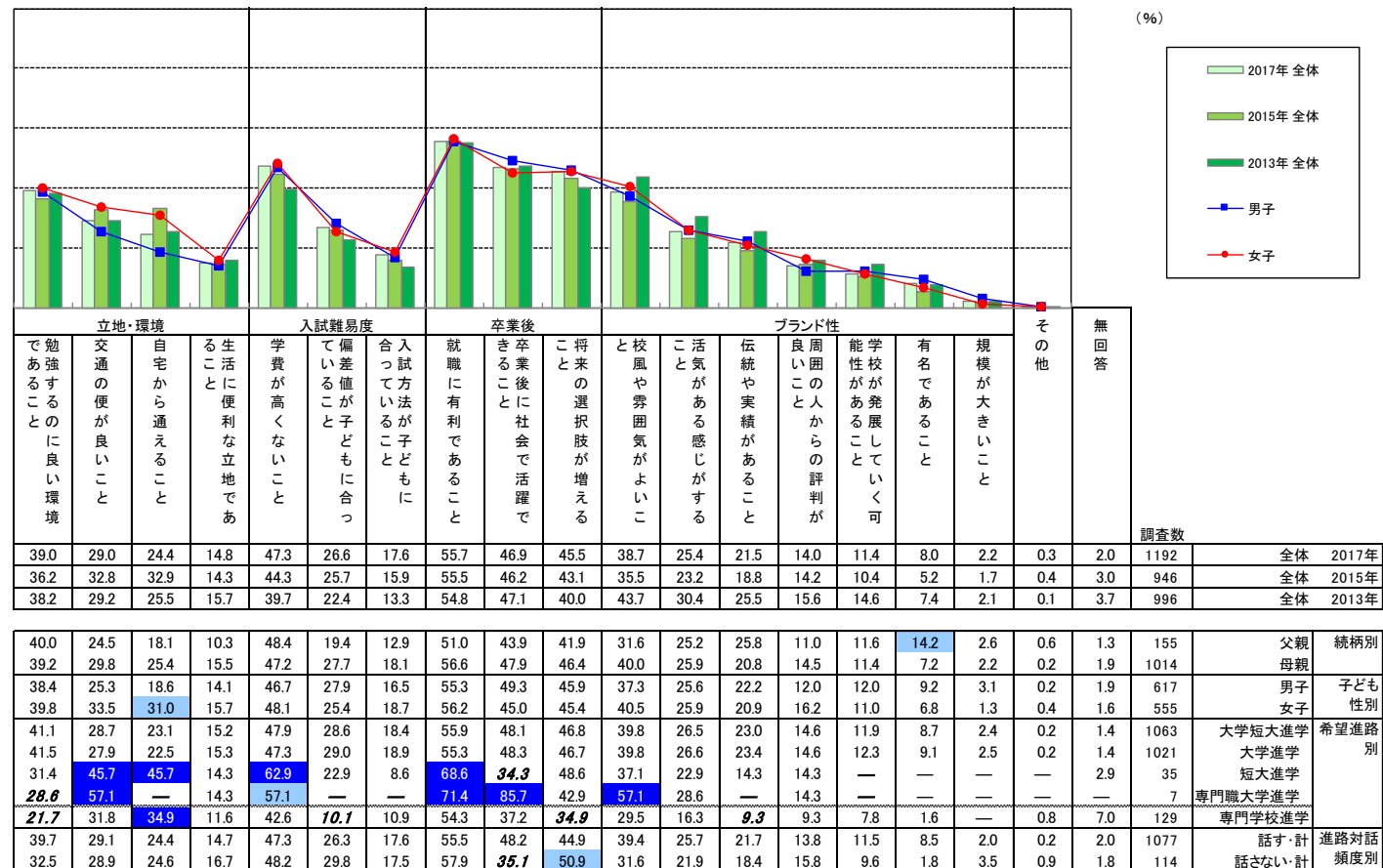
※【2017年属性別】 **100.0** 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

- 続柄別にみると、父親よりも母親のほうがスコアが高い項目が多く、重視することが幅広い。特に両者のスコア差が大きいのは、教育内容・制度：「資格取得に有利であること」「社会で役立つ力が身につくこと」、構成要員：「学生の面倒見が良いこと」、学生生活：「学生生活が楽しめること」、入試難易度：「偏差値が子どもに合っていること」、ブランド性：「校風や雰囲気がいよこと」など。卒業後に役立つ資格・能力を修得するための環境が整っていることを重視している。

一方、父親のスコアが母親を上回る項目は、教育内容・制度：「教育内容のレベルが高いこと」「国際的なセンスが身につくこと」、構成要員：「学生の学力が高いこと」、ブランド性：「伝統や実績があること」「有名であること」。父親は、教育内容・学力のレベルの高さ、知名度をより重視している。

- 子ども性別にみると、女子は男子に比べ、教育内容：「資格取得に有利であること」、学生生活：「キャンパスがきれいであること」、立地・環境：「自宅から通えること」「交通の便が良いこと」が高く、地元進学志向がより強い。
- 希望進路別にみると、いずれの進路希望者も「子どもの学びたい学部・学科・コースがあること」がトップ。専門学校進学希望者は、教育内容・制度：「資格取得に有利であること」「専門分野を深く学べること」が相対的に高く、資格・専門分野の修得の目的がより明確にうかがわれる。

【保護者】進学先検討で重視すること（進学希望者／複数回答）②



28.進学情報の必要性・入手方法

1) 重要な進学に関する情報

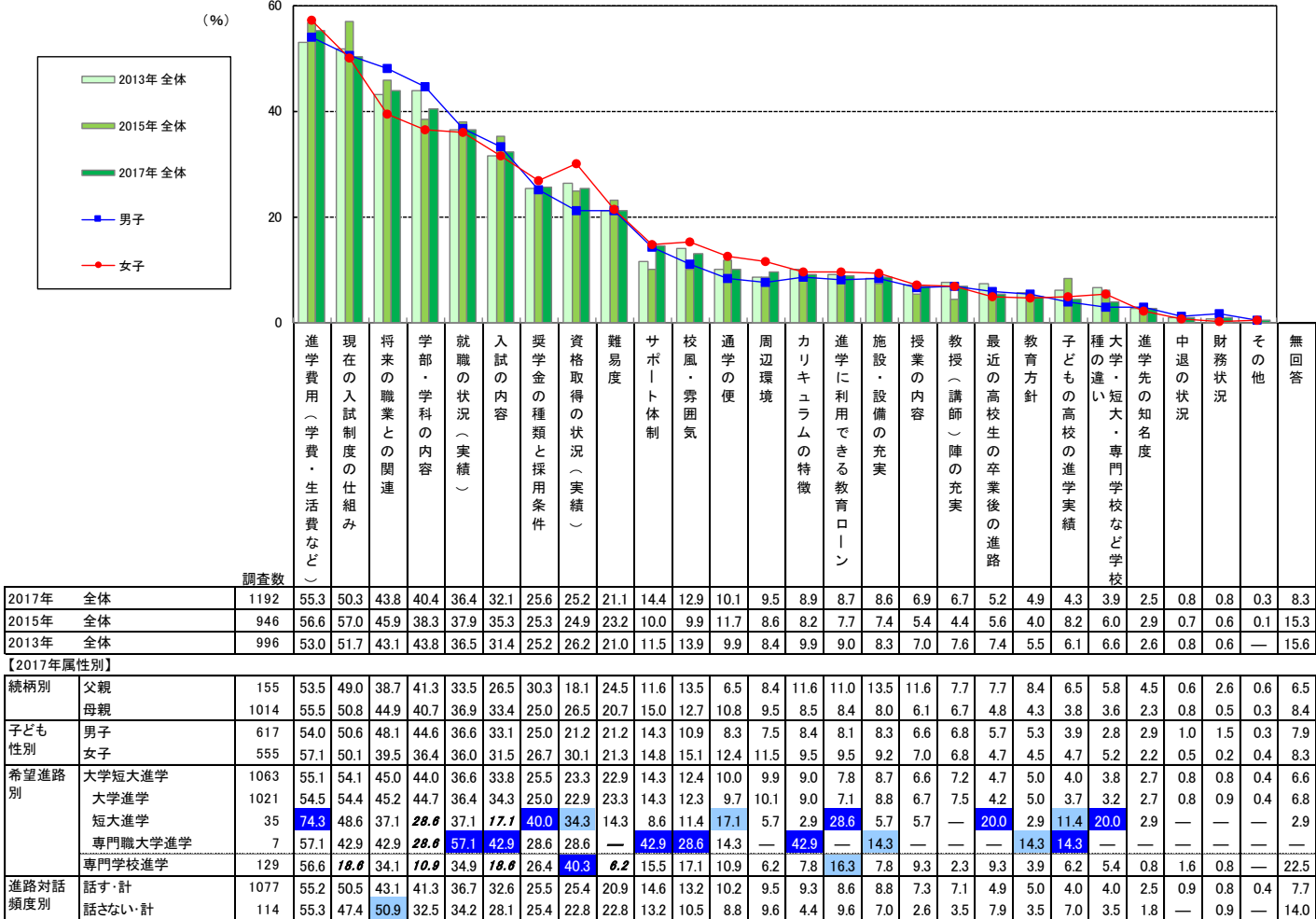
▶ 子どもの進学を希望する保護者にとって、進学先検討で重要な情報は「進学費用」「入試制度の仕組み」。

- ①進学費用 (55%)
- ②現在の入試制度の仕組み (50%)
- ③将来の職業との関連 (44%)
- ④学部・学科の内容 (40%)
- ⑤就職の状況 (36%)

▶ 2015年に比べ、「学部・学科の内容」「サポート体制」が微増。

- 子どもに進学を希望する保護者に、どのような進学情報が重要だと思うか最大で5項目まで選んでもらったところ、回答上位は上記の通り。
「進学費用」「入試制度」について、保護者の半数が重視している。過去調査結果と比較すると、「入試制度」のスコアは2015年から減少したが、依然5割が重視している。このほか、「学部・学科の内容」「サポート体制」が2015年から微増。
- 子どもの性別にみると、男子は「将来の職業との関連」「学部・学科の内容」、女子は「資格取得の状況(実績)」がそれぞれ相対的に高い。男子では職業、女子では資格がより重視される。
- 希望進路別にみると、大学短大進学希望者は「入試制度」「将来の職業との関連」「学部・学科の内容」、専門学校進学希望者は「資格取得の状況」のスコアがそれぞれ相対的に高く、進学先により特に重視する情報が異なる。

【保護者】特に重要な情報（進学希望者／5項目まで複数回答）



※「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

2) 進学に関する情報の取得状況

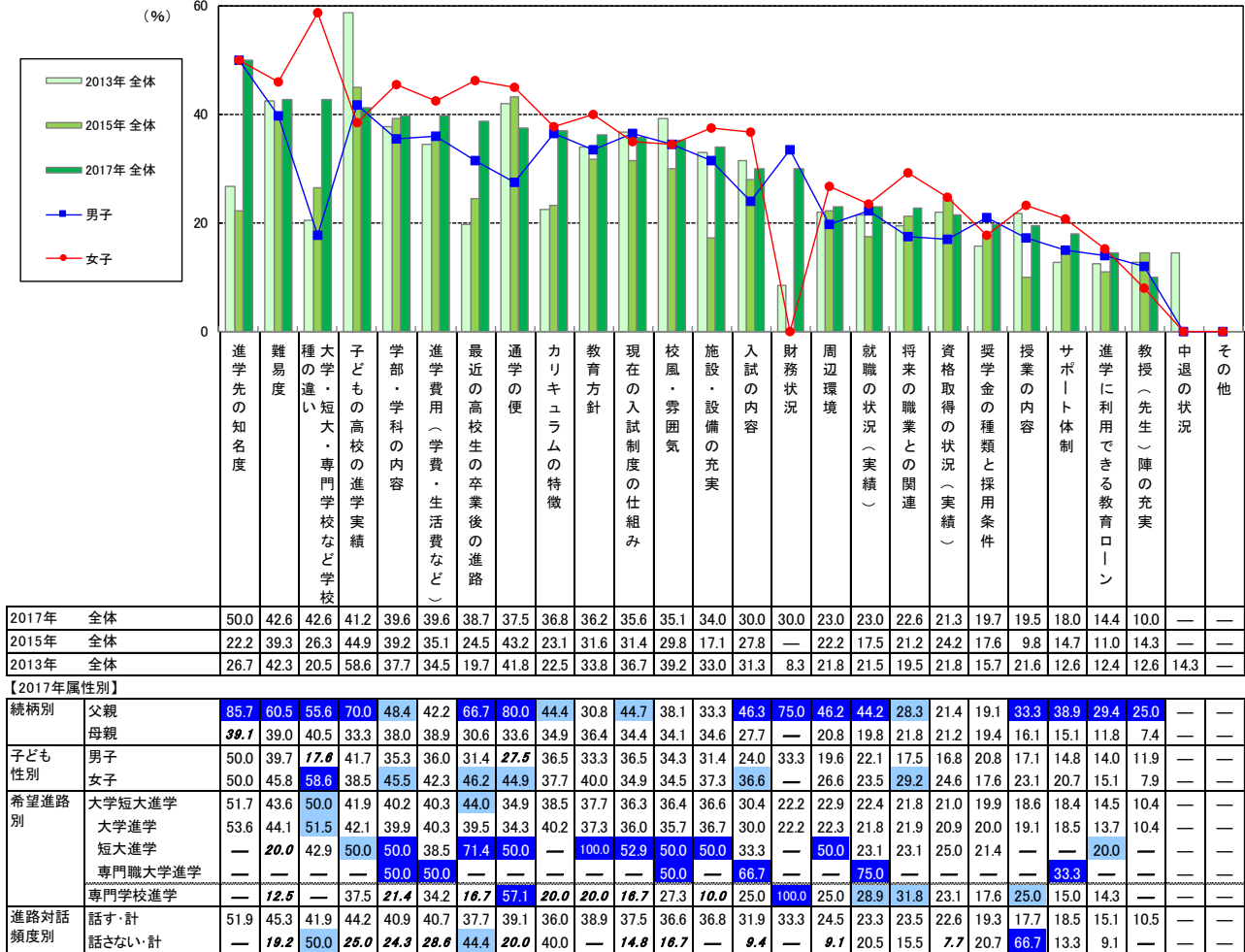
▶ 重要視している進学情報のうち、現時点で取得率が高いものは「知名度」「難易度」「学校種の違い」など。

- ①進学先の知名度 (50%)
- ②難易度 (43%)
- 大学・短大・専門学校など学校種の違い (43%)
- ④子どもの高校の進学実績 (41%)
- ⑤学部・学科の内容 (40%)
- 進学費用 (40%)

▶ 特に重要と考えている情報上位のうち、「入試制度」「将来の職業との関連」「就職の状況」の取得率は、2～3割強程度に留まり、十分に取得できていない。

- 46ページ『重要な進学に関する情報』で選んだ進学情報それぞれについて、どの程度取得できていると思うか回答してもらった。取得率上位の情報は上記の通り。
『重要な進学に関する情報』上位5項目の情報のうち、取得率上位に挙がるものは「学部・学科の内容」「進学費用」(いずれも、重要と回答した保護者の40%が情報を取得)の2項目。このほか「入試制度」「将来の職業との関連」「就職の状況」の取得率は、2～3割程度に留まり、十分に取得できていないことがわかる。
- 希望進路別にみると、大学短大希望者は「大学・短大・専門学校など学校種の違い」「最近の高校生の卒業後の進路」、専門学校進学希望者は「財務状況」「通学の便」のスコアがそれぞれ高い。

【保護者】2017年 特に重要な進学情報の取得状況（進学志望、かつ「特に重要な進学情報」/「取得している・計」）



※「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

3) 進学に関する情報の入手先

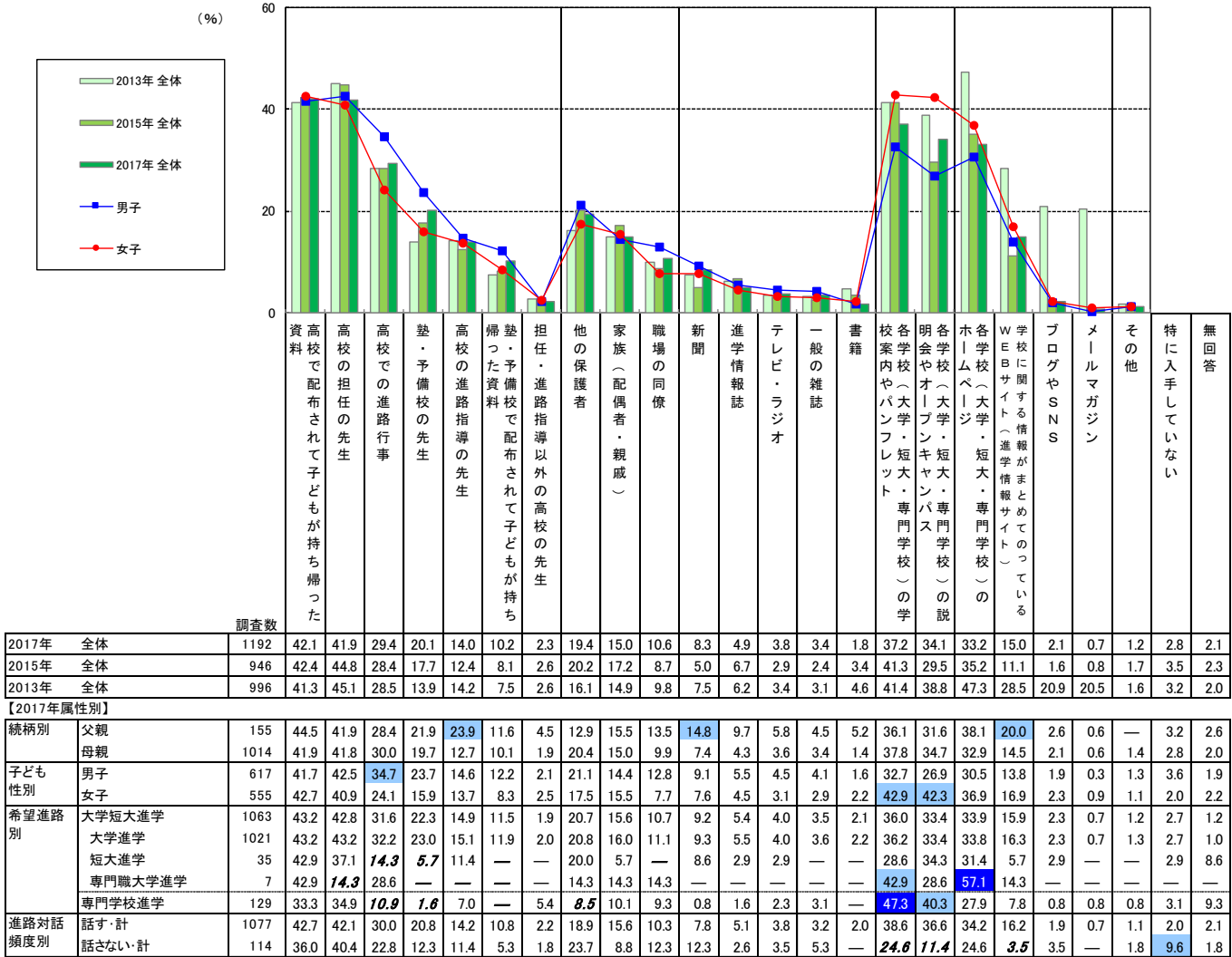
▶ 進路検討のための情報源は、「高校で配布された資料」と「高校の担任の先生」。

- ① 高校で配布されて子どもが持ち帰った資料 (42%)
- ② 高校の担任の先生 (42%)
- ③ 各学校の学校案内やパンフレット (37%)
- ④ 各学校の説明会やオープンキャンパス (34%)
- ⑤ 各学校のホームページ (33%)

▶ 2015年に比べ「各学校のオープンキャンパス」が微増。「各学校のホームページ」は減少傾向が続く。

- 子どもの進路を考えるための情報をどこから入手しているかすべて選んでもらった。回答上位は上記の通り。トップは「高校で配布されて子どもが持ち帰った資料」に僅差で「高校の担任の先生」が続き、高校から得られる情報が主な情報源であることがわかる。以下、各学校の「学校案内やパンフレット」「説明会やオープンキャンパス」「ホームページ」が続く。
過去調査結果と比較すると、「説明会やオープンキャンパス」は2015年に減少したが、2017年は微増している。また、「各学校のホームページ」は2013年以降減少傾向が続く。
- 希望進路別にみると、大学短大希望者は「高校で配布されて子どもが持ち帰った資料」「高校の担任の先生」、専門学校進学希望者は「学校案内やパンフレット」「説明会やオープンキャンパス」がそれぞれ4割以上に達し、上位。専門学校進学希望者は、高校から得られる進学情報が大学短大進学希望者に比べ少ないことがわかる。

【保護者】 進学情報の入手先（進学希望者／複数回答）



※ カテゴリーごとに「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

29.保護者の進路選択行動

1) 子どもの進路選択行動への関与状況

▶「行ったことがある」行動は進路選択・職業・分野の“アドバイス”が多い。

「今後行いたい」行動は興味をもった学校について“調べる”こと。

▶2015年に比べ、全般に「行ったことがある」割合が漸増傾向。既に関与を始めている保護者が増えている。

●子どもの進学を希望する保護者に、子どもの進路選択行動10項目それぞれについて保護者としてどう関わっているか、また、今後どうしたいかを尋ねた。

●子どもが高校2年生の時点で、すでに「行ったことがある」行動は、「アドバイス」に関する行動が多い。

- ①将来の職業をアドバイスする (60%)
- ②子どもに合う分野をアドバイスする (60%)
- ③就職か進学かを選ぶ際にアドバイスする (59%)
- ④大学か短大か専門学校かを選ぶ際にアドバイスする (56%)

●子どもが高校2年生の時点で、「行ったことはないが今後行いたい」行動は、「調べる」行動が多い。

- ①興味をもった学校の入試方法を調べる (50%)
- ②興味をもった学校の資料請求をする (47%)
- ③興味をもった学校の見学に行く (42%)

●過去調査結果と比較して、いずれの項目も「行ったことがある」割合が漸増または横ばい推移。

【保護者】進路選択行動の関わり方（進学希望者／各単一回答）

2017年 n=1192 2015年 n= 946 2013年 n= 996	(%)	経験意向・計			経験意向・計	
		行ったことがある	行ったことはないが、今後行いたい	行ったことはなく、今後も行うつもりはない		無回答
	●凡例					
どんな学部、学科、コースがあるかを調べる	2017年	49.9	35.7	9.7	4.6	85.7
	2015年	46.0	40.9	9.2	3.9	86.9
	2013年	44.1	38.9	10.1	6.9	82.9
興味をもった学校の入試方法を調べる	2017年	35.5	49.7	10.5	4.3	85.2
	2015年	30.2	56.1	9.5	4.1	86.4
	2013年	28.3	52.9	11.2	7.5	81.2
将来の職業をアドバイスする	2017年	60.4	23.9	11.2	4.5	84.3
	2015年	58.5	27.4	9.3	4.9	85.8
	2013年	53.4	26.6	12.1	7.8	80.0
子どもに合う分野をアドバイスする	2017年	60.2	23.7	11.9	4.3	83.8
	2015年	57.1	29.9	8.8	4.2	87.0
	2013年	57.5	24.4	10.8	7.2	81.9
子どもに合う学校にどんな学校があるかを調べる	2017年	47.3	35.9	12.4	4.4	83.2
	2015年	44.6	41.5	9.6	4.2	86.2
	2013年	41.1	39.8	11.7	7.4	80.8
興味をもった学校の見学に行く (オープンキャンパス・学校見学会を含む)	2017年	39.2	41.6	15.7	3.5	80.8
	2015年	32.6	47.5	15.9	4.1	80.0
	2013年	28.2	46.5	17.9	7.4	74.7
具体的な受験校を子どもにアドバイスする	2017年	34.7	41.1	18.9	5.3	75.8
	2015年	32.5	46.6	16.5	4.4	79.1
	2013年	31.2	42.1	18.5	8.2	73.3
就職か進学かを選ぶ際にアドバイスする	2017年	59.1	15.0	21.2	4.7	74.1
	2015年	59.9	20.2	15.2	4.7	80.1
	2013年	51.1	19.3	21.2	8.4	70.4
興味をもった学校の資料請求をする	2017年	27.6	46.5	21.1	4.9	74.1
	2015年	27.2	51.6	16.4	4.9	78.8
	2013年	22.9	50.1	19.4	7.6	73.0
大学か短大か専門学校かを選ぶ際に アドバイスする	2017年	55.9	16.4	22.8	4.9	72.3
	2015年	54.8	22.1	18.6	4.5	76.8
	2013年	48.8	21.8	21.4	8.0	70.6

※「経験意向・計」のスコアで降順ソート

29 Hh Q16M

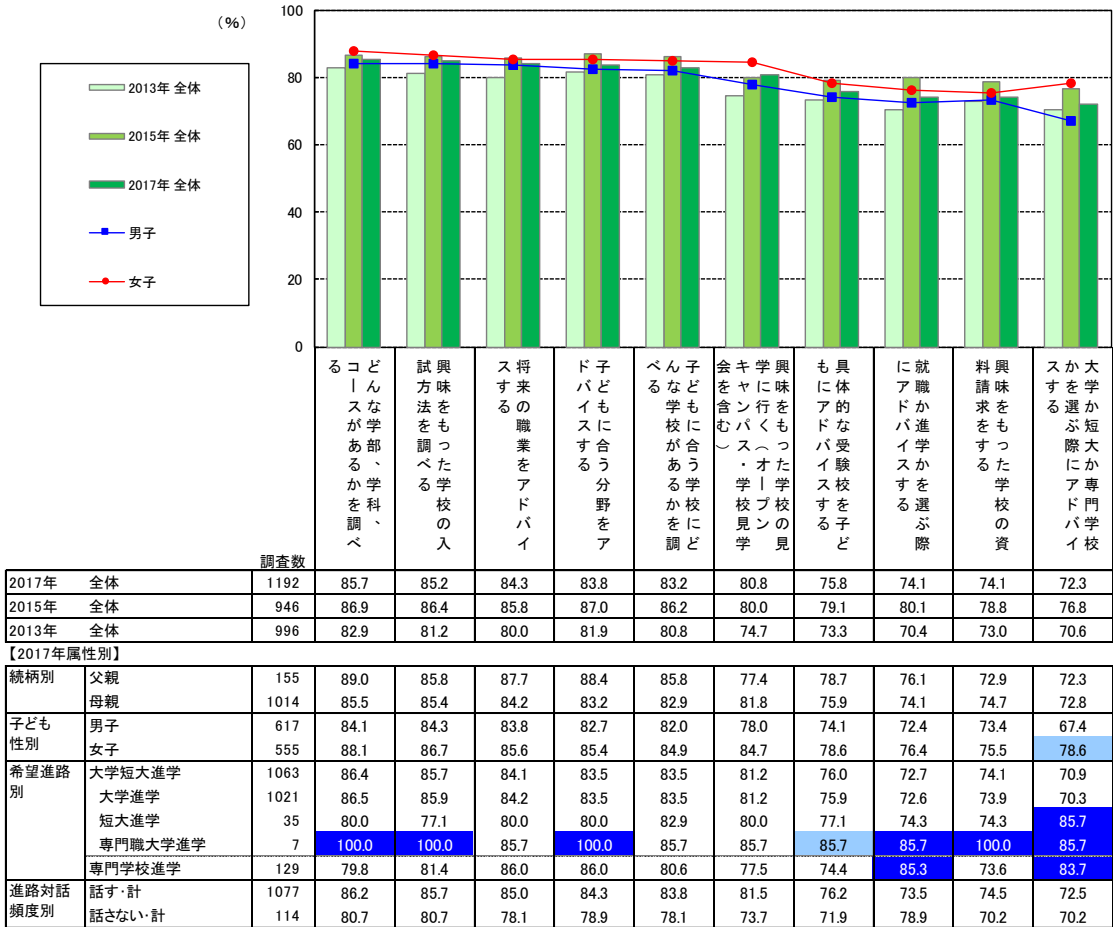
2) 子どもの進路選択行動への関与状況：経験意向・計

▶ 関与の経験意向（「行ったことがある」と「今後行いたい」合計）は、進学先の情報収集と子どもに合う分野・職業のアドバイス。

- ①どんな学部、学科、コースがあるかを調べる (86%)
- ②興味をもった学校の入試方法を調べる (85%)
- ③将来の職業をアドバイスする (84%)
- ④子どもに合う分野をアドバイスする (84%)
- ⑤子どもに合う学校にどんな学校があるかを調べる (83%)

- 49ページでみた通り、全般に「行ったことがある」割合は2015年から微増・横ばい推移しているが、「今後行いたい」を含む「経験意向・計」の割合でみると、2015年から減少した項目が多い。特に、「就職か進学かを選ぶ際にアドバイスする」「興味をもった学校の資料請求をする」「大学か短大か専門学校か選ぶ際にアドバイスする」が5～6ポイント減少した。
- 続柄別にみると、父親は「子どもに合う分野をアドバイスする」、母親は「興味をもった学校の見学に行く」のスコアがそれぞれ相対的に高い。父親はアドバイス、母親と一緒に検討する行動により意欲的である。
- 子どもの性別にみると、女子は男子に比べ「興味を持った学校の見学に行く」「大学か短大か専門学校かを選ぶ際にアドバイスする」のスコアが高い。女子に対しては学校選びへの関与が目立つ。
- 希望進路別にみると、大学短大進学希望者のトップは「どんな学部・学科・コースがあるかを調べる」。一方、専門学校進学希望者のトップは、「将来の職業をアドバイスする」「子どもに合う分野をアドバイスする」。専門学校進学希望者はこのほか「就職か進学かを選ぶ際にアドバイスする」「大学か短大か専門学校かを選ぶ際にアドバイスする」が大学短大進学希望者に比べ高く、就職か進学か、大学・短大か専門学校かを選ぶ段階から保護者が意欲的に関与していることがわかる。

【保護者】 進路選択行動の関わり方：「経験意向・計（行ったことがある＋今後行いたい）」の割合（進学希望者／各単一回答）



※「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

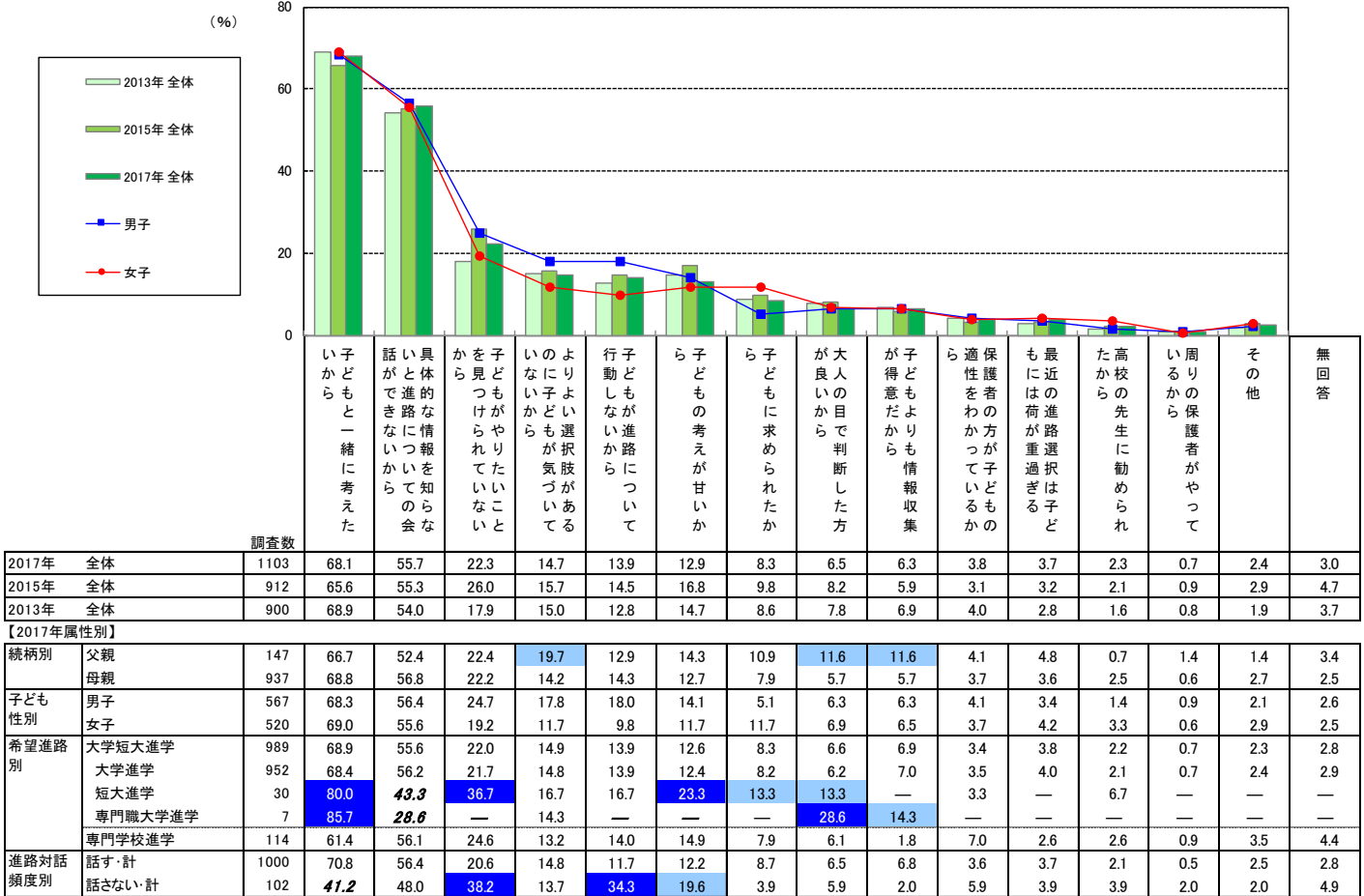
3) 子どもの進路選択行動に具体的にかかわる理由

▶ 保護者が子どもの進路選択に関与する理由は、「一緒に考えたい」。

- ①子どもと一緒に考えたいから (68%)
- ②具体的な情報を知らないで進路についての会話ができないから (56%)

- 49ページ『子どもの進路選択行動への関与』で「行ったことがある」「今後行いたい」と回答した保護者に、関与する理由をすべて選んでもらった。
上記の2項目が半数を超えて突出。子どもと一緒に会話しながら協力したいという理由から関与している。
以下、「子どもがやりたいことを見つけられていないから」(22%)、「よりよい選択肢があるのに子どもが気づいていないから」(15%)、「子どもが進路について行動しないから」(14%)が続く。
- 続柄別にみると、父親・母親いずれも上位2項目のスコアは同程度。
父親は母親に比べ「よりよい選択肢があるのに子どもが気づいていないから」「大人の目で判断したほうが良いから」「子供よりも情報収集が得意だから」のスコアがやや高く、子どもに対し指導的に関与したい意向がうかがわれる。
- 子どもの性別にみると、男女とも上位2項目のスコアは同程度。
男子は女子に比べ「子どもが進路について行動しないから」「よりよい選択肢があるのに子どもが気づいていないから」「子どもがやりたいことを見つけられていないから」、女子は男子に比べ「子どもに求められたから」がそれぞれ相対的に高い。
- 希望進路別にみると、大学短大進学・専門学校進学いずれの希望者も各項目のスコアは同程度。

【保護者】 子どもの進路選択に関わる理由（進学希望者：いずれか進路選択行動への関与あり／複数回答）



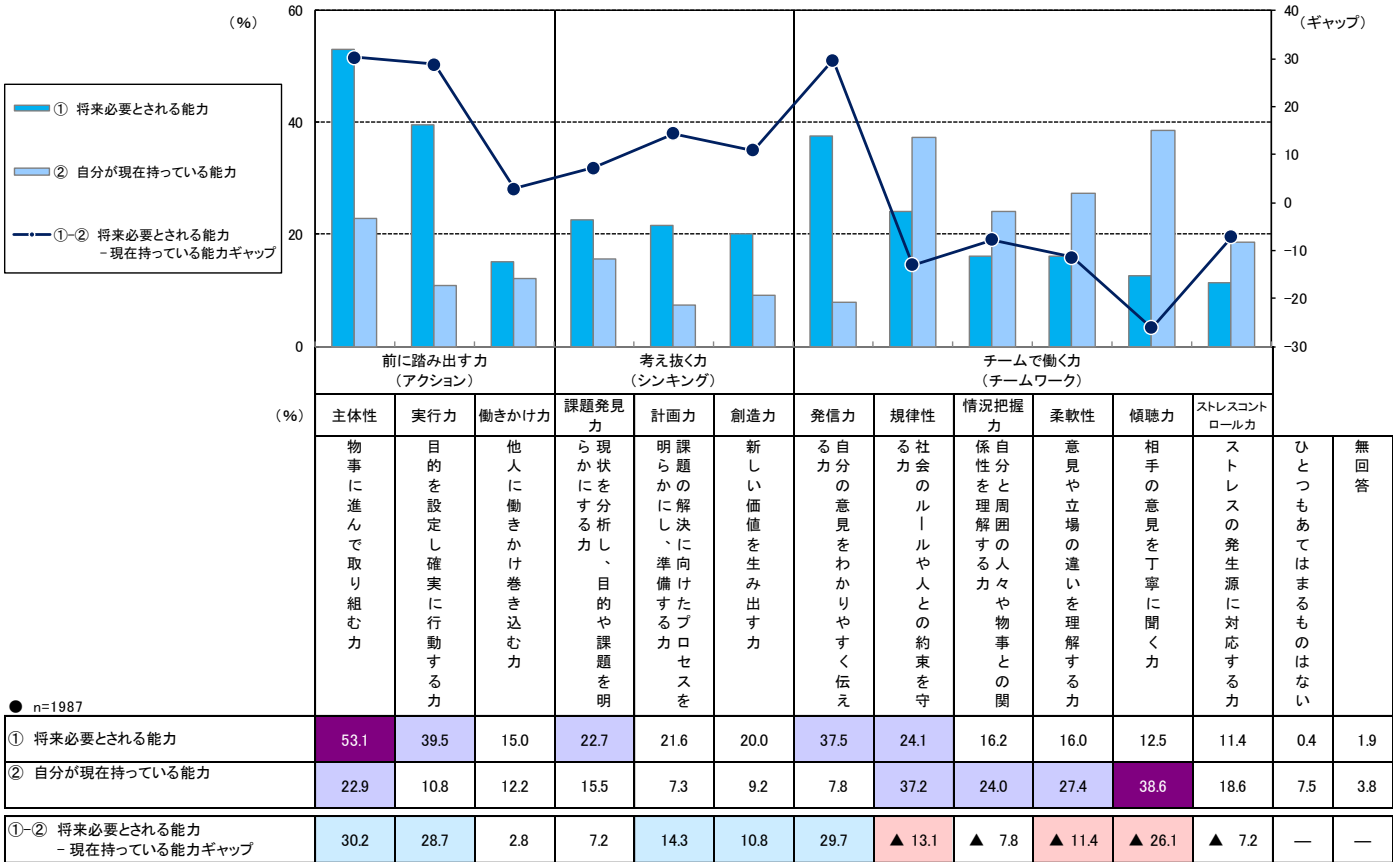
※「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

V 学校での教育

30.現在持っている能力と将来必要とされる能力

- ▶ 高校生が考える将来必要とされる能力は、「主体性」(53%)、「実行力」(40%)、「発信力」(38%)。
- ▶ 現在持っている能力は、「傾聴力」(39%)、「規律性」(37%)、「柔軟性」(27%)。
- ▶ 将来必要とされるが現在の自分に不足している能力は、「主体性」「発信力」「実行力」。
- 経済産業省で定義されている『社会人基礎力』:3つの能力(12の能力要素)のうち、「将来、社会で働くにあたり特に必要とされる能力」と「現在持っている能力」を、それぞれ3つまで高校生に選んでもらった。
- 高校生が考える将来必要とされる能力は、「主体性:物事に進んで取り組む力」(53%)がトップ。以下、「実行力:目的を設定し確実に行動する力」(40%)、「発信力:自分の意見をわかりやすく伝える力」(38%)、「規律性:社会のルールや人との約束を守る力」(24%)、「課題発見力:現状を分析し、目的や課題を明らかにする力」(23%)が続く。
- 高校生が考える現在持っている能力は、「傾聴力:相手の意見を丁寧に聞く力」(39%)がトップ。以下、「規律性:社会のルールや人との約束を守る力」(37%)、「柔軟性:意見や立場の違いを理解する力」(27%)、「状況把握力:自分と周囲の人々や物事との関係を理解する力」(24%)、「主体性:物事に進んで取り組む力」(23%)が続く。
- 高校生が考える将来必要とされるが現在の自分に不足している能力(将来必要とされる能力 - 現在持っている能力ギャップ)は、「主体性:物事に進んで取り組む力」(必要が現状を30pt上回る)が最多。以下、「発信力:自分の意見をわかりやすく伝える力」(30pt)、「実行力:目的を設定し確実に行動する力」(29pt)が続く。

【高校生】「社会で働くにあたって必要とされる能力」と「自分が現在持っている能力」(全体/各3項目まで複数回答)



● n=1987

※「将来必要とされる能力」降順ソート

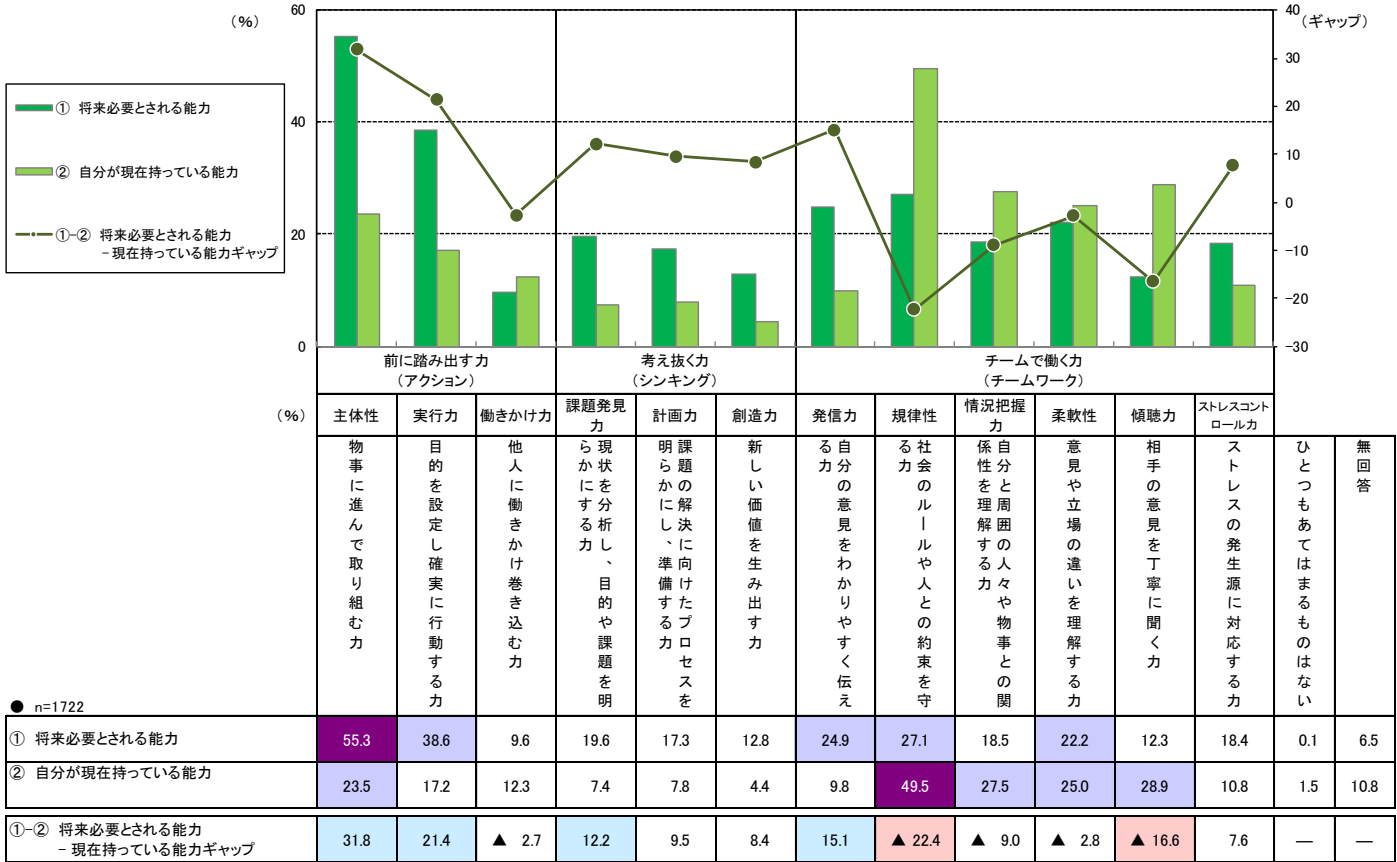
100.0 「必要とされる能力」「自分が現在持っている能力」で最も高い役割
100.0 「必要とされる能力」「自分が現在持っている能力」で2〜5番目の役割

10 「①-②」が10ポイント以上
▲ 10 「①-②」が-10ポイント以下

- ▶ 保護者が考える子どもに将来必要な能力は、「主体性」(55%)、「実行力」(39%)、「規律性」(27%)。
- ▶ 子どもが現在持っている能力は、「規律性」(50%)、「傾聴力」(29%)、「情報把握力」(28%)。
- ▶ 将来必要とされるが、現在の子どもの不足している能力は、「主体性」「実行力」「発信力」。

- 同じく保護者からも、「将来、社会で働くにあたり特に必要とされる能力」と「現在持っている能力」をそれぞれ3つまで選んでもらった。
- 保護者が考える将来必要とされる能力は、「主体性：物事に進んで取り組む力」(55%)がトップ。以下、「実行力：目的を設定し確実に行動する力」(39%)、「規律性：社会のルールや人との約束を守る力」(27%)、「発信力：自分の意見をわかりやすく伝える力」(25%)、「柔軟性：意見や立場の違いを理解する力」(22%) が続く。
- 保護者が考える子どもが現在持っている能力は、「規律性：社会のルールや人との約束を守る力」(50%)がトップ。以下、「傾聴力：相手の意見を丁寧に聞く力」(29%)、「状況把握力：自分と周囲の人々や物事との関係を理解する力」(28%)、「柔軟性：意見や立場の違いを理解する力」(25%)、「主体性：物事に進んで取り組む力」(24%)が続く。
- 保護者が考える将来必要とされるが現在の子どもの不足している能力(将来必要とされる能力－現在持っている能力ギャップ)は、「主体性：物事に進んで取り組む力」(必要が現状を32pt上回る)が最多。以下、「実行力：目的を設定し確実に行動する力」(21pt)、「発信力：自分の意見をわかりやすく伝える力」(15pt)、が続く。

【保護者】「社会で働くにあたって必要とされる能力」と「子どもが現在持っている能力」(全体／各3項目まで複数回答)



※【高校生】「将来必要とされる能力」降順ソート 100.0 「必要とされる能力」「自分が現在持っている能力」で最も高い役割 10 「①-②」が10ポイント以上
100.0 「必要とされる能力」「自分が現在持っている能力」で2～5番目の役割 ▲ 10 「①-②」が-10ポイント以下

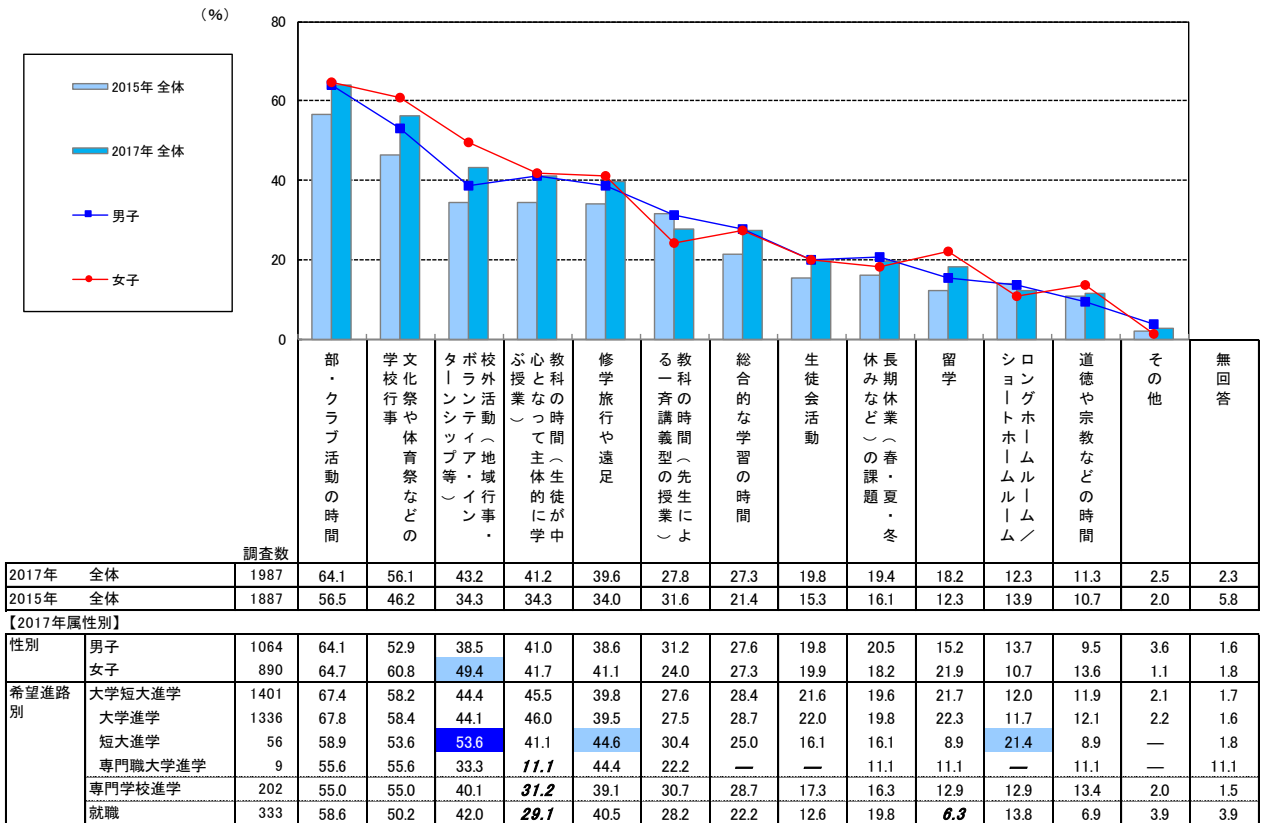
31.必要な能力を身につけるために有効な活動

▶ 高校生が考える、必要な能力を身につけるのに最も有効な活動は、「部・クラブ活動の時間」。

- ① 部・クラブ活動の時間 (64%)
- ② 文化祭や体育祭などの学校行事 (56%)
- ③ 校外活動(地域行事・ボランティア・インターンシップ等) (43%)
- ④ 教科の時間(生徒が中心となって主体的に学ぶ授業) (41%)
- ⑤ 修学旅行や遠足 (40%)

- 経済産業省で定義されている『社会人基礎力』を身につけるため、有効な学校生活の活動を高校生にすべて選んでもらった結果は、上記の通り。「部・クラブ活動の時間」が6割に達する。
- 性別にみると、男女ともトップは「部・クラブ活動の時間」。女子は男子に比べ「文化祭や体育祭などの学校行事」「郊外活動(地域行事・ボランティア・インターンシップ等)」「留学」のスコアが高い。一方、男子は「教科の時間(先生による一斉講義型の授業)」が相対的に高い。
- 希望進路別にみると、大学短大進学希望者は他層に比べスコアが高い項目が多く、有効と考える活動が幅広い。特に、「教科の時間(生徒が中心となって主体的に学ぶ授業)」は4割強に達し、他層を大きく上回る。

【高校生】 必要な能力を身につけるのに有効な場（全体／複数回答）



※「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

▶ 保護者が考える、必要な能力を身につけるのに最も有効な活動も、「部・クラブ活動の時間」。

- ① 部・クラブ活動の時間 (65%)
- ② 校外活動 (地域行事・ボランティア・インターンシップ等) (58%)
- ③ 文化祭や体育祭などの学校行事 (55%)
- ④ 教科の時間 (生徒が中心となって主体的に学ぶ授業) (50%)
- ⑤ 総合的な学習の時間 (34%)

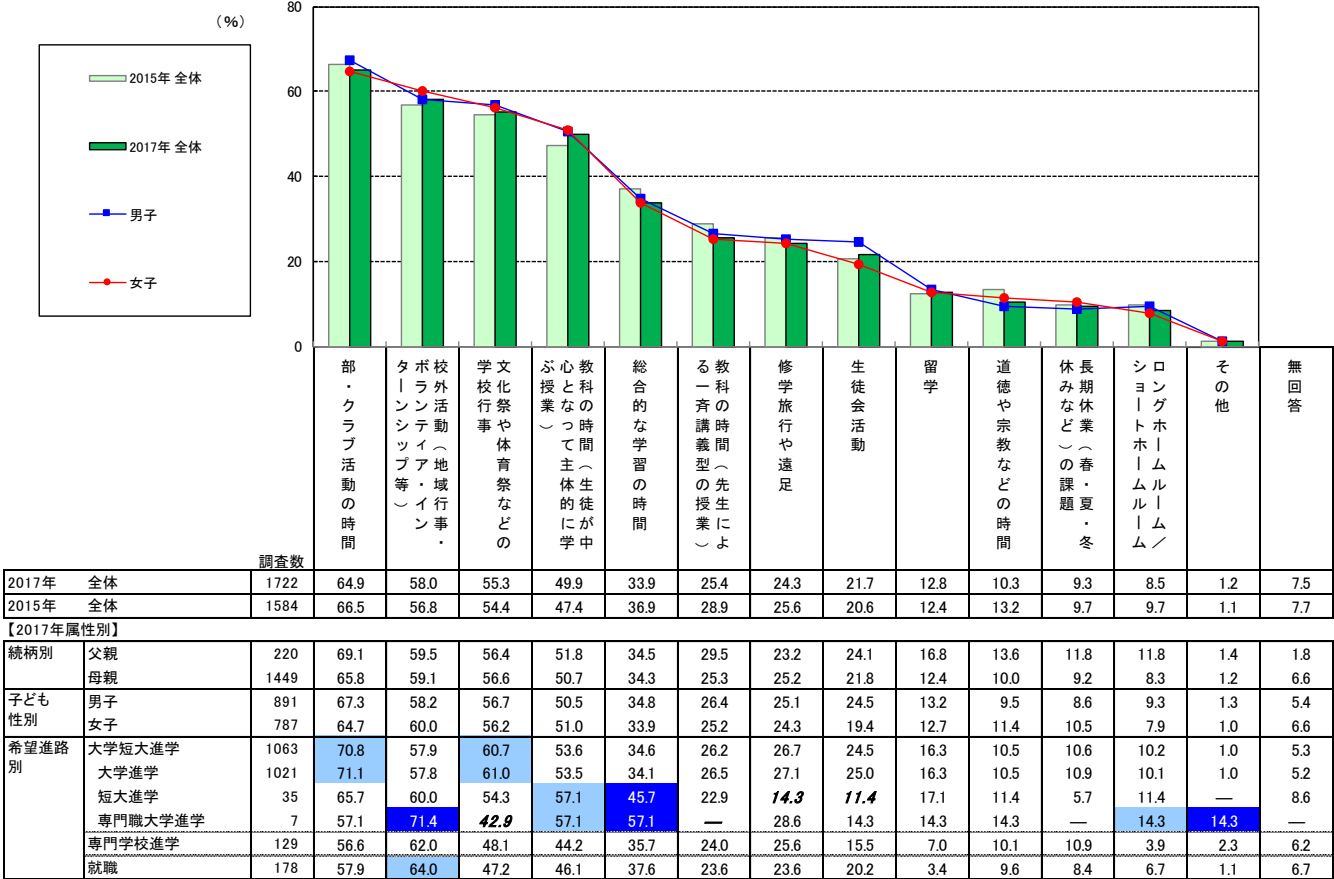
●同じく『社会人基礎力』を身につけるため、有効な学校生活の活動を保護者に尋ねたところ、結果は上記の通り。トップは、高校生と同様「部・クラブ活動の時間」が6割強に達する。

●続柄別・子どもの性別いずれでみても、概ね順位・スコアは同様。

●希望進路別にみると、大学短大進学希望者のトップは「部・クラブ活動の時間」(71%)、次いで「文化祭や体育祭などの学校行事」(61%)で、いずれもスコアは他層を大きく上回る。

一方、専門学校進学希望者・就職希望者は、「校外活動(地域行事・ボランティア・インターンシップ等)」がトップ。両者ともスコアは6割強に達し、大学短大進学希望者に比べ相対的に高い。

【保護者】 必要な能力を身につけるのに有効な場 (全体／複数回答)



※「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

Ⅵ 家庭での教育

32. 日常のコミュニケーションや行動

▶ 高校生が感じている保護者との日常のコミュニケーションや行動は、

- ①「あなたはどうしたい」「あなたはどう思う」とあなたの意見が尊重されている (66%)
- ②高校で何を学んでいるのかなど、高校での生活に関して会話している (52%)
- ③「自分で選択し、それに責任をもつ」ことが大切だと言われている (52%)

▶ 保護者が実施している子どもとの日常のコミュニケーションや行動は、

- ①「あなたはどうしたい」「あなたはどう思う」とお子さんの意見を尊重している (76%)
- ②「自分で選択し、それに責任をもつ」ことが大切だと言っている (74%)
- ③お子さんが悩んでいた、うまくいっていないときに励ます (70%)

▶ 保護者の「実施している」自己評価が高校生の実感を上回る。保護者が思うほど高校生に伝わっていない。

- 高校生・保護者のそれぞれに、日常のコミュニケーション・行動について12項目を呈示し、各実施状況を尋ねた。それぞれの「ある・計」「よくある」～「ある」上位は上記の通り。高校生・保護者とも「意見が尊重される」がトップ。
- 上位項目はいずれも保護者の「ある・計」スコアが高校生を上回り、保護者の認識と高校生の実感に差がある。特にスコア差が大きかったのは『「自分で選択し、それに責任をもつ」ことが大切だと言っている」「あなたが悩んでいた、うまくいっていないときに励ましてくれる」「ニュースや社会の動きなどについて一緒に考えたり会話している」「保護者に褒められている」「保護者に『夢や目標を大切にしてください』と言われている』。

【高校生】 保護者との日常のコミュニケーションや行動 (全体／各単一回答)

	(%)	ある・計			どちらとも いえない	ない・計		無回答		ある・計	ない・計
		よくある	ある	ない		まったくない					
(n= 1987)	●凡例										
D 「あなたはどうしたい」「あなたはどう思う」とあなたの意見が尊重されている		21.3	44.8			25.2		5.3 2.3	1.1	66.1	7.6
L 高校で何を学んでいるのかなど、高校での生活に関して会話している		16.4	36.0			27.2		13.2 6.1	1.0	52.4	19.4
C 「自分で選択し、それに責任をもつ」ことが大切だと言われている		17.0	35.0			32.2		10.6 4.2	0.9	52.0	14.8
E あなたが悩んでいた、うまくいっていないときに励ましてくれる		16.0	33.7			34.7		9.8 4.9	1.0	49.6	14.7
A 保護者に褒められている		9.6	37.9			35.4		11.5 4.6	0.9	47.6	16.1
F あなたと意見が異なるとき、頭ごなしに否定されない		14.1	31.7			38.2		10.8 4.1	1.0	45.8	14.9
J ニュースや社会の動きなどについて一緒に考えたり会話している		9.5	30.7			31.5		17.1 10.0	1.3	40.2	27.1
B 保護者に「夢や目標を大切に下さい」と言われている		9.9	27.6			38.7		15.8 7.1	0.9	37.5	22.9
H あなたがすることを保護者が決めたり手伝ったりする		5.9	26.6			41.9		18.3 6.3	0.9	32.6	24.6
I あなたの行動に口出しや干渉をしない		7.2	22.8			44.0		20.4 4.4	1.1	30.1	24.8
G あなたが失敗をしないように、保護者ができることを先回りして助けてくれる		7.8	22.0			45.4		17.7 6.1	0.9	29.8	23.9
K 地域とかかわりについて会話したり、行事に参加したりしている		5.3	17.4			34.7		25.9 15.5	1.2	22.7	41.4

※「ある・計」降順ソート

32 Kh Q23M

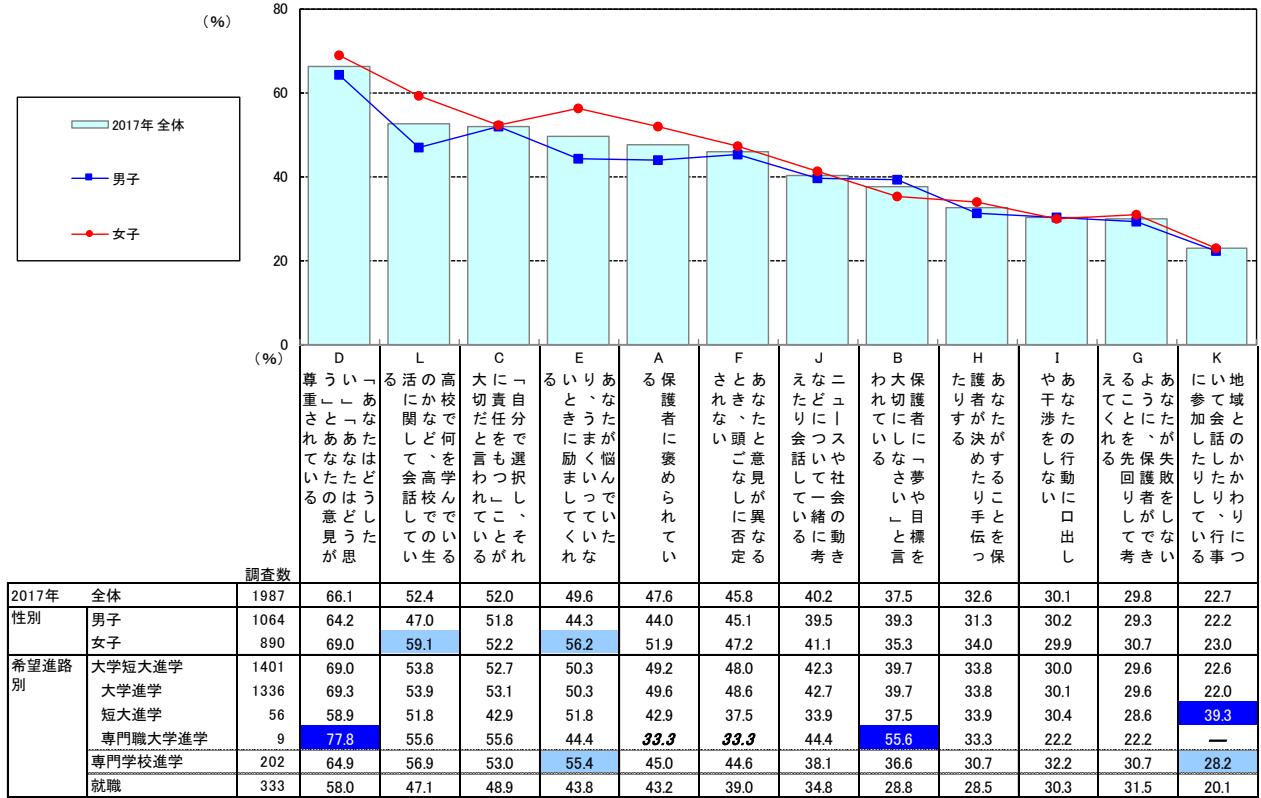
【保護者】 子どもとの日常のコミュニケーションや行動 (全体／各単一回答)

	(n=1722)	(%)	ある・計			ない・計			ある・計	ない・計	
			よくある	ある	どちらともいえない	ない	まったくない	無回答			
			●凡例								
D 「あなたはどうしたい」「あなたはどう思う」とお子さんの意見を尊重している		18.6		57.7		19.3	1.3	0.2	3.0	76.3	1.5
C 「自分で選択し、それに責任をもつ」ことが大切だと言っている		21.5		52.4		20.0	2.7	0.3	3.0	74.0	3.1
E お子さんが悩んでいた、うまくいっていないときに励ます		15.2		54.4		24.9	2.3	0.1	3.0	69.6	2.4
A お子さんを褒めている		14.8		50.8		27.6	3.7	0.1	3.0	65.6	3.8
L 高校で何を学んでいるのかなど、高校での生活に関して会話している		13.6		51.9		23.2	7.1	0.9	3.3	65.5	8.0
J ニュースや社会の動きなどについて一緒に考えたり会話している		10.7		48.4		25.9	10.5	1.5	3.0	59.1	12.0
B お子さんに「夢や目標を大切にしてください」と言っている		11.4		42.5		33.9	8.0	1.2	3.0	53.9	9.1
F お子さんと意見が異なるとき、頭ごなしに否定しない		8.3		37.2		44.9	5.6	0.7	3.3	45.5	6.3
K 地域とかかわりについて会話したり、行事に参加したりしている		4.3	26.2		38.7	23.8	3.9		3.1	30.5	27.7
I お子さんの行動に口出しや干渉をしない		3.3	22.4		56.6	13.0	1.7		3.1	25.7	14.6
G お子さんが失敗をしないように、保護者ができることを先回りして考える		3.0	21.7		42.5	25.2	4.5		3.1	24.6	29.7
H お子さんがすることを保護者が決めたり手伝ったりする		1.5	21.0		40.6	27.8	5.9		3.2	22.5	33.7

※「ある・計」降順ソート

32 Hh Q23M

【高校生】保護者との日常のコミュニケーションや行動（全体／「ある・計」）



※「2017年全体」降順ソート

※【2017年属性別】

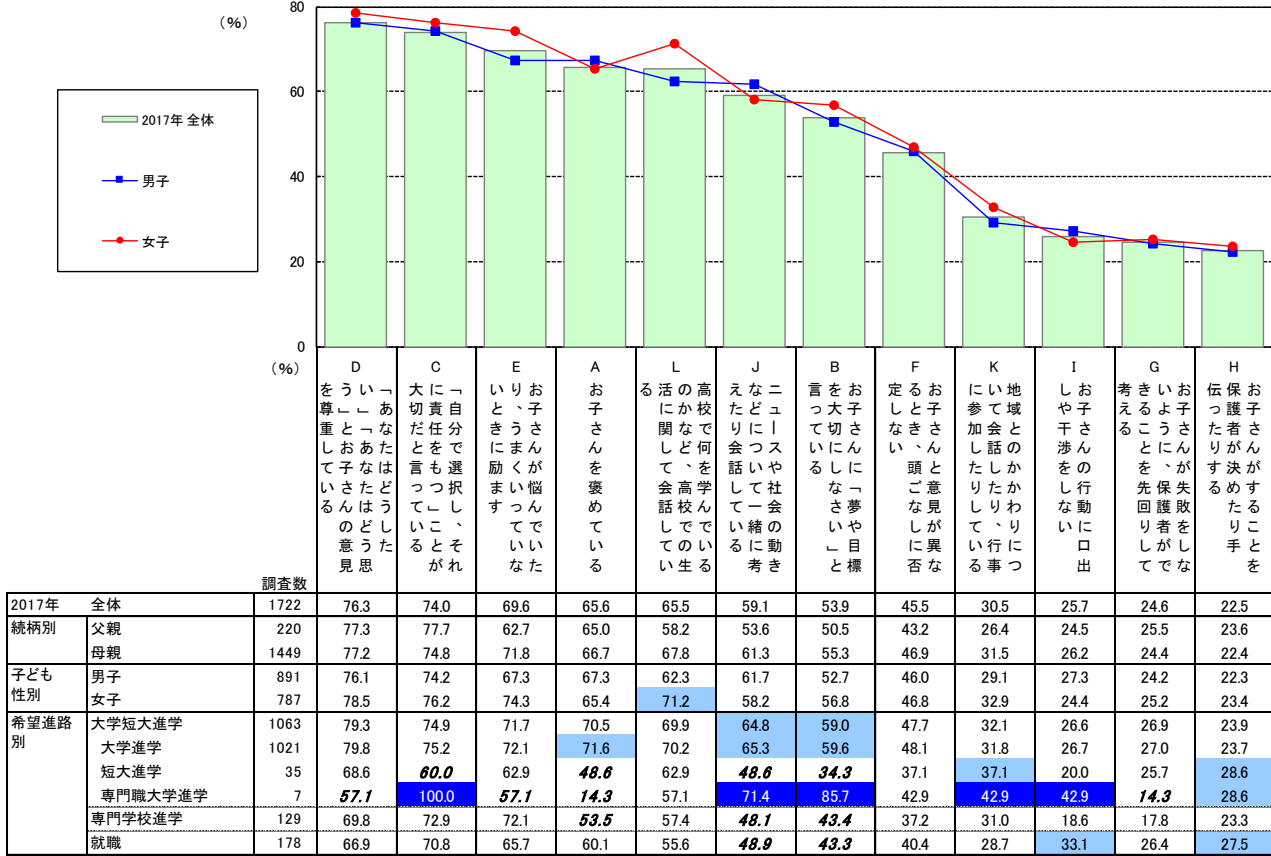
100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い

100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い

100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

32 Kh Q23

【保護者】子どもとの日常のコミュニケーションや行動（全体／「ある・計」）



※「2017年全体」降順ソート

※【2017年属性別】

100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い

100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い

100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

32 Kh Q23

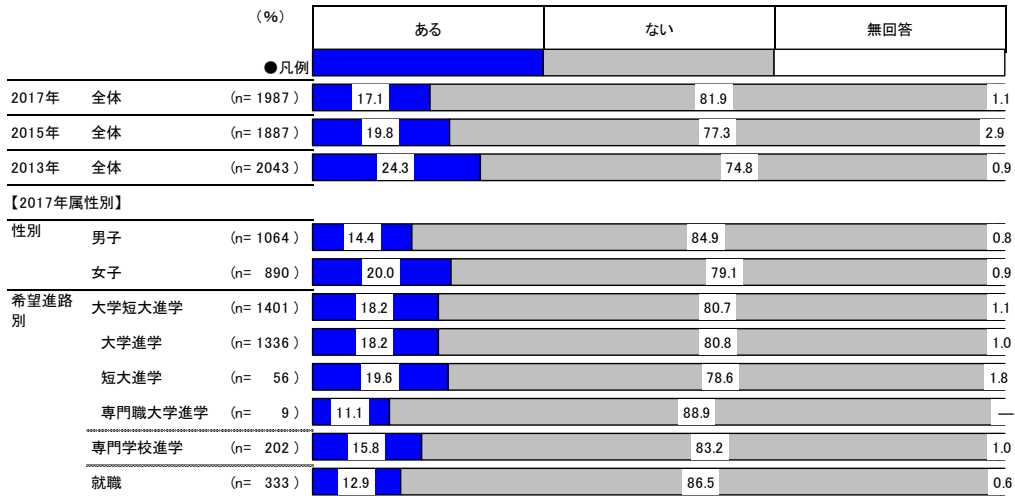
33.なぜ学び・働くのかについての話し合い／その内容

1) なぜ学ぶのか

▶『なぜ勉強しなければいけないのか』話し合ったことが「ある」高校生は17%、保護者は45%。

- 「なぜ勉強しなければいけないのか」話し合ったことがあるかという質問に、保護者の45%は「ある」と回答しているが、高校生は17%に留まり認識に差がある。過去調査結果に比べ、両者とも「ある」の割合は減少傾向。
- 両者に話し合った内容を書いてもらったところ、「将来の仕事」「生きていく術を身につける」などの回答が挙がった。

【高校生】「なぜ勉強しなければいけないのか」保護者と話し合ったことがあるか（全体／単一回答）

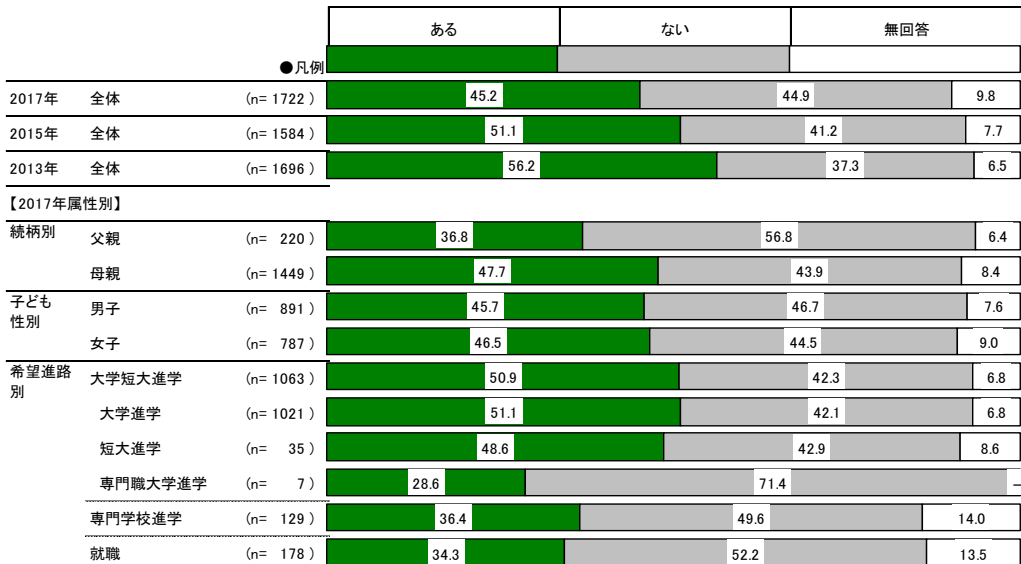


33 Kh Q24

<フリーコメント> 「なぜ勉強しなければいけないのか」話し合った内容【高校生】

- 疑問に思ったので聞いた。勉強で得た知識ではなく、会社はその知識を得られる能力のある人を欲していると言われた。[東京都/男子/大学]
- 知識や教養をつけるのはもちろんだが、大切なのは、目の前にあるものに一生懸命取り組むこと。それが将来で生きてくる。[福島県/女子/大学]
- 社会の中で学力常識が少なからず必要だから。[大阪府/男子/専門職大学]
- 勉強しないと職に就けない。[北海道/女子/専門学校]

【保護者】「なぜ勉強しなければいけないのか」子どもと話し合ったことがあるか（全体／単一回答）



33 Hh Q25

<フリーコメント> 「なぜ勉強しなければいけないのか」話し合った内容【保護者】

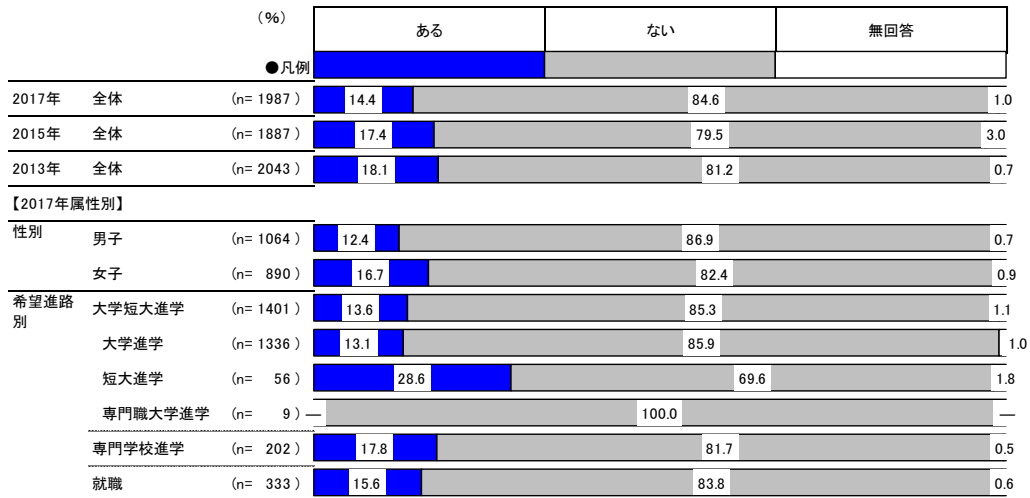
- 父母の職業を例に挙げ、こういう人とこういう人どちらがいいと思うか？どんな力があるといいか？など。[岐阜県/母親/女子/大学]
- やりたい仕事をするため、選択枝を広げるため。[北海道/母親/男子/大学]
- その時々でやるべき事を真剣にやる事が大事で、それが今は勉強である。大人になったら仕事だと。[福島県/父親/女子/大学]
- 学校の勉強は役に立たないと思うが、そこまでのプロセスや達成感が生きて行くうえで大事。[群馬県/母親/男子/何でもいい]
- 夢を叶えるため。[福島県/母親/男子/大学]
- 生きていく術を身につけてほしい。[岡山県/母親/女子/大学]
- 将来良い仕事に就くため。[長崎県/母親/女子/専門学校]
- 夢を叶えるため。[福島県/母親/男子/大学]

2) なぜ働くのか

▶『将来なぜ働かなければいけないのか』話し合ったことが「ある」高校生は14%、保護者は43%。

- 「将来なぜ働かなければいけないのか」話し合ったことがあるかという質問に、保護者の43%は「ある」と回答しているが、高校生は14%に留まり認識に差がある。過去調査結果に比べ、両者とも「ある」の割合は減少傾向。
- 両者に話し合った内容を書いてもらったところ、経済的な「自立」・人間としての「成長」などの回答が挙がった。

【高校生】「将来なぜ働かなければいけないのか」保護者と話し合ったことがあるか（全体／単一回答）

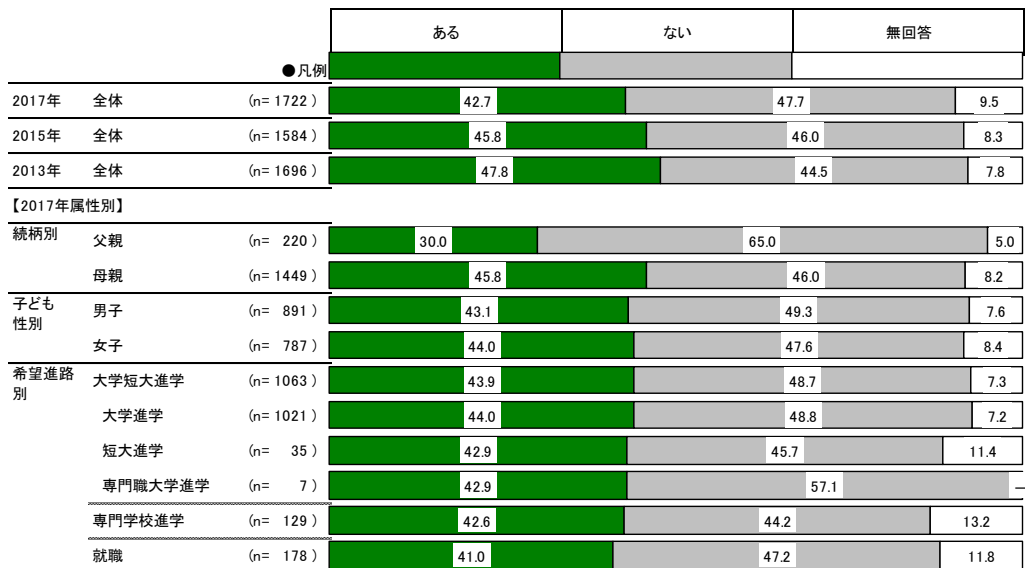


33 Kh Q25

<フリーコメント> 「なぜ働かなければいけないのか」話し合った内容【高校生】

- 将来一人でも生きていけるようにするため。[北海道/女子/大学]
- 家族を養うためや、子どもができた時に不自由なく生活させるため。[長野県/男子/大学]
- 社会貢献、納税、老後の話し、集団生活の意味。[長崎県/男子/大学]
- 親が死んだら誰も自分を助けてくれる人はいない。[東京都/男子/大学]
- いつまでも親を頼らず、自立するべき。[岩手県/男子/大学]
- お金を稼いで生活するため。[岐阜県/女子/専門学校]

【保護者】「なぜ働かなければいけないのか」子どもと話し合ったことがあるか（全体／単一回答）



33 Hh Q26

<フリーコメント> 「なぜ働かなければいけないのか」話し合った内容【保護者】

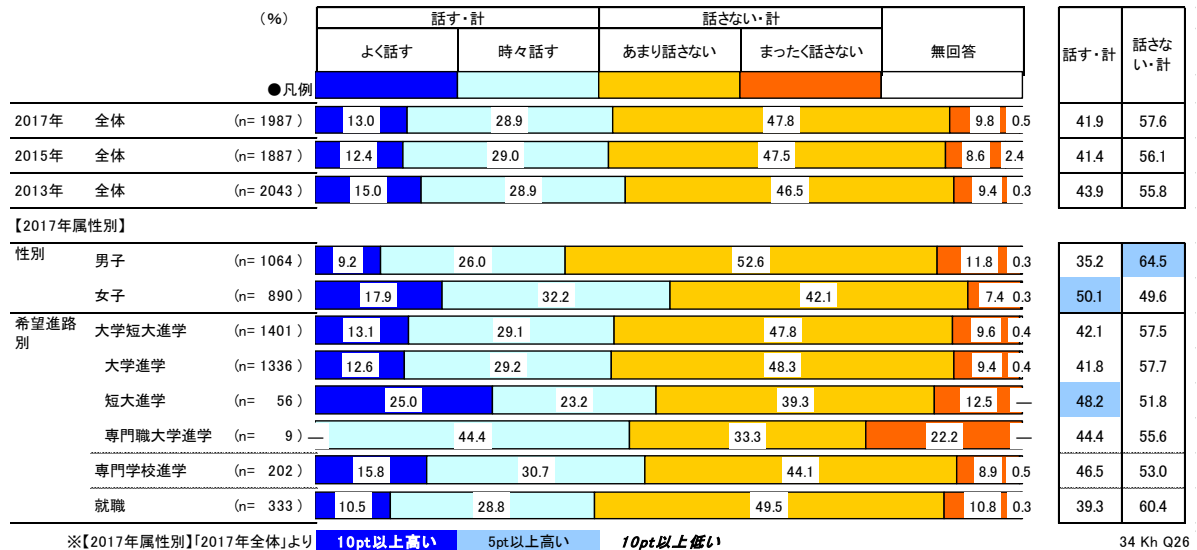
- いつまでも親はいないので、働いて生活をしなければならない。[北海道/母親/男子/就職]
- 社会への奉仕に対する対価(お金)にて生活できる事を説明している。[大阪府/父親/女子/何でもいい]
- 人生を楽しむためだと。苦無くして楽あらずと。[福島県/父親/女子/大学]
- 衣食住にお金が必要で、稼ぐために働かなければならない事を話しています。[岡山県/母親/男子/大学]
- 生活費のためだけに働くのではない。自分の成長のために働くのだという事。[岐阜県/母親/男子/大学]
- 金銭的な面では子どもも理解していると思います。それに加えて仕事をすることで素敵な人達と出会え、磨かれることを伝えています。[長崎県/母親/男子/大学]

34.保護者の仕事についての会話／その内容

▶ 保護者の仕事について、高校生の42%、保護者の62%が「話す」。

- 保護者の仕事の内容や楽しさ、大変さを話し合っているかという質問に、高校生は「よく話す」「時々話す」の合計で42%が話している(話す・計)。一方、保護者の「話す・計」(62%)は過半数を占め、高校生の認識を大きく上回る。
- 両者に話している内容を書いてもらったところ、仕事での成功談・失敗談のほか愚痴などの回答が挙がった。仕事について、達成感・やりがいといった“楽しさ”と同時に人間関係の難しさなど“辛さ”も伝えている。

【高校生】 保護者の仕事の内容、楽しさや大変さについて話すことがあるか (全体／単一回答)

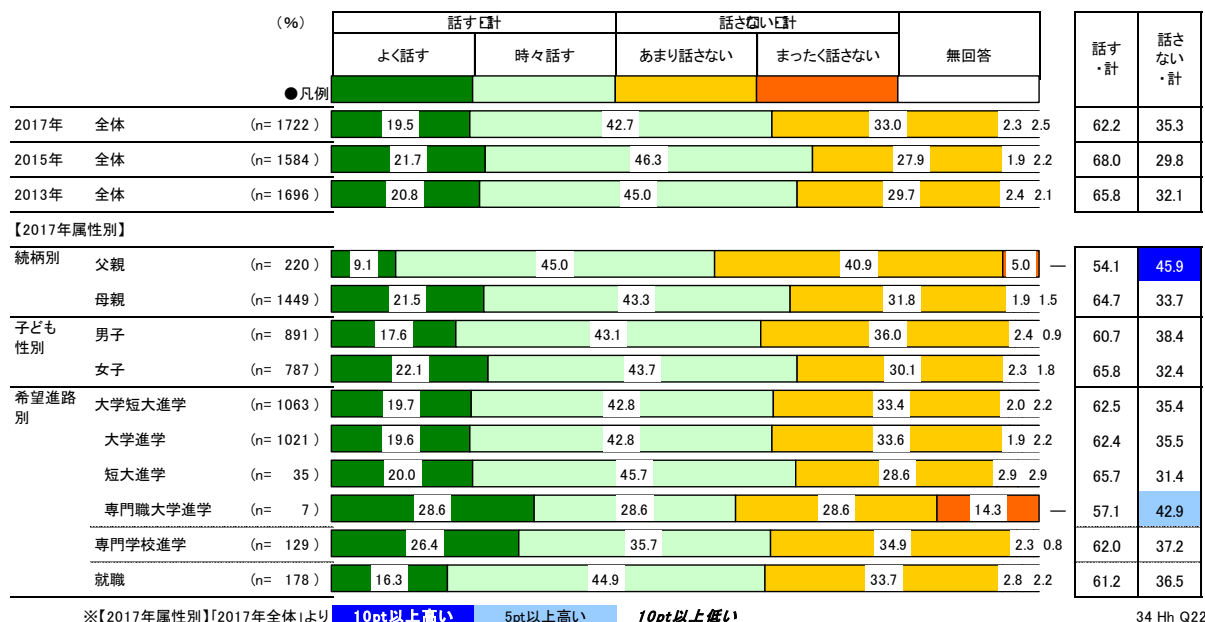


<フリーコメント> 保護者が話している内容【高校生】

○職場の面白い話とか愚痴とかを聞く。[岡山県/男子/大学]
○やりがいや、大変な辛いときでもなぜ仕事を続けられたのか。
[岡山県/女子/大学]

○仕事自体の大変さ。人間関係(上司への接し方)。[長崎県/男子/就職]
○大人になっても失敗はするし、苦しいことだってもちろんある、という話。
[岡山県/男子/大学]

【保護者】 仕事の具体的な内容、楽しさについて子どもに話すことがあるか (全体／単一回答)



<フリーコメント> 子どもに話している内容【保護者】

○自分の仕事での、失敗談や達成感。ノンフィクションのテレビを一緒に見ながら、働くことを考えさせる。[長崎県/父親/男子/大学]
○収入面や福利厚生などの話題。仕事内容→具体的な出来事やPDCAを回すことの難しさ大変さ。ただ仕事をこなすだけだと成果にならない等。
[群馬県/父親/女子/大学]
○仕事の成果や失敗談。[北海道/母親/女子/大学]

○楽しかった・印象的だった仕事の話もありますが、特に人間関係のことを話すことが多いです。本当にいろんなタイプの人達と付き合っていくことの大変さとか。[東京都/母親/女子/大学]
○仕事の愚痴になってしましますが、いろいろな人がいたり不条理な事もある事も伝えています。楽しい事は、あまりないかもしれない。
[北海道/母親/男子/就職]

35.高校卒業までに日常生活での自立や精神的な自立ができそうか

▶ 高校生・保護者とも4割が、高校卒業までに日常生活での自立・精神的な自立を「両方できる」と思っている。

- ①両方できると思う (38%)
 ②精神的な自立はできるが、日常生活での自立はできないと思う (32%)
 ③日常生活での自律はできるが、精神的な自立はできないと思う (16%)
 ④両方できないと思う (11%)

▶ 保護者も4割が、子どもは高校卒業までに日常生活での自立・精神的な自立を「両方できる」と思っている。

- ①両方できると思う (39%)
 ②精神的な自立はできるが、日常生活での自立はできないと思う (26%)
 ③両方できないと思う (15%)
 ④日常生活での自律はできるが、精神的な自立はできないと思う (12%)

●高校生に、高校卒業までに「日常生活での自立」と「精神的な自立」ができそうか尋ねたところ、最多は「両方できると思う」が4割。次いで「精神的な自立はできるが、日常生活での自立はできないと思う」。

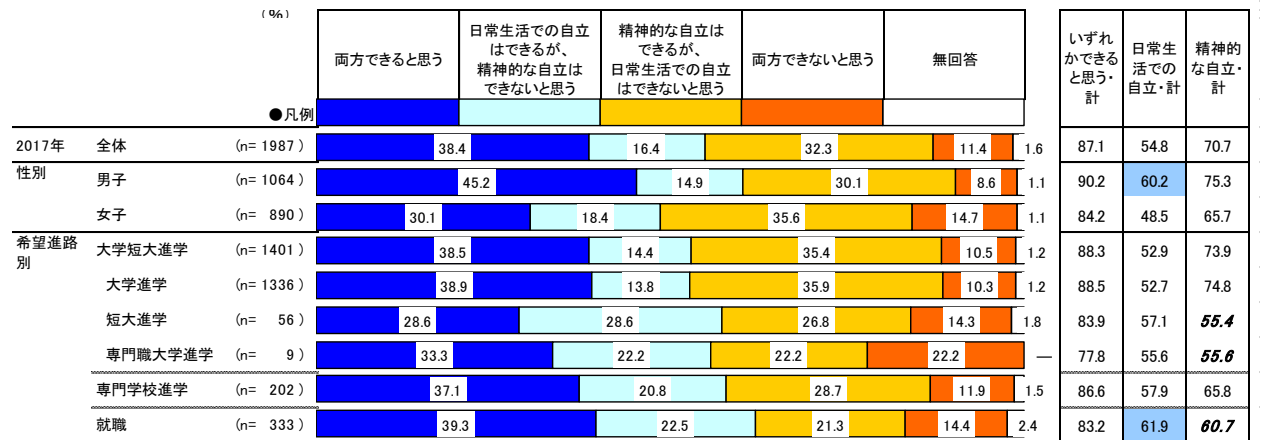
●高校生の性別にみると、「両方できると思う」は男子(45%)が女子(30%)を上回る。

●同様に保護者にも子どもは高校卒業までに「日常生活での自立」と「精神的な自立」ができそうか尋ねたところ、最多は「両方できる」が4割。次いで「精神的な自立はできるが、日常生活での自立はできないと思う」。

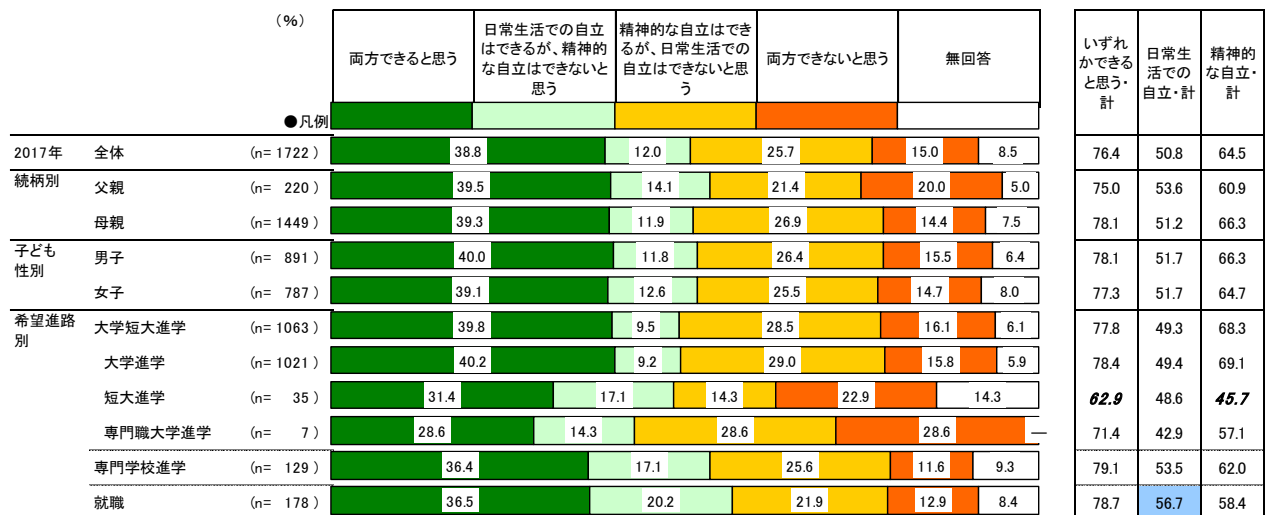
●保護者の続柄別・子どもの性別にみても同様の結果。

●両者に自立についてそう考える理由を書いてもらったところ、「両方できると思う」高校生・保護者からは日頃から「自分のことは自分です」「家事をできるようにになっている」など自立・子離れを努めているといった回答が目立つ。
 →フリーコメントは62ページに掲載

【高校生】 高校卒業までに「日常生活での自立や精神的な自立」ができそうか (全体／単一回答)



【保護者】 子どもは高校卒業までに「日常生活での自立や精神的な自立」ができそうか (全体／単一回答)



<フリーコメント> 高校卒業までに「日常生活での自立」や「精神的な自立」ができそうか、そう思う理由【高校生】

■両方できると思う

- 日常で自分のできることは自分でしているから。自分の考えなどはハッキリ言えるから。[福島県/男子/大学]
- 日常での家事などできるようになったし、高校の選択も自分自身で決めたのでつらぬき通したから。[長崎県/女子/大学]
- 今1人暮らしをしてみても、お金のことを除けば大丈夫だと思ったから。[東京都/女子/大学]
- 家のことも割とできるようになってきたし、自分の生活リズムも自分で整えられてきたから。[東京都/男子/就職]
- 料理などは出来てきているし、両親に、人としてのあれこれは学んだから。[岩手県/男子/大学]
- 家事全般は叩きこまれたので人並み以上に可能。精神的な自立がどういったものかわからないけど、依存してるわけでない。[北海道/男子/大学]
- 父が単身赴任で母は仕事をやっているから。[岡山県/男子/大学]
- 小さい時から母子家庭の為、自分のことは自分でやるようにしてきたし、周りの人よりは現実をみて生きてきた自信があるから。[東京都/女子/大学]

■日常生活での自立はできるが、精神的な自立はできないと思う

- 家事の手伝いなどはしているが、精神面では甘えていることがまだまだあるから。[岡山県/女子/大学]
- 家族と一緒に暮らしているから、がんばろうと思っても頼ってしまう時がある。[長崎県/女子/就職]
- 周りに流されずに自分なりに勉強していれば日常生活での自立はできると思うが、もともと自分のメンタルが弱い分、不安な気持ちに流される気がするから。[長野県/女子/大学]
- いろんなプレッシャーに今まで親にたよらず打ち勝ってきたことがないから。[長崎県/女子/大学]

■精神的な自立はできるが、日常生活での自立はできないと思う

- 学校でいろいろ鍛えられているけど一人暮らししていけるような日常生活の自立は難しそう。[長崎県/女子/大学]
- 日常生活のことは両親に支えてもらってできていることが多いため。[長野県/女子/大学]
- 家事を一切したことがないので日常生活には苦勞すると思うが、親なしでもやっていこうと思う気持ちがあるので精神的自立はできると思う。[和歌山県/男子/大学]
- 衣食住お金の問題がある。[東京都/男子/短期大学]
- 朝起こしてもらっているから、家事も自分が担当していること以外のことは任せきりだから。[岩手県/女子/大学]
- 今までそういった日常生活のことをあまりやってこなかったし、これから受験に向け、そういったことを学ぶ暇もなくなってしまうから。[長崎県/男子/大学]
- 勉強や部活で精神の発達はできると思うが、家のことは親に任せているから。[岐阜県/女子/大学]

■両方できないと思う

- まだ自分でできることが少なく、何も努力していないから、親に甘えているから。[岩手県/女子/大学]
- 私は精神年齢が低いし、家事もそんなに手伝っていないから。[東京都/女子/大学]
- やはりまだ両親や姉、友だちなどに頼りがちなところがあるから。[長崎県/男子/大学]
- 日常生活において完全に1人になる経験があまりないのでよくわからないから。[岩手県/女子/大学]
- 勉強ばかりで他のことを学ぶ余裕が時間的にも精神的にもない。[北海道/女子/大学]

<フリーコメント> 高校卒業までに「日常生活での自立」や「精神的な自立」ができそうか、そう思う理由【保護者】

■両方できると思う

- 目標をはっきりしていること。中学、高校と部活に積極的に取り組んでいることなどから、やりたいことやするためなら、きっと出来ると思う。[福島県/母親/男子/大学]
- 1人で生活できるように今のうちから炊事、洗濯をさせている。買い物の仕方、ATMの使い方なども。精神的にも今まで親子で色々なつらい経験をしてきたので少々な事ではへこたれませんが。[長崎県/母親/男子/何でもいい]
- 家事を家でもしているの、ほぼ日常生活自立できそう。精神的な面では、信頼できる友人や家族がまわりにいるから。[岡山県/母親/男子/大学]
- 親がいない時、お弁当やご飯作ったりする。必要最低限の家事は時間があればしようとしている。悩んだりして親に愚痴ったりはするがきちんと自分の中で消化して解決していくので精神的にも自立できると思う。[東京都/母親/女子/大学]
- 現在も金銭的な自立はしていないが、それ以外はほぼ自分でやっているため。[長野県/母親/男子/大学]

■日常生活での自立はできるが、精神的な自立はできないと思う

- 高校を卒業後、親元を離れてから気づくことも多いから。それらの経験の中から精神的な自立心は生まれてくると思います。[長崎県/父親/男子/大学]
- 精神的な自立は親が近くにない事で養われたり、社会に出ていろいろな人と接する事で培われると思うから。[長野県/母親/男子/大学]
- 学校や部活以外はほとんど家の中で過ごしているのあまり社会経験が無く、心配になる。[岐阜県/母親/男子/大学]
- 精神的自立を願っているが、自分自身が心配で声を掛けたり甘やかしていると思う。親がまず子ばなれしなければいけないと思う。[岐阜県/母親/女子/大学]

■精神的な自立はできるが、日常生活での自立はできないと思う

- どうしても親を頼って、生活しているから。食事を含め家事全般、親がやっているから。[群馬県/母親/女子/就職]
- 勉強してほいために、日常生活の事を親が何でもしてしまい、そろそろ自分でさせなくてはと思いつつ。卒業までに私も変わらなければと思う。[岩手県/母親/女子/大学]
- 毎朝始発での登校後、放課後は部活動で帰宅も夜8:00を過ぎます。塾の日は10:00過ぎになる中、日常生活での自立は難しいです。「福島県」/母親/女子/大学]
- 学習だけでなく、家事もさせたいが実際にその時間がない。部活、予習復習等で時間がない。[東京都/母親/何でもいい]

■両方できないと思う

- 高校卒業までは、まだまだ学生気分がぬけないと思う。人にすぐ頼ってしまう性格なので、社会に出て色々な人と接しなければ、自分の甘さが認識できないと思う。[北海道/母親/男子/就職]
- 朝は親におこされて目ざめ、通学も雨が降ると車で送ってほしいとお願ひされているのが現状なのでまだまだ自立ができとは思えないです。[群馬県/父親/男子/大学]
- 社会人になるまでに両方でできていればいいと思う。[東京都/母親/女子/大学]
- 世の中に出て、実際に経験・体験して初めて理解できるものだから。[岡山県/父親/男子/大学]
- まだ、日々の勉強、受験の心配が精一杯で、自立には程遠い。大学に入ったら、親も子も精神的にもゆとりができるのではないかとと思うので、少しずつ自立に向けた練習や見守りができるような気がする。[長崎県/母親/女子/大学]
- 不安や悩みがあるとき、心のバランスをとるのが難しいから、日々、勉強や部活などに忙しく、自分で起きたり、片付けたりすることが難しそう。[岐阜県/母親/女子/大学]

Ⅶ 学校への要望

36.家庭と学校の役割に関する認識

▶保護者は、高校生の教育について「働く意義について教える」「将来の目標をもたせる」のは家庭の役割、「学力をつけさせる」「人間関係を築く力をつける」のは学校の役割と認識。

●高校生の教育に関する11項目を呈示し、それぞれ「家庭」「学校」「その他」のうち誰の役割なのか該当すると思うものを項目ごとに選んでもらい、回答状況を分類した。

●「家庭のみ」の役割は、「働く意義について教える」「将来の目標をもたせる」が半数近く。

- ①働く意義について教える (48%)
- ②将来の目標をもたせる (44%)
- ③社会のルールを教え、マナーを身につける (36%)

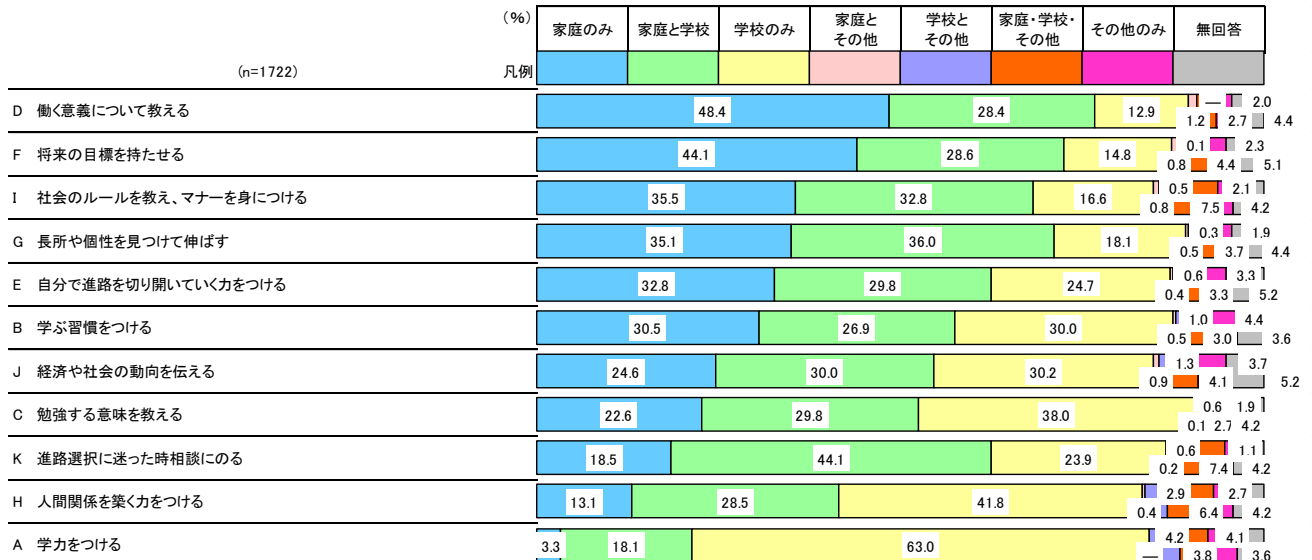
●「家庭と学校」両方が役割を担う教育は、「進路選択に迷った時相談に乗る」「長所や個性を見つけて伸ばす」が3～4割強。家庭と学校との連携を期待する回答が多い一方で、「長所や個性を見つけて伸ばす」「社会のルールを教え、マナーを身につける」は「家庭のみ」とする回答も同程度おり、保護者によって認識が分かれる。

- ①進路選択に迷った時相談にのる (44%)
- ②長所や個性を見つけて伸ばす (36%)
- ③社会のルールを教え、マナーを身につける (33%)

●「学校のみ」の役割は、「学力をつける」が6割。「人間関係を築く力をつける」「勉強する意味を教える」「経済や社会の動向を伝える」「学ぶ習慣をつける」も3～4割。学力に加え人間関係構築や経済動向についての指導も期待されている。

- ①学力をつける (63%)
- ②人間関係を築く力をつける (42%)
- ③勉強する意味を教える (38%)
- ④経済や社会の動向を伝える (30%)
- ⑤学ぶ習慣をつける (30%)

【保護者】高校生に対する役割（全体／「家庭の役割」「学校の役割」「その他の役割」回答組合せ各単一回答）



※「家庭のみ」のスコアで降順ソート

36 Hh Q32S

37. キャリア教育の認知と期待／意見・要望

▶ 保護者の『キャリア教育』の認知率は42%。

▶ キャリア教育について「良いことだと思う」は83%。

- 保護者に『キャリア教育』という言葉聞いたことがあるか尋ねたところ、42%が「ある」。
過去調査結果と比較すると、認知率は2015年に減少したが、2017年は2013年と同程度まで増加した。
- 次に、キャリア教育の定義を呈示したうえでキャリア教育が推進されていくことをどう思うか尋ねた。
「非常に良いことだと思う」は29%、「まあまあ良いことだと思う」(54%)と合わせ83%が「良いことだと思う」と評価(思う・計)。過去調査と比較すると、「思う・計」のスコアは2013年以降横ばい推移。「非常に良いことだと思う」のスコアは2015年に減少したが、2017年は微増した。

※調査で提示した『キャリア教育』の定義

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」

【保護者】『キャリア教育』という言葉聞いたことがあるか（全体／単一回答）

(%)			ある	ない	無回答
● 凡例					
2017年	全体	(n= 1722)	41.5	53.4	5.1
2015年	全体	(n= 1584)	32.6	62.4	5.0
2013年	全体	(n= 1696)	41.7	53.4	4.8
【2017年属性別】					
続柄別	父親	(n= 220)	42.3	57.3	0.5
	母親	(n= 1449)	42.2	54.2	3.6
子ども性別	男子	(n= 891)	43.4	53.2	3.4
	女子	(n= 787)	40.8	56.2	3.0
希望進路別	大学短大進学	(n= 1063)	46.2	49.3	4.5
	大学進学	(n= 1021)	46.7	48.9	4.4
	短大進学	(n= 35)	28.6	62.9	8.6
	専門職大学進学	(n= 7)	57.1	42.9	—
	専門学校進学	(n= 129)	32.6	62.0	5.4
	就職	(n= 178)	27.5	68.0	4.5

37 Hh Q34

【保護者】『キャリア教育』が推進されていくことをどう思うか（全体／単一回答）

(%)			思う・計		思わない・計		その他		無回答		思う・計	思わない・計	
			非常に良いこと だと思う	まあまあ良いこと だと思う	あまり良いこと だと思わない	まったく良いこと だと思わない							
●凡例													
2017年	全体	(n= 1722)	29.2			53.8		4.8	0.6	3.5	8.1	83.0	5.5
2015年	全体	(n= 1584)	26.4			53.6		4.7	0.8	3.2	11.3	80.0	5.5
2013年	全体	(n= 1696)	33.3			48.4		5.4	1.1	2.9	9.0	81.7	6.5
【2017年属性別】													
続柄別	父親	(n= 220)	28.2			54.5		8.6	0.5	5.9	2.3	82.7	9.1
	母親	(n= 1449)	30.0			54.9		4.3	0.7	3.2	6.9	84.9	5.0
子ども性別	男子	(n= 891)	30.9			54.5		5.6	0.3	2.9	5.7	85.4	5.9
	女子	(n= 787)	28.1			55.7		4.2	0.9	4.3	6.9	83.7	5.1
希望進路別	大学短大進学	(n= 1063)	32.7			52.6		3.9	0.6	4.0	6.3	85.3	4.4
	大学進学	(n= 1021)	33.4			52.1		3.9	0.5	3.9	6.2	85.5	4.4
	短大進学	(n= 35)	11.4			65.7		2.9	2.9	5.7	11.4	77.1	5.7
	専門職大学進学	(n= 7)	42.9			57.1		—	—	—	—	100.0	—
	専門学校進学	(n= 129)	19.4			61.2		7.0	—	3.1	9.3	80.6	7.0
	就職	(n= 178)	27.0			53.4		8.4	0.6	3.4	7.3	80.3	9.0

※【2017年属性別】「2017年全体」より 10pt以上高い 5pt以上高い 10pt以上低い

37 Hh Q34SQ1

＜フリーコメント＞ キャリア教育に対する意見や要望【保護者】

- あまり早過ぎる時期からキャリア教育をしても具体的なイメージを持っていないのでは？特に地方では身近にいるのが限られた職業の人ばかりなので、視野が狭すぎてどんな職があるのかわからない。
[長野県/母親/女子/大学]
- キャリア教育よりも、人として大切な事を教えてほしい。常識をもてる人を育ててほしい[長崎県/母親/女子/大学]

- キャリア教育について、保護者への指導も必要と思う。学校での指導資料等、保護者にも配布し、家庭での教育にも役立つのでは無いでしょうか。[群馬県/父親/女子/大学]
- グローバルな世の中に対応できるキャリア教育を推進して欲しい。
[長崎県/父親/男子/大学]

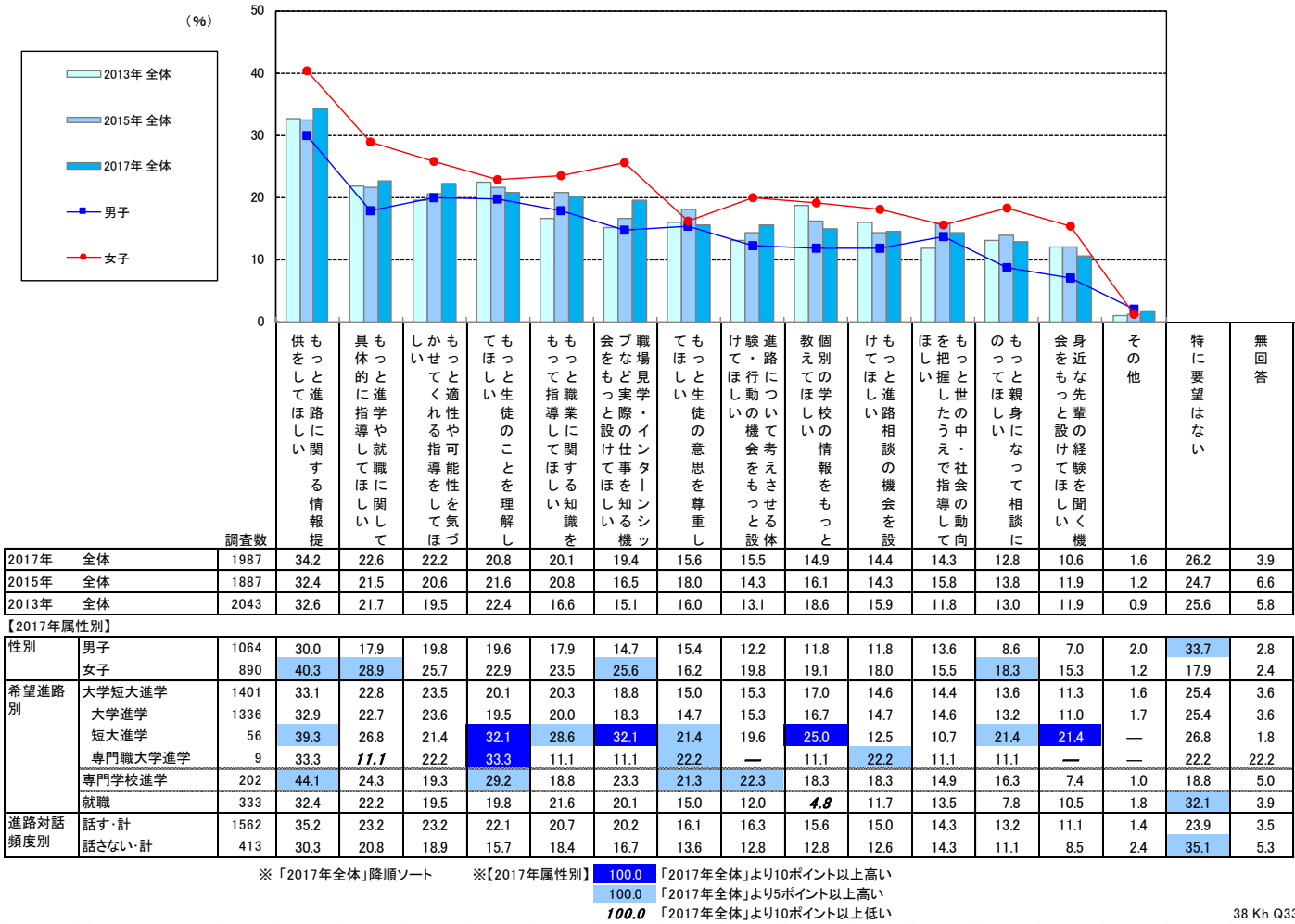
38.進路指導への要望／意見・要望

▶ 高校の進路指導に対する高校生の要望は、「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」。

- ①もっと進路に関する情報提供をしてほしい (34%)
- ②もっと進学や就職に関して具体的に指導してほしい (23%)
- ③もっと適性や可能性を気づかせてくれる指導をしてほしい (22%)
- ④もっと生徒のことを理解してほしい (21%)
- ⑤もっと職業に関する知識をもって指導してほしい (20%)

- 高校の進路指導について、高校生と保護者それぞれに要望することをすべて選んでもらった。高校生の回答は上記の通り。情報提供および生徒個人の資質・適性を踏まえた具体的な指導を要望。
- 男女とも上位の顔ぶれは同様だが、全般に女子のスコアが男子より高く、進路指導への要望が幅広い。
- 希望進路別にみると、進学・就職いずれの進路も「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」がトップ。
- フリーコメントでは、私立大学希望者・専門学校進学希望者・進路未決定の生徒に対する消極的な態度・熱心ではない指導への不満が挙がった。進学・就職、いずれの進路であっても、個々の生徒に向き合った指導をしてほしいという要望がうかがわれる。

【高校生】 高校の進路指導について要望すること（全体／複数回答）



38 Kh Q33

＜フリーコメント＞ 高校や教師に対する意見や要望【高校生】

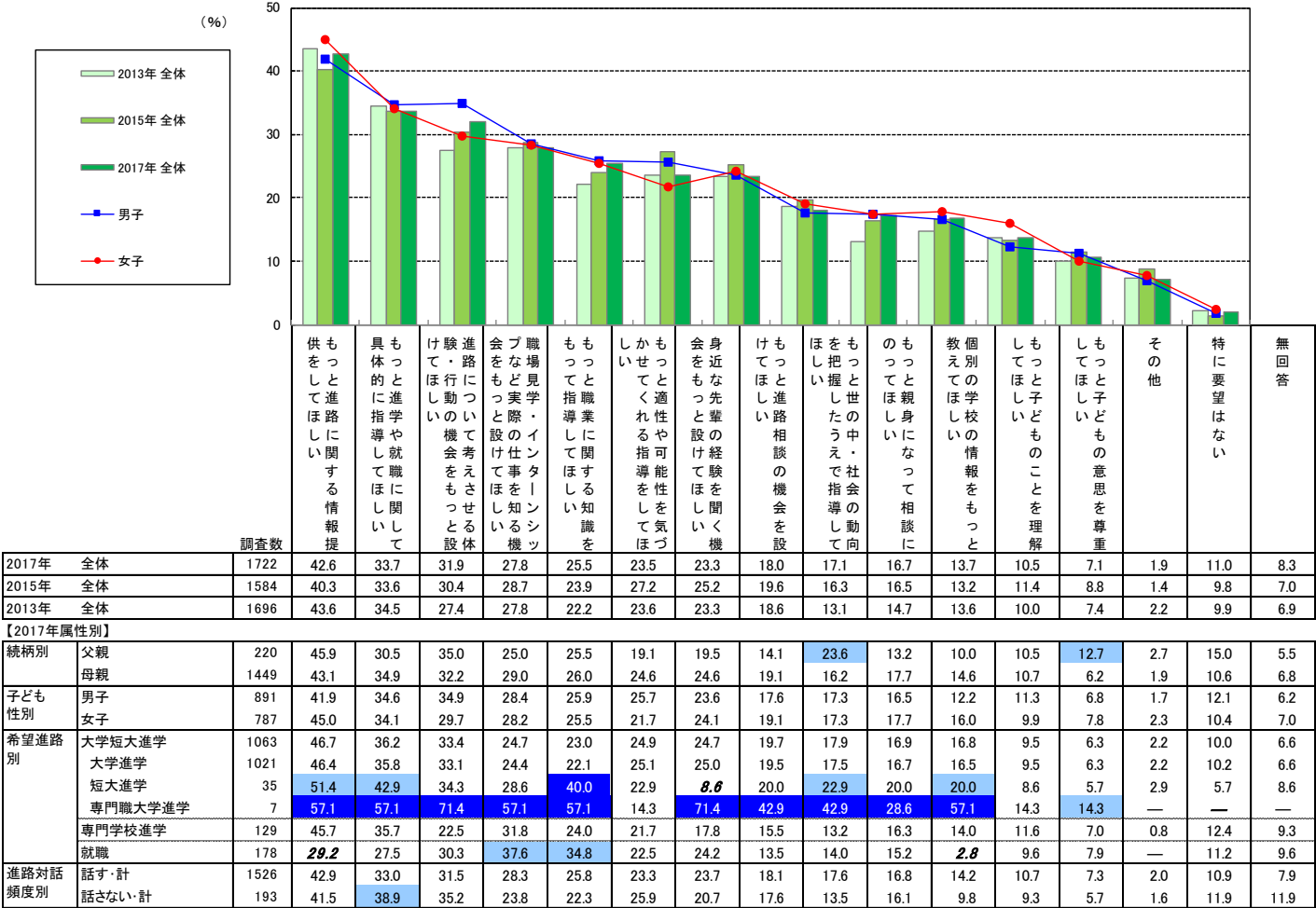
- 私立大進学希望に対して、消極的すぎるのをやめてほしい。国公立を推しすぎている。[福島県/男子/大学]
- 最良がある。きちんと進路が決まっていたり賢い子に授業中よく話をしていたり、授業もその人たちが優先な印象がある。もっと話を聞くべきなのは、分かっていない人だったり困っている人なのではないか。[和歌山県/女子/大学]
- 進学校にとって専門学校は進学の成績にならないのだから、手をぬかず熱心に取り組んでほしい。[岡山県/女子/専門学校]
- 教科の先生たちで指導内容などを統一してほしい。[岩手県/女子/大学]
- 進路指導が、やりたいことや就きたい職業があるという前提で行われていそうで困ります。[岩手県/女子/大学]

▶ 高校の進路指導に対する保護者の要望も、「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」。

- ①もっと進路に関する情報提供をしてほしい (43%)
- ②もっと進学や就職に関して具体的に指導してほしい (34%)
- ③進路について考えさせる体験・行動の機会をもっと設けてほしい (32%)
- ④職場見学・インターンシップなど実際の仕事を知る機会をもっと設けてほしい (28%)
- ⑤もっと職業に関する知識をもって指導してほしい (26%)

- 保護者の回答は上記の通り。高校生と同様、トップは「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」。
- 高校生に比べ「進路について考えさせる体験・行動の機会」「職場見学・インターンシップなど実際の仕事を知る機会」が上位に挙がり、保護者は進路・職業を知る体験・実習の機会への要望が多い。
- 希望進路別にみると、大学短大進学・専門学校進学希望者は、「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」、就職希望者は「職場見学・インターンシップなど実際の仕事を知る機会をもっと設けてほしい」がそれぞれトップ。
- フリーコメントでも、直近の進学・就職にとらわれずに進路について十分考えることができるような情報や機会を提供してほしいといった要望が挙がっている。

【保護者】 高校の進路指導について要望すること（全体／複数回答）



※「2017年全体」降順ソート ※【2017年属性別】 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より5ポイント以上高い 100.0 「2017年全体」より10ポイント以上低い

38 Hh Q33

＜フリーコメント＞ 高校や教師に対する意見や要望【保護者】

- 10年以内になくなる職業があればその影響をうけないキャリアを形成できるようにサポートしてほしい何言っても子供達はまだ子供だから。[大阪府/父親/女子/何でもいい]
- できるだけ多くの大学生や社会人(先輩)の話を聞く機会をつくり、自分の将来について考える場を与えてほしいです。[岩手県/母親/男子/大学]
- 学校が指導している内容が親まで届いていないので親子での共有が難しいと感じる。[岩手県/母親/女子/大学]
- 有名難関校を勧めるのではなく子どもに合った進路を指導して欲しいと願っています。[長崎県/母親/男子/大学]
- 日頃の勉強が忙しすぎるので、もっと余裕をもって将来について考える機会があるとよい。[東京都/母親/男子/大学]

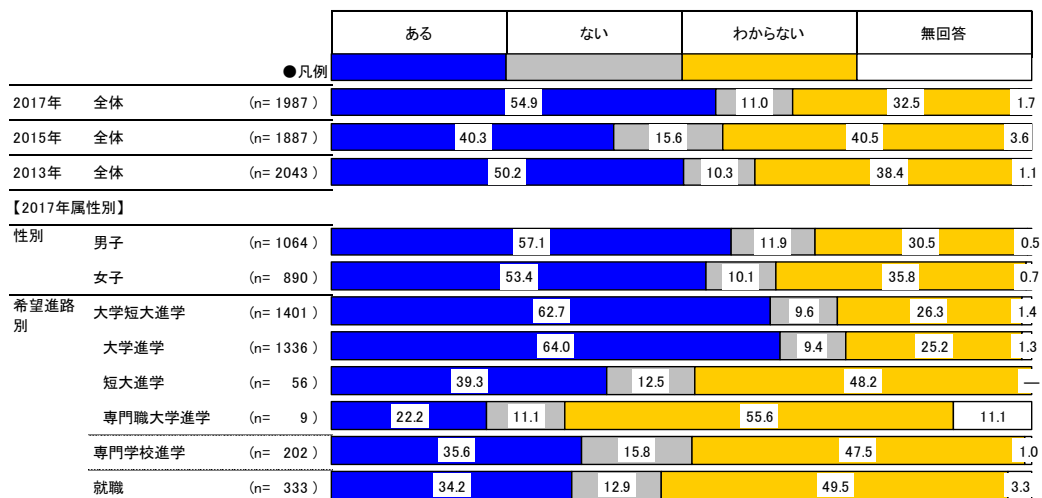
Ⅷ グローバル化社会・AIの普及発展における高校生と保護者の意識

39.将来の進路に対するグローバル化社会の影響

▶ 高校生の将来への社会・経済のグローバル化の影響について、高校生の55%、保護者の48%が「ある」。

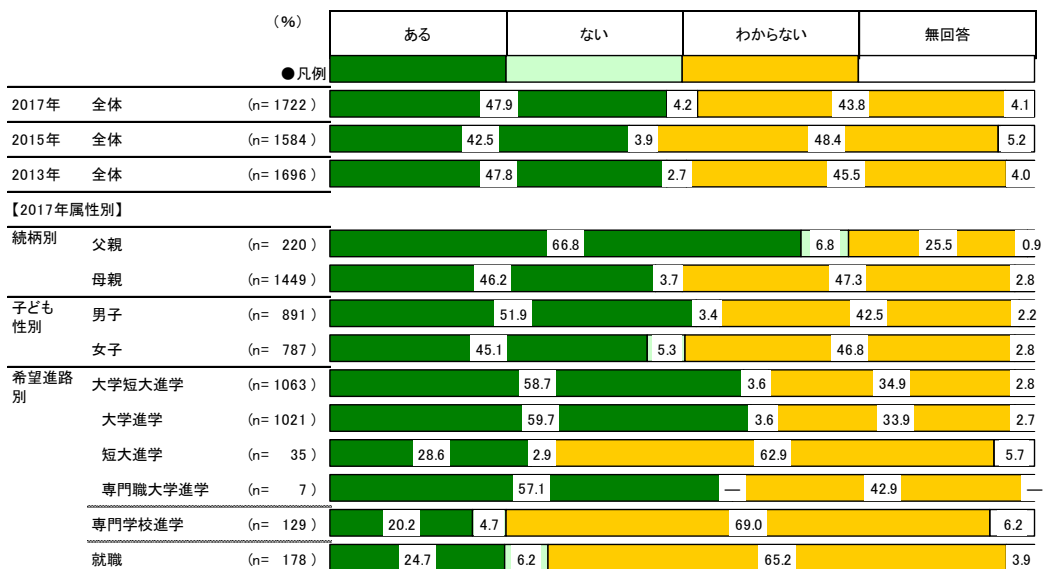
- 高校生に自分の将来に社会・経済のグローバル化の影響があると思うかを尋ねたところ、55%が「ある」と回答。次いで、「わからない」(33%)。
- 性別にみると、「ある」の割合は男子(57%)が女子(53%)をやや上回る。
- 希望進路別にみると、大学短大進学希望者では「ある」の割合は他層に比べ高く、63%。
- 保護者に対しても同様に、子どもの将来に社会・経済のグローバル化の影響があると思うかを尋ねた。保護者の48%が「ある」と回答。「わからない」が高校生に比べ高く、44%。
- 続柄別にみると、「ある」の割合は父親(67%)が母親(46%)よりも高い。
- 子どもの性別にみると、「ある」の割合は男子(52%)が女子(45%)よりも高い。
- 希望進路別にみると、高校生の回答と同様に大学短大進学希望者で「ある」の割合が他層に比べ高く、59%。

【高校生】 自分の将来にグローバル化の影響があると思うか（全体／単一回答）



39 Kh Q30

【保護者】 子どもの将来に社会・経済のグローバル化は影響があると思うか（全体／単一回答）



39 Hh Q28

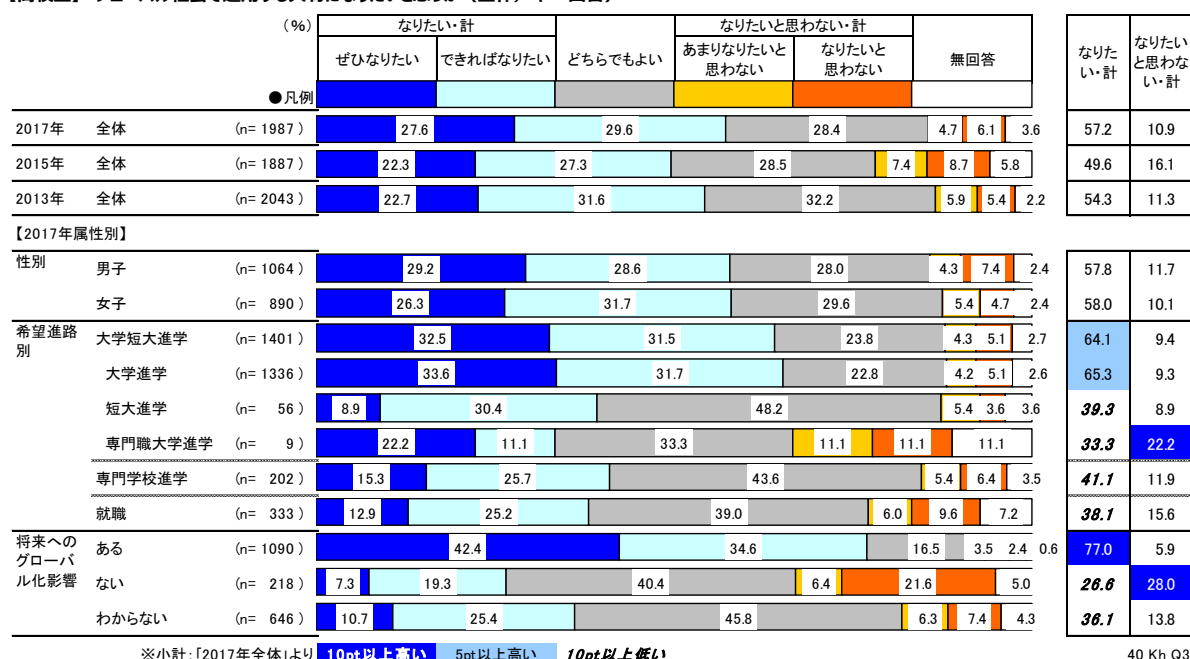
40.グローバル社会で通用する人材になりたい(なっほしい)か／その理由

1) 高校生の認識

▶ 高校生の57%がグローバル社会で通用する人材に「なりたい」と回答。

- 高校生に将来グローバル社会で通用する人材になりたいか尋ねたところ、「ぜひなりたい」は28%、「できればなりたい」(30%)を含め57%が「なりたい(なりたい・計)」と回答。
- 希望進路別にみると、「なりたい・計」の割合は大学短大進学希望者で最も高く、64%。
- 67ページ『将来の進路に対するグローバル化社会の影響』の回答別にみると、影響が「ある」層の77%が「なりたい」と回答。一方、グローバル化の影響が「ない」「わからない」層では、「なりたい」意向は2～3割強。
- グローバル社会で通用する人材になりたいと思う理由としては、「グローバル社会に適応できれば苦勞する」という認識が浸透しつつあることがうかがわれる。
一方、なりたくない理由としては、「英語が苦手」といった言語スキルへの不安、「日本国内で活動するから不要」とする無関心が挙がった。

【高校生】 グローバル社会で通用する人材になりたいと思うか（全体／単一回答）



<フリーコメント> グローバル社会で通用する人材になりたい・なりたくない理由【高校生】

■ぜひなりたい

- グローバル社会反対派が何を言おうと、社会はどんどんグローバル化していくのだから、通用する人材になっていないと、取り残されてしまうから。[長崎県/男子/大学]
- 日本の労働人口が減っている今、日本は外国の労働者を雇わざるを得ないと思うから。そんな「日本」で働いていくために、グローバルな人材になるべきだと思うから。[福島県/女子/大学]
- これから外国人や観光客が増えるので、外国人との交流は必須になる時代がくると思うから[群馬県/男子/大学]
- 今から必要とされる人材はそういう人達だし、実際に英語ができると便利だなと語学研修を通して実感したから。[長崎県/女子/大学]

■できればなりたい

- グローバル社会になるといわれているのに、それに適応できなかったら、社会に自分の居場所はなくなると考えるから。[北海道/男子/大学]
- 色々な人とふれ合って、どんなふうな価値感のちがいがいるのかとか知りたいし、外の世界が気になる。[東京都/女子/大学]
- 自分の好きなことだけできていければいいし、世界に飛び出したいとも特に思わないから。「できれば」の範囲でとどまっている状態。[和歌山県/女子/大学]
- 対応できなかったら苦勞すると思う。[岡山県/男子/大学]

■どちらでもよい

- グローバルだろうがローカルだろうが通用すればそれでよい。[岐阜県/男子/大学]
- 将来やりたい仕事にグローバル化の影響はあまりないかなと思うから。[長崎県/女子/大学]
- 英語は得意なのですが普通に日本語で日本人と話したい。[大阪府/男子/就職]
- まだ自分が何をしたいかわからないから。[岐阜県/男子/専門学校]

■あまりなりたくないと思わない

- グローバル社会＝英語というイメージが強く英語がとても苦手だから。[東京都/女子/大学]
- グローバル社会が具体的にどんなものかわからないから。[北海道/男子/大学]
- まずは、自分の身の回りに通用する人、認められる人になりたいから。[岩手県/男子/大学]

■なりたくないと思わない

- 英語が苦手だから。[岡山県/女子/大学]
- 国内で活動できれば十分。[群馬県/男子/大学]
- 通用する自信がない。[北海道/男子/大学]

2) 保護者の認識

▶ 保護者の42%が子どもにグローバル社会で通用する人材に「なしてほしい」と回答。

- 保護者には、子どもにグローバル社会で通用する人材になしてほしいと思うか尋ねた。「ぜひなしてほしい」は13%、「できればなしてほしい」(30%)を含め42%が「なしてほしい(なしてほしい・計)」と回答。高校生の「なりたい・計」(57%)と比較して、保護者の意向は下回る。
- 希望進路別にみると、「なしてほしい・計」の割合は大学短大進学希望者で最も高く、53%。
- 67ページ『将来の進路に対するグローバル化社会の影響』の回答別にみると、影響が「ある」層の65%が「なしてほしい」と回答。一方、グローバル化の影響が「ない」「わからない」層では、「なしてほしい」意向は約2割。
- グローバル社会で通用する人材になしてほしいと思う理由としては、「これからは英語を使い世界を相手に仕事をする必要がある」という現状認識がうかがわれる。一方、なしてほしいと思わない理由としては、「国際情勢」への懸念、「勉強が嫌い」なため適性がないという適性への不安が挙がった。

【保護者】 子どもにグローバル社会で通用する人材になしてほしいか（全体／単一回答）

		(%)	なしてほしい・計		どちらでもよい	なしてほしいと思わない・計		無回答	なしてほしい・計	なしてほしいと思わない・計
			ぜひ なしてほしい	できれば なしてほしい		あまり なしてほしいと 思わない	なしてほしいと 思わない			
●凡例										
2017年	全体	(n= 1722)	12.7	29.7		47.9		2.1 2.6 5.1	42.3	4.7
2015年	全体	(n= 1584)	10.4	30.6		45.5		3.3 2.1 8.1	40.9	5.5
2013年	全体	(n= 1696)	10.6	28.0		48.6		2.9 2.4 7.6	38.6	5.2
【2017年属性別】										
続柄別	父親	(n= 220)	21.8	34.1		40.5		0.5 1.8 1.4	55.9	2.3
	母親	(n= 1449)	11.5	29.6		50.1		2.4 2.6 3.7	41.1	5.0
子ども性別	男子	(n= 891)	14.4	32.2		46.4		2.1 2.2 2.7	46.6	4.4
	女子	(n= 787)	10.9	28.0		51.7		2.2 2.9 4.3	38.9	5.1
希望進路別	大学短大進学	(n= 1063)	17.7	35.7		40.8		1.4 1.2 3.1	53.4	2.6
	大学進学	(n= 1021)	18.0	36.4		40.2		1.4 1.0 3.0	54.5	2.4
	短大進学	(n= 35)	8.6	17.1		60.0		2.9 5.7 5.7	25.7	8.6
	専門職大学進学	(n= 7)	14.3	28.6		42.9		— 14.3 —	42.9	14.3
	専門学校進学	(n= 129)	2.3	19.4		57.4		7.0 7.0 7.0	21.7	14.0
	就職	(n= 178)	3.9	14.6		64.0		3.4 9.0 5.1	18.5	12.4
	将来へのグローバル化影響									
将来へのグローバル化影響	ある	(n= 824)	22.3	42.6		33.0		0.8 0.4	64.9	1.7
	ない	(n= 73)	5.5	15.1		60.3		8.2 11.0 —	20.5	19.2
	わからない	(n= 754)	4.0	19.1		66.8		2.9 3.7 3.4	23.1	6.6
※【2017年属性別】「2017年全体」より			10pt以上高い	5pt以上高い	10pt以上低い					
40 Hh Q30										

※【2017年属性別】「2017年全体」より 10pt以上高い 5pt以上高い 10pt以上低い

40 Hh Q30

<フリーコメント> グローバル社会で通用する人材になしてほしい・なほしくない理由【保護者】

■ぜひなしてほしい

- インバウンドの増加、日本から海外へ文化などを輸出する様な社会になる。[東京都/父親/男子/大学]
- 今は英語が出来ないと出張にも行けない。外国の技術を導入するにも日本に居たままでは遅くなってしまい、ライバル社より有利にならない。[群馬県/父親/女子/大学]
- 日本国内に限定すると仕事が限られるので世界を相手にせざるを得ない。[長崎県/父親/男子/大学]
- これからは、みんな英語も話せて、より、世界が身近な、存在になるから。[長崎県/母親/男子/大学]
- そういう社会だから。視野がせまいとどんな職業についても伸びないと思うから。[岐阜県/母親/女子/大学]

■できればなしてほしい

- 英語が話せたり、コミュニケーション能力が高いと仕事の幅も広がる。[福島県/母親/女子/何でもいい]
- これからの社会人には必要だと思う。が、子供の性格、語学力などで、相当の努力が必要になってくると思う。[北海道/母親/男子/大学]

■どちらでもよい

- 「グローバル人材」が目標ではなく、社会環境に予軟に対応できることが重要で、その結果であれば望ましいと思うため。[岐阜県/母親/女子/大学]
- できれば色々な世界を知って考え方も広がればと思いますが本人はあまり興味がないようなので無理だと思います。[東京都/母親/男子/大学]
- 本人の希望や職種で必要であれば、そのような人材になしてほしい。[和歌山県/父親/女子/大学]
- 世の中に役立ち、自分も生きがいある人生を歩めるならばどのような職業でも良いと思っているので。[大阪府/母親/男子/専門学校]

■あまりなしてほしいと思わない

- 国際情勢が不安定だから。[岩手県/母親/女子/大学]

■なしてほしいと思わない

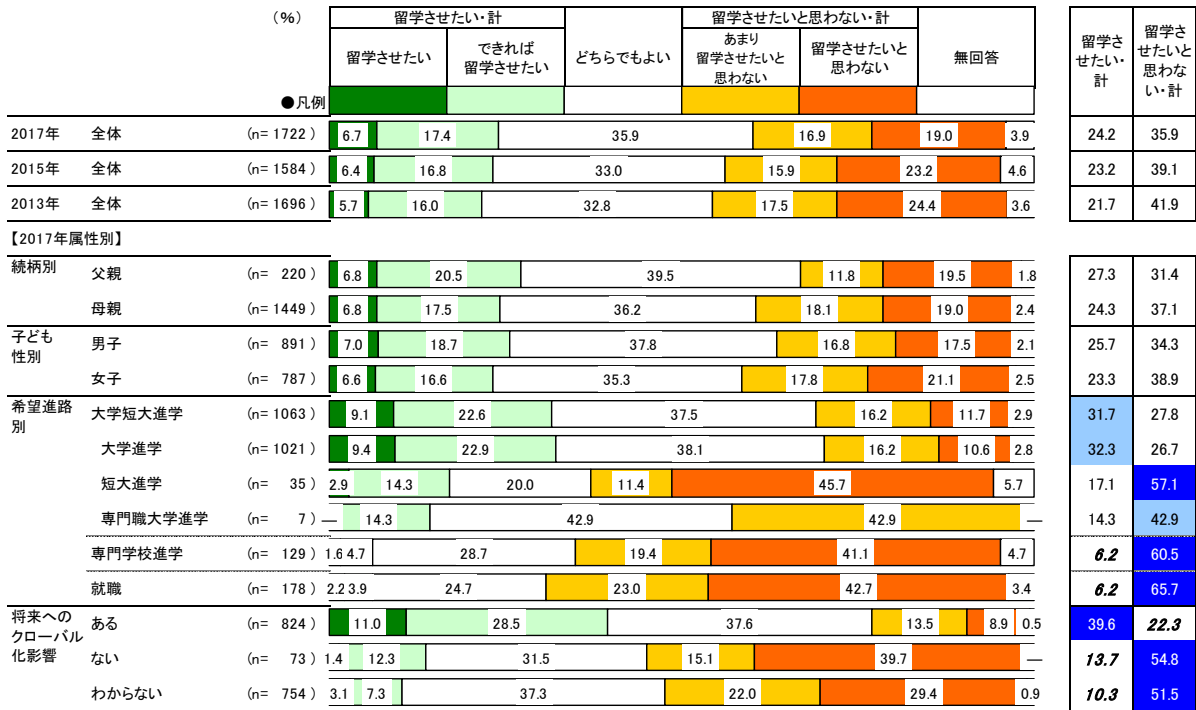
- はっきり言って勉強が嫌いです。まず語学を覚えるのにも時間がかかります。[長崎県/母親/女子/就職]

41.子どもを留学させたいか

▶ 子どもを「留学させたい」と考えている保護者は24%。「留学させたいと思わない」非意向者(36%)が多数派。

- 保護者に子どもを留学させたいか尋ねたところ、「留学させたい」は7%。「できれば留学させたい」(17%)を含め、留学意向「留学させたい・計」は24%。
一方、「留学させたいと思わない」は19%。「あまり留学させたいと思わない」(17%)を含め留学非意向「留学させたいと思わない・計」は36%。非意向の割合が意向を上回る。
- 続柄別にみると、「留学させたい・計」の割合は父親(27%)が母親(24%)よりもやや高い。
- 子どもの性別にみると、「留学させたい・計」の割合は男子(26%)が女子(23%)よりもやや高い。
- 希望進路別では、大学短大進学希望者の32%が「留学させたい・計」。
一方、専門学校進学希望者・就職希望者では「留学させたいと思わない・計」が6割以上を占め、留学に否定的な態度がうかがわれる。

【保護者】 子どもを留学させたいと思うか（全体／単一回答）

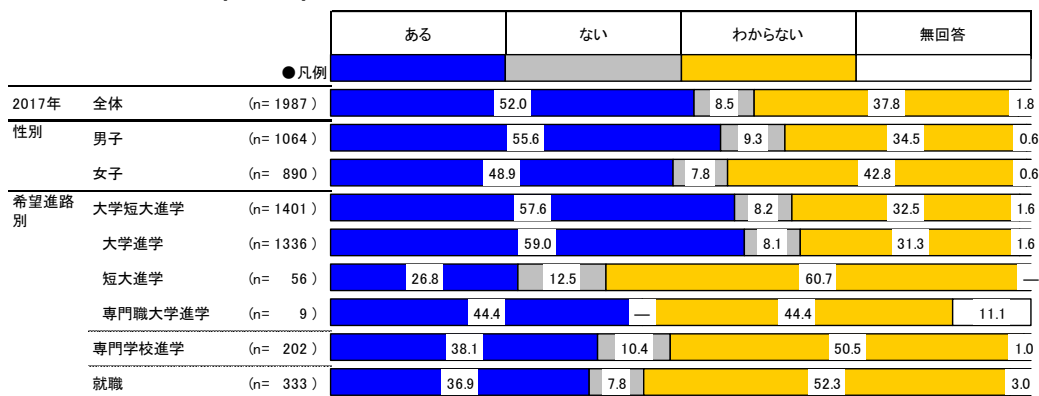


42.AI(人工知能)などの普及・発達の影響があると思うか

▶ 高校生の将来へのAI(人工知能)などの普及・発達の影響について高校生の52%、保護者の39%が「ある」。

- 高校生に自分の将来にAI(人工知能)などの普及・発達の影響があると思うかを尋ねたところ、52%が「ある」と回答。次いで、「わからない」(38%)。
- 希望進路別にみると、大学短大進学希望者では「ある」の割合は他層に比べ高く、58%。
- 保護者に対しても同様に、子どもの将来にAI(人工知能)などの普及・発達の影響があると思うか尋ねた。保護者の39%が「ある」と回答。「わからない」が高校生に比べ高く、52%。
- 希望進路別にみると、高校生の回答と同様に大学短大進学希望者で「ある」の割合が他層に比べ高く、46%。
- 高校生・保護者とも影響が「ある」理由としては、「すでに日常接するサービスにAIが導入され、雇用への影響が始まっている」という現状認識が挙げられた。一方で影響は「ない」理由としては、「AIの普及・発達はまだ初期段階」「自分が希望する職業はAIで代替されない(看護師・警察官など)」など、時期尚早とする回答が挙げられた。

【高校生】自分の将来にAI(人工知能)などの普及・発達の影響があると思うか(全体/単一回答)



42 Kh Q32

＜フリーコメント＞ AI(人工知能)の発達などの技術革新の普及・発達は自分の将来に影響についてそう思う理由【高校生】

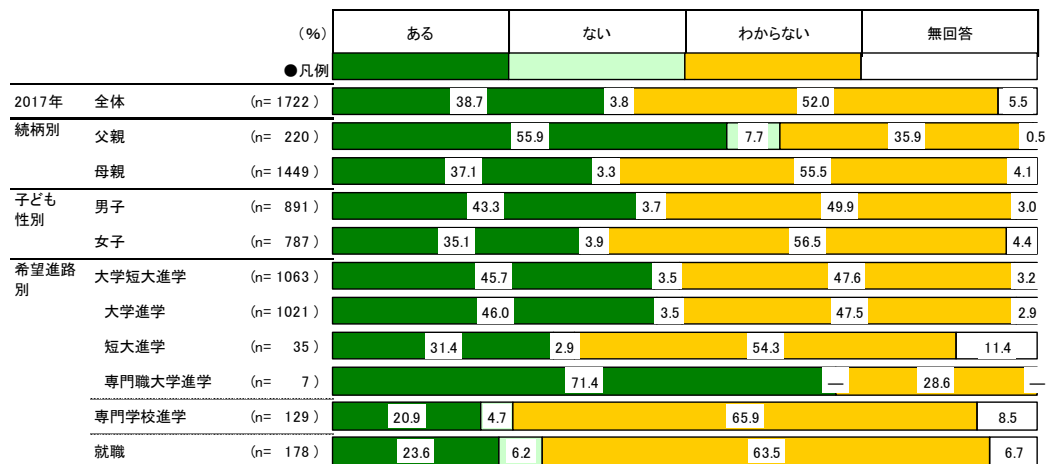
■ある

- 私達の生活の一部で、すでにセルフレジや自動運転車など、AIによるものが増えているので、もっと人間の仕事が奪われると考えるから。[福島県/女子/大学]
- 最近AIの進出により、仕事が奪われる可能性のある人々が話題になっているから。[長崎県/男子/大学]

■ない

- AIが発達してもそれを制御するのは人間でないとはいけなから。[和歌山県/女子/大学]
- 私が目指している分野の仕事はAIにとってかわることができないとされているから。[福島県/女子/大学]

【保護者】子どもの将来にAI(人工知能)などの普及・発達の影響があると思うか(全体/単一回答)



42 Hh Q31

＜フリーコメント＞ AI(人工知能)の発達などの技術革新の普及・発達は自分の将来に影響についてそう思う理由【保護者】

■ある

- 現在も、スーパーのレジ、鉄道の駅員など機械化によって人件費が削減されている。会計士なども不要な時代も近い。影響は必ずあると思います。[和歌山県/父親/男子/大学]
- AIの発達が、人手不足の解消につながるが、同時に雇用にも大きく影響すると思うから。[岡山県/母親/男子/大学]

■ない

- そんなにすぐにAIだけではならない。[福島県/母親/男子/大学]

■わからない

- AIは一部で急速に達展している様だが、まだ入口の段階の気がする。影響を考えるには、まだ早いかと。[東京都/母親/女子/大学]